

観音前遺跡第61地点

発掘調査報告書



2023

富士見市遺跡調査会
関野政男・関野美穂葩

あ い さ つ

埼玉県富士見市は、都心から約30kmのベッドタウンとして開発される一方、今なお「武蔵野」の面影も残り、緑豊かな自然環境とバランスのとれた街に発展してきました。

富士見市は武蔵野台地の北東縁辺部に位置しており、市域は西部の武蔵野台地、東部の荒川低地とに分かれています。台地と低地の境界部は、台地際の湧水と小河川の影響で複雑な地形が造り出されていますが、緑豊かな環境も育んできました。この豊かな自然の中、先史時代から続く人々の営みの痕跡が、貴重な埋蔵文化財として今もなお残されており、水子貝塚（国指定史跡）、難波田氏館跡（県指定旧跡）、打越遺跡、南通遺跡などの著名な遺跡が存在しています。

富士見市遺跡調査会では、埋蔵文化財包蔵地における開発行為に先立ち、市教育委員会の指導の下、記録保存を目的とした発掘調査を行ってきました。今回報告する観音前遺跡第61地点は、市教育委員会の斡旋により当調査会が主体となって、令和3年5月より発掘調査を実施したものです。

観音前遺跡は北東側に荒川低地を臨む武蔵野台地縁辺部に位置し、北西部で東前遺跡、南西部で神明遺跡と隣接しています。これまでの調査で、弥生時代や古墳時代を中心とした遺構が確認されていました。

今回の第61地点は宅地造成及び分譲住宅の建設に伴う調査であり、事業対象地は遺跡北部に位置しております。今回の調査により観音前遺跡の様相について多くの知見を得ることができました。

ここにその成果を報告書として刊行するにあたり、関野政男氏・関野美穂葩氏・株式会社アーネストワンをはじめとして、ご指導、ご協力を賜りました文化庁、埼玉県教育局文化資源課、富士見市教育委員会並びに地元の住民のみなさま、関係各位に厚く御礼申し上げます。

本書が、広く一般の方々にも活用され、埋蔵文化財に対する理解と認識を深める上で参考になれば幸いに存じます。

富士見市遺跡調査会

会 長 山 口 武 士

例 言

1. 本書は埼玉県富士見市大字水子1846番1、1855番1、1855番2、1856番1、1857番、1858番1に所在する観音前遺跡第61地点の発掘調査報告書である。
2. 調査は宅地造成及び分譲住宅の建設に伴う記録保存調査で、富士見市教育委員会の斡旋により、関野政男氏・関野美穂氏が発掘調査を富士見市遺跡調査会に委託して実施した。
3. 発掘調査は令和3年5月10日～6月21日、整理調査は令和4年7月1日～令和5年2月28日まで行った。
4. 調査組織は以下のとおりである。

会	長	山口武士（富士見市教育委員会教育長）
副	会	長 林みどり（富士見市教育委員会教育部長）
		（令和4年3月31日まで）
		磯谷雅之（富士見市教育委員会教育部長）
		（令和4年4月1日から）
理	事	松本伸行（富士見市文化財審議会委員）
		会田 明（元富士見市教育委員会）
		久保田智子（富士見市財政課長）
監	事	佐々木真理子（富士見市文化財審議会委員）
		磯谷雅之（富士見市会計室長）
		（令和4年3月31日まで）
		佐々木恵司（富士見市会計室長）
		（令和4年4月1日から）
事	務	局 長 深迫国宏（富士見市生涯学習課長）
		（令和4年3月31日まで）
		土田宗孝（富士見市生涯学習課長）
		（令和4年4月1日から）
事	務	局 次 長 堀 善之（富士見市生涯学習副課長）
事	務	局 員 佐藤一也（富士見市生涯学習課）
		大野朝日（富士見市生涯学習課）
調	査	担 当 者 佐藤一也・大野朝日
5. 発掘調査及び本書の作成・編集は富士見市遺跡調査会が行い、佐藤が担当した。
6. 本書の遺構及び遺物挿図の指示は以下のとおりである。

（1）図版の縮尺は主に次のとおりである。

遺構配置図 1/600

溝跡・土坑 1/120

住居跡・土坑・溝跡・ピット 1/60

炉跡・カマド 1/30

土器・瓦実測図 1/4及び1/3

土器拓影図・石器・金属製品・土製品実測図
1/3

（2）遺構実測図の水糸高は海拔高を示す。

（3）柱穴内の数字は床面からの深度を示す。
（単位cm）

（4）住居跡名・土坑名・溝跡名は、時代ごとに遺跡内の通し番号になっている。なお、39Hは欠番である。

（5）遺構名の略記号は以下の内容を示す。

H＝平安時代の堅穴住居跡、HD＝平安時代以降の土坑、JD＝縄文時代の土坑、Y＝弥生時代後期の堅穴住居跡

7. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して富士見市文化財整理室に保管してある。

8. 本報告の作成にあたり、第41号住居跡（41H）から出土した炭化材の樹種同定については、パリーノ・サーヴェイ株式会社に委託し、考察は付章として掲載した。

9. 発掘調査及び整理を通じて下記の諸機関・諸氏に御指導・御協力を賜った。（敬称略）

荒井幹夫・越前谷理・大久保淳・大久保聡

岡崎裕子・尾形則敏・加藤秀之・木村 藍

隈本健介・齊藤麻那・菅沼慎太郎・高崎直成

鍋島直久・長谷川賢人・長谷川義行・早坂廣人

柳井章宏・柳沢健司・和田晋治

文化庁・埼玉県教育局文化資源課

富士見市立水子貝塚資料館・難波田城資料館

10. 調査参加者

（調査員）櫻井英史・坪田幹男

（調査協力員）荒居里枝・飯田久子・石上 武

岩瀬直美・海汐亮太・大川早苗・逢坂英明

萩山浩之・小口 広・加藤 守・鈴木美恵子

関谷由枝・萩元哲雄・長谷川雅之・飛田和照美

深谷和江・福田隆司・藤井喜恵子・盛政清美

山口好文・吉田信江

（整理協力員）和泉千珠子・岩崎朝子・今野孝之

白石尚美・鈴木知恵子・萩元智子・山中陽子

結城路子

目 次

あいさつ 例言 目次 図表目次 写真図版目次

第1章 発掘調査の経過	1
第1節 発掘調査に至る経緯.....	1
第2節 発掘調査の経過.....	1
第3節 遺跡の立地と環境.....	2
第2章 発見された遺構と遺物	3
第1節 縄文時代の遺構と遺物.....	3
第2節 弥生時代後期の遺構と遺物.....	4
第3節 平安時代の遺構と遺物.....	17
第4節 その他の遺構と遺物.....	41
付章 自然科学分析（炭化材樹種同定）	55

写真図版 報告書抄録

図 表 目 次

第1図	富士見市内遺跡分布図	
第2図	観音前遺跡第61地点	1
第3図	観音前遺跡第61地点遺構配置図	2
第4図	第8号土坑・第1・2号炉跡(8JD)	3
第5図	第53号住居跡及び出土遺物(53Y)	4
第6図	第54号住居跡(54Y)	5
第7図	第54号住居跡及び出土遺物(54Y)	6
第8図	第55号住居跡(55Y)	7
第9図	第55号住居跡及び出土遺物(55Y)	8
第10図	第56号住居跡(56Y)	9
第11図	第56号住居跡及び出土遺物(56Y)	10
第12図	第57号住居跡・第39号住居跡(57Y・39H)	12
第13図	第58号住居跡及び出土遺物(58Y)	13
第14図	第59号住居跡・第24号溝跡・第1号ピット (59Y・24M・Pit1)	15
第15図	第60号住居跡及び出土遺物(60Y)	16
第16図	第36号住居跡1(36H)	18
第17図	第36号住居跡及び出土遺物(36H)	19
第18図	第36号住居跡2(36H)	20
第19図	第36号住居跡3(36H)	21
第20図	第37号住居跡(37H)	23
第21図	第37号住居跡及び出土遺物(37H)	24
第22図	第37号住居跡出土遺物1(37H)	25
第23図	第37号住居跡出土遺物2(37H)	26
第24図	第38号住居跡(38H)	29
第25図	第38号住居跡出土遺物1(38H)	30
第26図	第38号住居跡出土遺物2(38H)	31
第27図	第40号住居跡1(40H)	32
第28図	第40号住居跡2(40H)	33
第29図	第40号住居跡出土遺物(40H)	34
第30図	第41号住居跡(41H)	36
第31図	第41号住居跡及び出土遺物(41H)	37
第32図	第42号住居跡(42H)	39
第33図	第42号住居跡及び出土遺物(42H)	40
第34図	第23号溝跡・第25号土坑及び第23号溝跡出土遺物 (23M・25HD)	42
第35図	第25号溝跡(25M)	43
第36図	第26号溝跡(26M)	43
第37図	第18～27号土坑及び第18号土坑出土遺物 (18～27HD)	45

第38図	第28～33号土坑(28～33HD)	46
第39図	第2～7号ピット(Pit2～Pit7)	47
第40図	遺構外出土遺物	48
第41図	遺構外出土陶磁器1(1/3)	49
第42図	遺構外出土陶磁器2(1/3)	50
第43図	遺構外出土陶磁器3(1/3)	51
第44図	炭化材	56

第1表	第53号住居跡(53Y)出土土器観察表	4
第2表	第54号住居跡(54Y)出土土器観察表	6
第3表	第55号住居跡(55Y)出土土器観察表	8
第4表	第56号住居跡(56Y)出土土器観察表	11
第5表	第58号住居跡(58Y)出土土器観察表	11
第6表	第60号住居跡(60Y)出土土器観察表	14
第7表	第36号住居跡(36H)出土土器観察表	17
第8表	第36号住居跡(36H)出土瓦観察表	17
第9表	第37号住居跡(37H)出土土器観察表	22
第10表	第37号住居跡(37H)出土金属製品観察表	26
第11表	第37号住居跡(37H)出土土製品観察表	26
第12表	第37号住居跡(37H)出土石器観察表	26
第13表	第37号住居跡(37H)出土瓦観察表	27
第14表	第38号住居跡(38H)出土土器観察表	27
第15表	第38号住居跡(38H)出土瓦観察表	28
第16表	第38号住居跡(38H)出土土器観察表	28
第17表	第38号住居跡(38H)出土土製品観察表	28
第18表	第38号住居跡(38H)出土石器観察表	28
第19表	第40号住居跡(40H)出土土器観察表	34
第20表	第40号住居跡(40H)出土瓦観察表	34
第21表	第41号住居跡(41H)出土土器観察表	35
第22表	第42号住居跡(42H)出土土器観察表	38
第23表	第23号溝跡(23M)出土瓦観察表	41
第24表	第18号土坑(18HD)出土土器観察表	47
第25表	遺構外出土土器観察表	48
第26表	遺構外出土陶磁器観察表1	52
第27表	遺構外出土陶磁器観察表2	53
第28表	遺構外出土陶磁器観察表3	54
第29表	樹種同定結果	55

写真図版目次

写真図版 1

- 〔1〕 第53号住居跡完掘状況 (53 Y)
- 〔2〕 第54号住居跡完掘状況 (54 Y)
- 〔3〕 第54号住居跡遺物出土状況 (54 Y)
- 〔4〕 第55号住居跡完掘状況 (55 Y)
- 〔5〕 第55号住居跡遺物出土状況 1 (55 Y)
- 〔6〕 第55号住居跡遺物出土状況 2 (55 Y)
- 〔7〕 第55号住居跡炉跡完掘状況 (55 Y)
- 〔8〕 第55号住居跡炉跡断割状況 (55 Y)

写真図版 2

- 〔1〕 第56号住居跡完掘状況 (56 Y)
- 〔2〕 第39・57号住居跡完掘状況 (39 H・57 Y)
- 〔3〕 第58号住居跡完掘状況 (58 Y)
- 〔4〕 第59号住居跡・第24号溝跡完掘状況 (59 Y・24M)
- 〔5〕 第60号住居跡完掘状況 1 (60 Y)
- 〔6〕 第60号住居跡完掘状況 2 (60 Y)
- 〔7〕 第36号住居跡完掘状況 (36 H)
- 〔8〕 第36号住居跡遺物出土状況 (36 H)

写真図版 3

- 〔1〕 第36号住居跡カマド完掘状況 (36 H)
- 〔2〕 第36号住居跡カマド遺物出土状況 (36 H)
- 〔3〕 第37号住居跡完掘状況 (37 H)
- 〔4〕 第37号住居跡遺物出土状況 (37 H)
- 〔5〕 第37号住居跡調査風景 (37 H)
- 〔6〕 第38号住居跡遺物出土状況 1 (38 H)
- 〔7〕 第38号住居跡遺物出土状況 2 (38 H)
- 〔8〕 第38号住居跡遺物出土状況 3 (38 H)

写真図版 4

- 〔1〕 第38号住居跡調査風景 (38 H)
- 〔2〕 第40号住居跡完掘状況 (40 H)
- 〔3〕 第41号住居跡完掘状況 (41 H)
- 〔4〕 第41号住居跡遺物出土状況 1 (41 H)
- 〔5〕 第41号住居跡遺物出土状況 2 (41 H)
- 〔6〕 第41号住居跡遺物出土状況 3 (41 H)
- 〔7〕 第41号住居跡炭化材出土状況 1 (41 H)
- 〔8〕 第41号住居跡炭化材出土状況 2 (41 H)

写真図版 5

- 〔1〕 第42号住居跡遺物出土状況 (42 H)
- 〔2〕 第42号住居跡カマド土層断面状況 (42 H)
- 〔3〕 第25号溝跡土層断面状況 (25M)
- 〔4〕 調査区西部終了状況 (南から)
- 〔5〕 調査区西部終了状況 (北から)
- 〔6〕 調査区中央部終了状況 (37 H・60 Y)
- 〔7〕 調査区中央部終了状況 (西から)
- 〔8〕 調査区中央部終了状況 (南から)

写真図版 6

- 〔1〕 第53号住居跡出土遺物 (53 Y) (No.1)
- 〔2〕 第60号住居跡出土遺物 (60 Y) (No.11)
- 〔3〕 第37号住居跡出土遺物 (37 H) (No.20)
- 〔4〕 第37号住居跡出土遺物 (37 H) (No.28)
- 〔5〕 第37号住居跡出土遺物 凹面 (37 H) (No.38)
- 〔6〕 第37号住居跡出土遺物 凸面 (37 H) (No.38)
- 〔7〕 第38号住居跡出土遺物 (38 H) (No.44)
- 〔8〕 第38号住居跡出土遺物 (38 H) (No.51)

写真図版 7

- 〔1〕 第38号住居跡出土遺物 凹面 (38 H) (No.53)
- 〔2〕 第38号住居跡出土遺物 凸面 (38 H) (No.53)
- 〔3〕 第41号住居跡出土遺物 (41 H) (No.70)
- 〔4〕 第41号住居跡出土遺物 墨書 (41 H) (No.70)
- 〔5〕 第41号住居跡出土遺物 (41 H) (No.71)
- 〔6〕 第41号住居跡出土遺物 墨書 (41 H) (No.71)
- 〔7〕 第41号住居跡出土遺物 (41 H) (No.76)
- 〔8〕 第42号住居跡出土遺物 (42 H) (No.83)

1 オトウカ山 2 中沢 3 稲荷久保南 4 南武蔵野
 5 稲荷久保北 6 外記塚 7 市街道 8 稲荷前
 9 鍛冶海戸 10 宮廻 11 伊佐島 12- 13 薬師前
 14 西渡戸 15 渡戸 16 東渡戸 17 羽沢 18 上沢
 19 浅間後 20 羽沢前 21 山室 22 大谷 23 山室谷
 24 平塚 25 宮脇 26 黒貝戸 27 折戸 28 宿(多門氏館跡)
 29 殿山 30 谷津 31 御庵 32 新田 33 八ヶ上 34 本目
 35 節沢 36 関沢 37 新開 38 松ノ木 39 打越 40 松山
 41 氷川前 42 水子貝塚 43 東前 44 観音前 45 神明
 46 東台 47 正網 48 正網南 49 栗谷ツ 50 別所
 51 北通 52 南通 53 上内手 54 山形 55 難波田氏館跡
 56 貝塚山 57 西ノ原 58 東久保南 59 山崎 60 権平沢



第1図 富士見市内遺跡分布図 (1/30000)

第1章 発掘調査の経過

第1節 発掘調査に至る経緯

埼玉県富士見市は、県域南東部、都心から約30km圏内に位置している。面積は約19.7km²、人口11万人を超えている。

富士見市は、東に荒川を挟んでさいたま市、南は柳瀬川を挟んで志木市、北はふじみ野市、西はふじみ野市・三芳町と接する。市域の中央部には荒川支流の新河岸川が南北に貫流し、荒川と新河岸川により形成された標高6m前後の「荒川低地」と呼ばれる沖積地が市域東半部に広がっている。また、市域西半部は武蔵野台地の北東縁部にあたり、標高20m前後を測る。この武蔵野台地の縁辺部には、新河岸川に注ぐ小河川の浸食作用や湧水により、多くの小支谷が形成されており、複雑な地形を呈している。

富士見市の遺跡は59カ所を数え、その多くは市域西部の武蔵野台地縁辺部に集中しており、旧石器時代から江戸時代までの遺跡が確認されている。また市域東部では、新河岸川沿いの自然堤防を中心に4遺跡が確認され、弥生時代後期～古墳時代初頭、平安時代、中近世の遺跡が確認される。

富士見市では昭和30年代後半頃からベッドタウンとして、東部東上線沿線を中心に急激な宅地等の開発が行われてきたが、駅周辺から離れた地域では畑地がよく残されていた状況であった。しかし、平成22年11月、水子地区が市街化区域に再編入されたことによる開発が増加し、広大な畑地が残る水子地区に所在する観音前遺跡でも開発行為が増加している。

第61地点は、宅地造成及び分譲住宅の建設を目的として、令和2

年11月20日に関野政男氏・関野美穂氏より、埋蔵文化財開発行為事前協議書が富士見市教育委員会に提出された。面積は2,581㎡を測る。

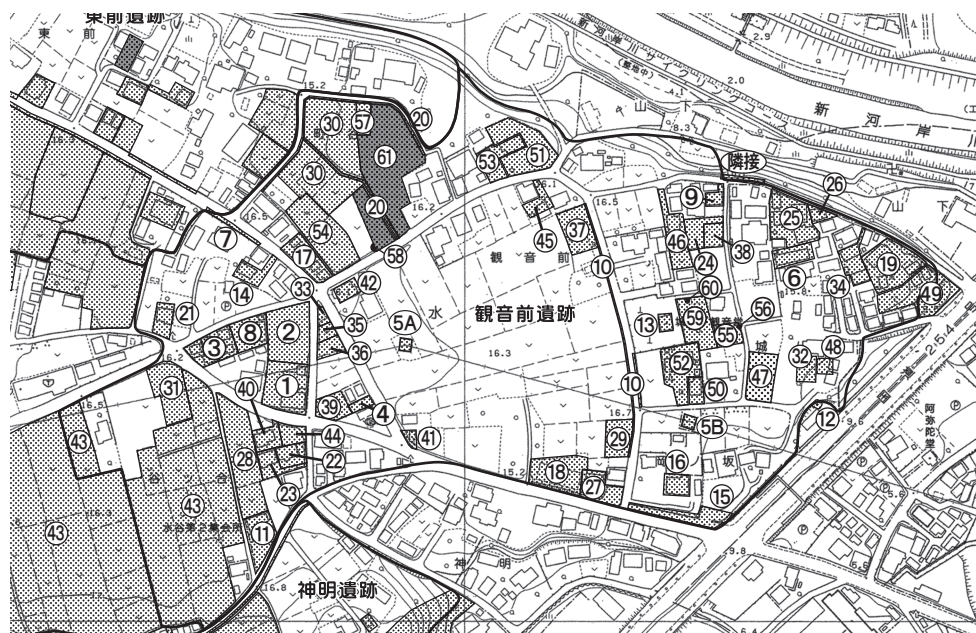
富士見市教育委員会では、令和3年2月16日～2月22日に事業予定地内にて試掘調査を行い、その結果、弥生時代・平安時代の遺構と遺物と近世以降の遺物が確認された。

市教育委員会による試掘調査の結果を基に、確認された埋蔵文化財の取り扱いについて市教育委員会と事業者・土地所有者との間で、保存方法・調査方法・調査期間・調査経費等について協議を行った結果、記録保存を目的とした発掘調査を実施することになり、調査は富士見市遺跡調査会に斡旋することになった。

富士見市遺跡調査会では、富士見市教育委員会からの斡旋を受け入れ、事業者と当調査会との間で、発掘調査事業についての契約を締結した。

第2節 発掘調査の経過

発掘調査は試掘調査の結果を基に、遺構が確認された部分を中心に令和3年5月10日から重機を使用して表土除去を行った。確認された弥生時代後期の住居跡や平安時代の住居跡等について、5月17日から遺構の掘削を行い、その後6月21日に調査を終了した。



第2図 観音前遺跡第61地点 (1/5000)

第3節 遺跡の立地と環境

観音前遺跡は、市域南部の大字水子に位置し、武蔵野台地縁辺部に立地している。北東側に新河岸川と荒川低地、南側に柳瀬川と柳瀬川に開析された支谷を臨み、低地と支谷によって画された台地先端部に立地する。遺跡の北西側で東前遺跡、南西側で神明遺跡とそれぞれ接している。

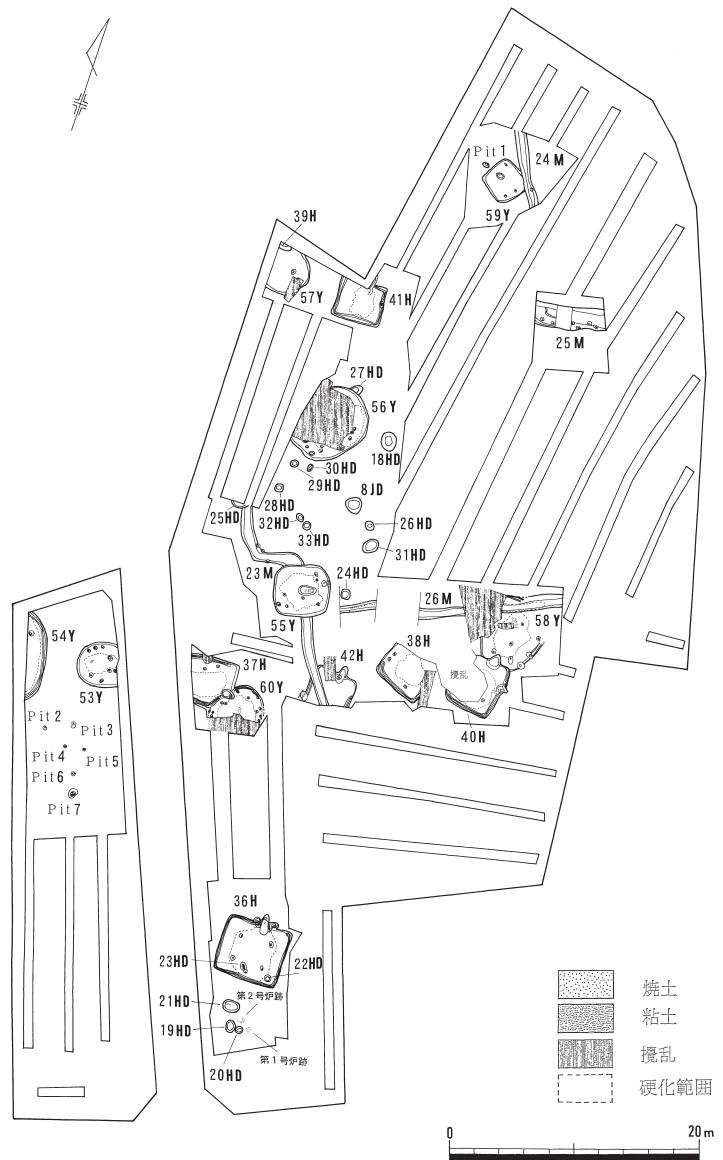
これまでに60地点の調査が実施され、弥生時代後期～古墳時代初頭と古墳時代後期を中心とした集落跡であることが明らかとなっている。

遺跡中央部の第10地点で弥生時代後期の環壕と思われる溝跡と多数の竪穴住居跡が確認され、環壕集落と予想されている。また、第52地点においても現状保存の為に発掘調査未実施であるものの、試掘調査時に環壕と思われる断面形がV字形の溝跡が確認されている。

古墳時代後期では、遺跡南部を中心に竪穴住居跡が確認され、柳瀬川を挟んだ対岸に所在する古墳時代後期の大規模集落である志木市城山遺跡等の関連が着目される。

また、当遺跡を含む周辺には江戸時代末から大正時代に栄えた新河岸川舟運の河岸場の一つ、山下河岸が立地する。そのため直接的な関連は不明なものの、当遺跡内からは多くの同時代の陶磁器類破片が出土している。

当遺跡北西部に位置する今回の第61地点では、縄文時代の土坑1基と炉跡2基、弥生時代後期の竪穴住居跡8軒と平安時代の竪穴住居跡7軒等が確認され、当遺跡北部の土地利用について新たな知見を得ることができた。



第3図 観音前遺跡第61地点遺構配置図 (1/300)

第2章 発見された遺構と遺物

第1節 縄文時代の遺構と遺物

1. 土坑

第8号土坑（8JD）（第4図）

〔位置〕 調査区中央部

〔構造〕 規模は長径127cm、短径123cm、深さ41cmを測る。主軸方位はN-36°-W。平面形は円形を呈する。

〔覆土〕 黒褐色土を基調とし、4層に分層される。

〔遺物出土状況〕 覆土中から縄文土器片が少量出土している。細片の為、図示できなかった。

〔時期〕 縄文時代

2. 炉跡

第1号炉跡（第4図）

〔位置〕 調査区南部

〔構造〕 平面形が径45cmの円形の範囲で、赤変硬化した焼土を確認した。

〔遺物出土状況〕 皆無

〔時期〕 縄文時代か

〔備考〕 出土遺物が皆無であるものの、焼土の様子などから縄文時代の帰属とした。

第2号炉跡（第4図）

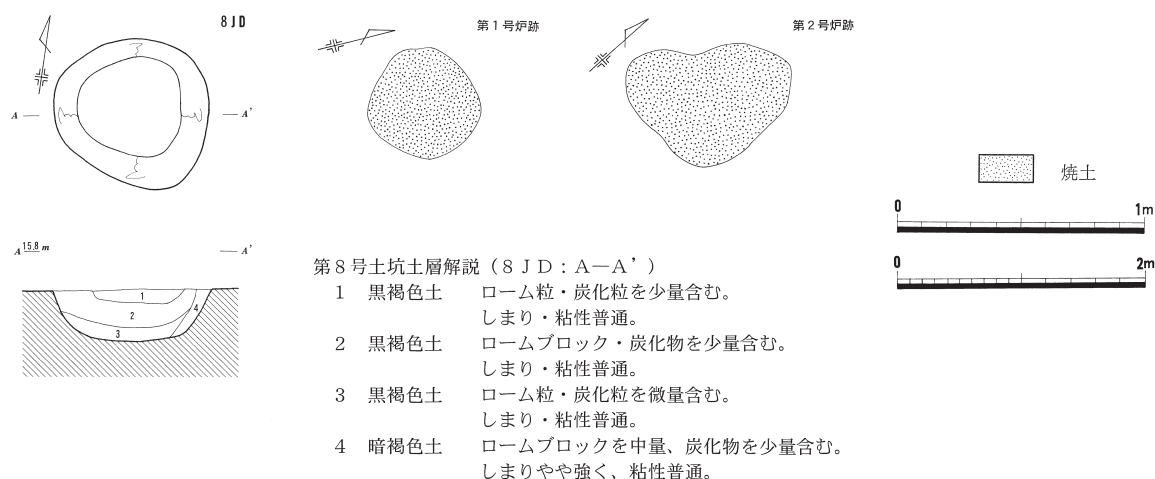
〔位置〕 調査区南部

〔構造〕 平面形が長軸66cm、短軸51cmの不整形の範囲で、赤変硬化した焼土を確認した。

〔遺物出土状況〕 皆無

〔時期〕 縄文時代か

〔備考〕 出土遺物が皆無であるものの、焼土の様子などから縄文時代の帰属とした。



第4図 第8号土坑・第1・2号炉跡（8JD：1/30、1/60）

第2節 弥生時代後期の遺構と遺物

第53号住居跡（53 Y）（第5図）

〔位置〕 調査区西部

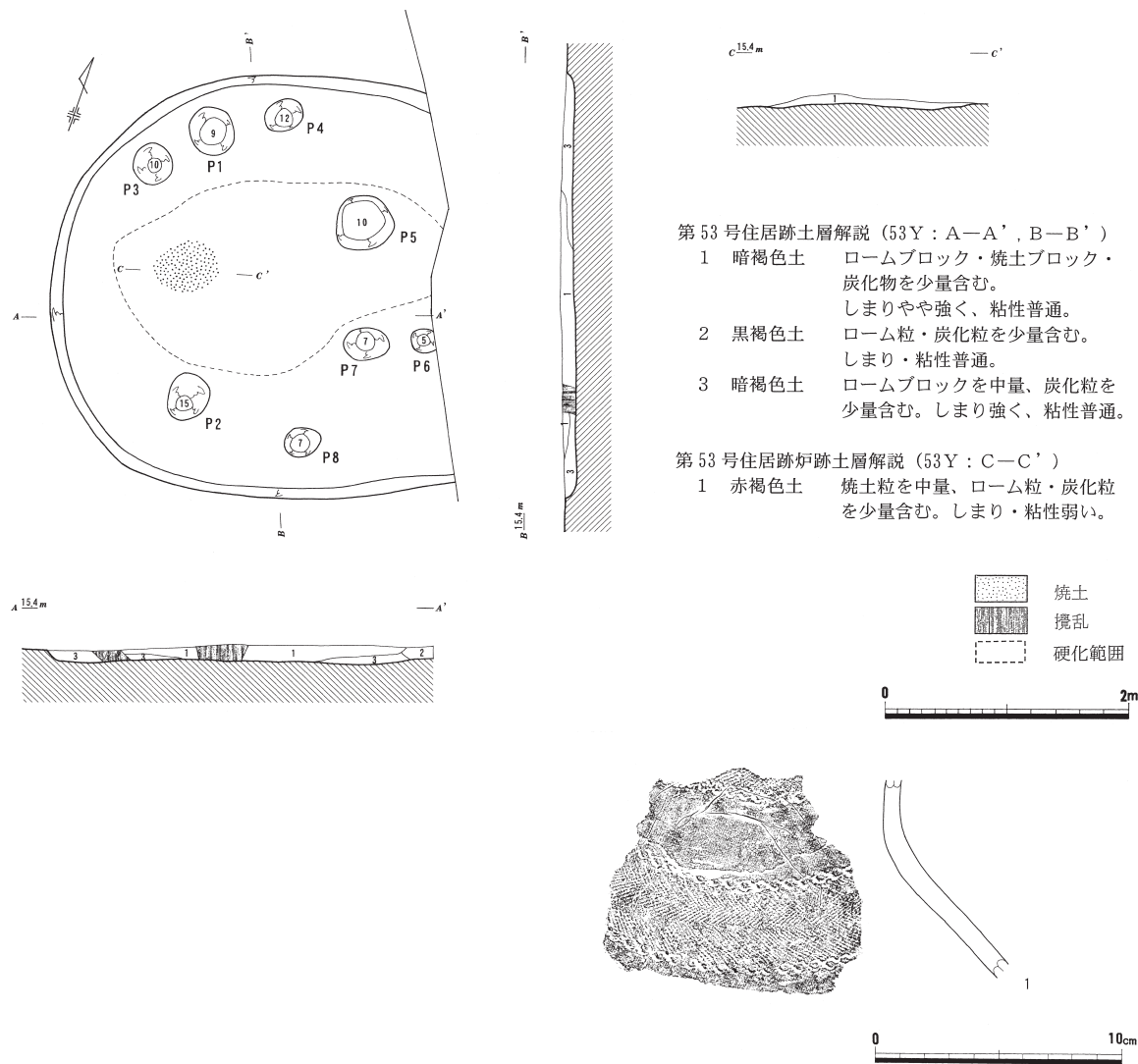
〔構造〕（平面形）楕円形。東部は調査区域外へ延びている。（規模）確認できる範囲で、長径3.3m以上×短径3.5m（主軸方位）N-86°-E（壁高）床面から6～16cmを測る。（床）やや凹凸があり、住居跡中央部で硬化範囲を確認した。（炉）地床炉で、住

居跡西部に位置する。規模は長径53cm×短径43cmの楕円形を呈する。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。（柱穴）P1・P2は主柱穴と考えられ、深さ9cm・15cmをそれぞれ測る。P3～P8は性格不明のピットで、深さ5～12cmを測る。

〔覆土〕 暗褐色土を基調とし、3層に分層される。

〔遺物出土状況〕 1は壺の頸部で、覆土中から出土している。

〔時期〕 弥生時代後期



第5図 第53号住居跡及び出土遺物（53 Y：1/60、1/3）

No.	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	色調	胎土	備考
1	壺	—	—	（7.0）	暗褐色	長石 石英 小礫 白色粒子 赤色粒子	外面：羽状縄文 赤彩 内面：被熱による剥離顕著

※（ ）は現存の規格

第1表 第53号住居跡（53 Y）出土土器観察表

第54号住居跡（54 Y）（第6・7図）

[位置] 調査区西部

[構造] (平面形) 楕円形か。西半部は調査区域外へ延びている。(規模) 確認できる範囲で、長径6.9m以上×短径1.7m以上(主軸方位) N-22°-W(壁高) 床面から50~68cmを測る。(壁溝) 壁際に沿っ

て確認した。(床) 凹凸があり、壁際を除いて硬化範囲を確認した。(柱穴) P1は主柱穴で、深さ70cmを測る。

[覆土] 褐色土を基調とし、25層に分層される。不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

[遺物出土状況] 住居跡南東部を中心とした覆土下層



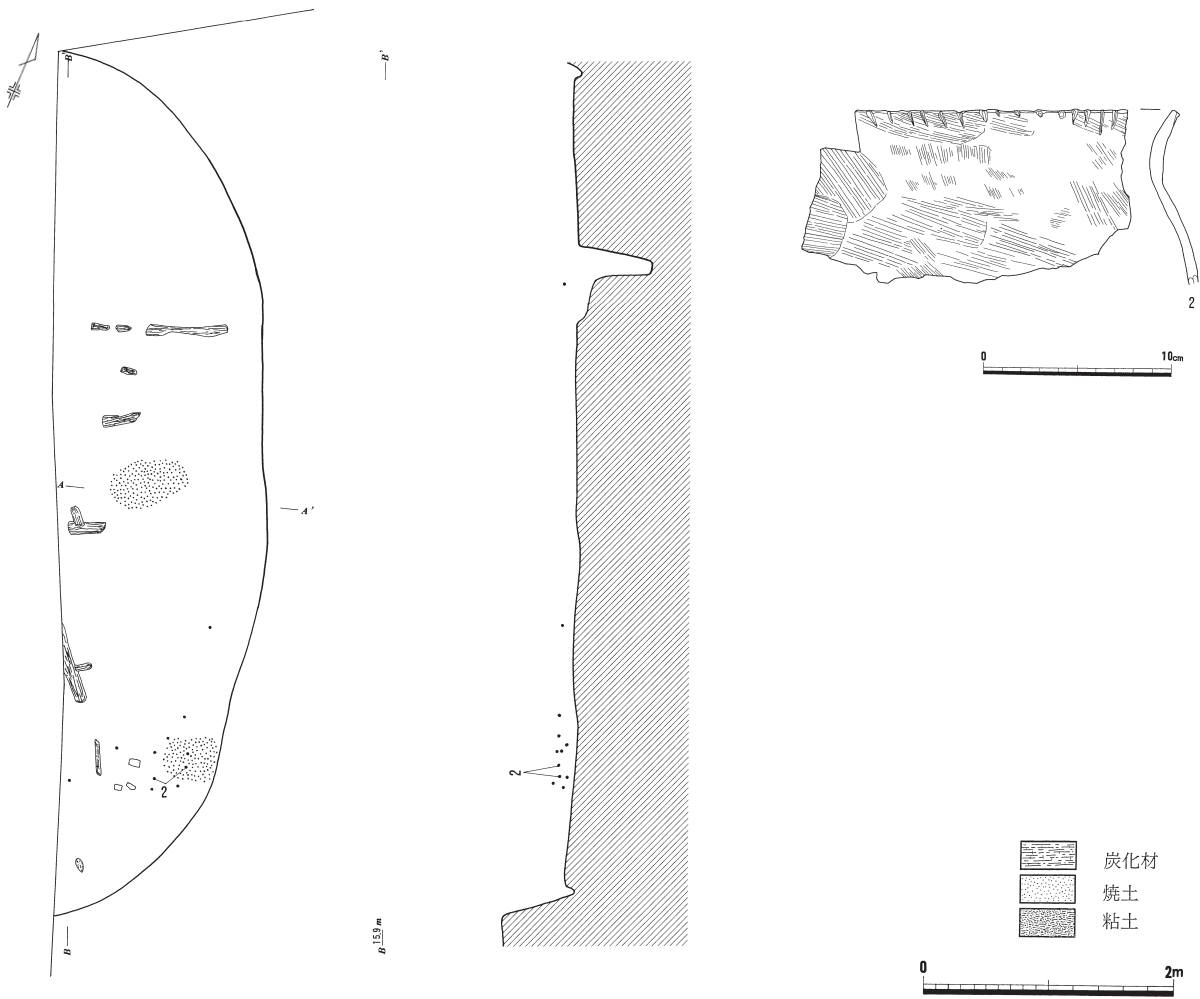
第54号住居跡土層解説（54 Y：A-A'，B-B'）

- | | |
|---------|--|
| 1 暗褐色土 | ローム粒を微量含む。
しまりやや強く、粘性普通。 |
| 2 暗褐色土 | ローム粒を少量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 3 褐色土 | ローム粒を中量含む。
しまり強く、粘性普通。 |
| 4 褐色土 | ローム粒を微量含む。
しまりやや強く、粘性普通。 |
| 5 褐色土 | ロームブロックを少量、炭化粒を微量含む。しまり・粘性普通。 |
| 6 褐色土 | ローム粒を中量、炭化物を微量含む。
しまり強く、粘性普通。 |
| 7 褐色土 | ロームブロックを少量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 8 暗褐色土 | ローム粒を微量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 9 褐色土 | ロームブロックを少量、炭化物を微量含む。しまり・粘性普通。 |
| 10 褐色土 | ロームブロック・炭化粒を微量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 11 暗褐色土 | ロームブロックを中量、炭化物を少量含む。しまり・粘性普通。 |
| 12 褐色土 | 炭化物を少量、ローム粒を微量含む。
しまりやや弱く、粘性普通。 |
| 13 暗褐色土 | 炭化物・ローム粒・焼土粒を少量含む。しまり・粘性普通。 |
| 14 暗褐色土 | 炭化物を少量、ローム粒を微量含む。
しまりやや弱く、粘性普通。 |
| 15 暗褐色土 | ローム粒・炭化粒を微量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 16 暗褐色土 | ロームブロックを中量、炭化物を微量含む。
しまりやや強く、粘性普通。 |
| 17 暗褐色土 | ロームブロックを中量、炭化物を少量含む。
しまりやや強く、粘性普通。 |
| 18 暗褐色土 | ロームブロックを少量、炭化物を微量含む。
しまりやや強く、粘性普通。 |
| 19 褐色土 | ローム粒を少量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 20 褐色土 | ローム粒・炭化粒・焼土粒を微量含む。しまり・粘性普通。 |
| 21 褐色土 | 炭化粒を少量、ローム粒を微量含む。しまり・粘性普通。 |
| 22 赤褐色土 | 焼土ブロックを多量、炭化粒を少量含む。しまり・粘性弱い。 |
| 23 褐色土 | ロームブロックを微量含む。
しまりやや強く、粘性弱い。 |
| 24 褐色土 | ロームブロックを多量、炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性普通。 |
| 25 褐色土 | ロームブロックを中量、焼土粒を少量、炭化物を微量含む。
しまり・粘性普通。 |

第6図 第54号住居跡（54 Y：1/60）

から土器片が出土している。2は土師器甕の口縁部で、南東部の覆土下層から出土している。また、北部を除いた覆土下層から焼土塊や炭化材が出土している。

[時期] 弥生時代後期



第7図 第54号住居跡及び出土遺物（54 Y：1/60、1/4）

No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
2	甕	—	—	(9.3)	黒褐色	石英 砂粒 白色粒子	外内面：刷毛目

※（ ）は現存の規格

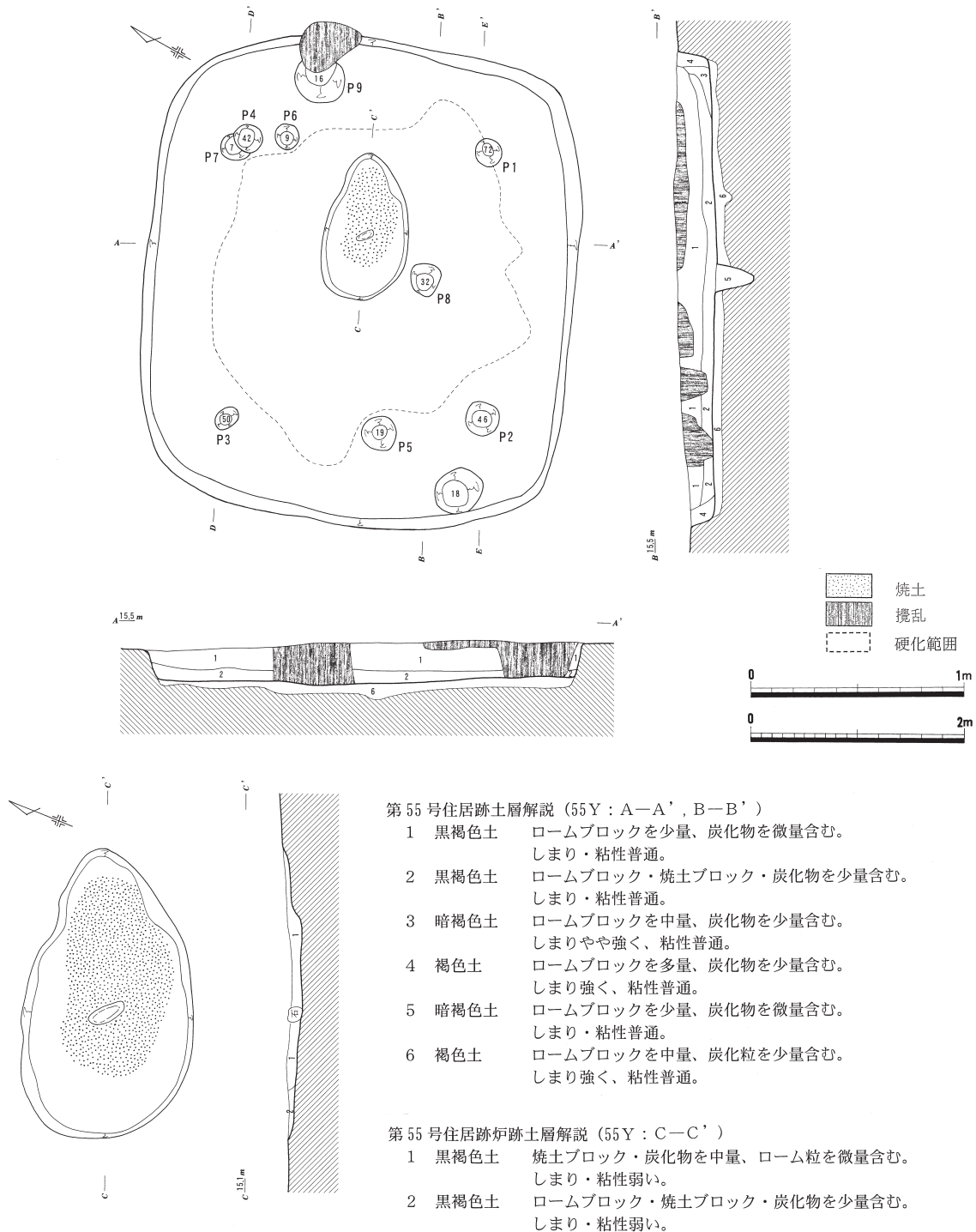
第2表 第54号住居跡（54 Y）出土土器観察表

第55号住居跡（55Y）（第8・9図）

[位置] 調査区中央部

[構造] (平面形) 隅丸方形 (規模) 長軸4.5m×短軸4.0m (主軸方位) N-71°-E (壁高) 床面から22~30cmを測る。(床) 平坦で、ロームブロックや炭化粒を含んだ第6層を埋め戻して床を構築してい

る。壁際を除いて硬化範囲を確認した。(炉) 地床炉で、住居跡中央部北東寄りに位置する。規模は長径135cm×短径81cmの楕円形を呈する。炉床面は火熱を受けて赤変硬化し、炉床面中央部には被熱した礫が置かれていた。(貯蔵穴) 住居跡南西壁際に位置する。規模は長径45cm、短径43cmの円形を呈し、



第8図 第55号住居跡 (55Y: 1/30、1/60)

深さは18cmを測る。(柱穴) P 1～P 4は主柱穴で、深さ42～72cmを測る。P 5は出入り口施設に伴うピットと考えられ、深さ19cmを測る。P 6～P 9は性格不明のピットで、深さ7～32cmを測る。

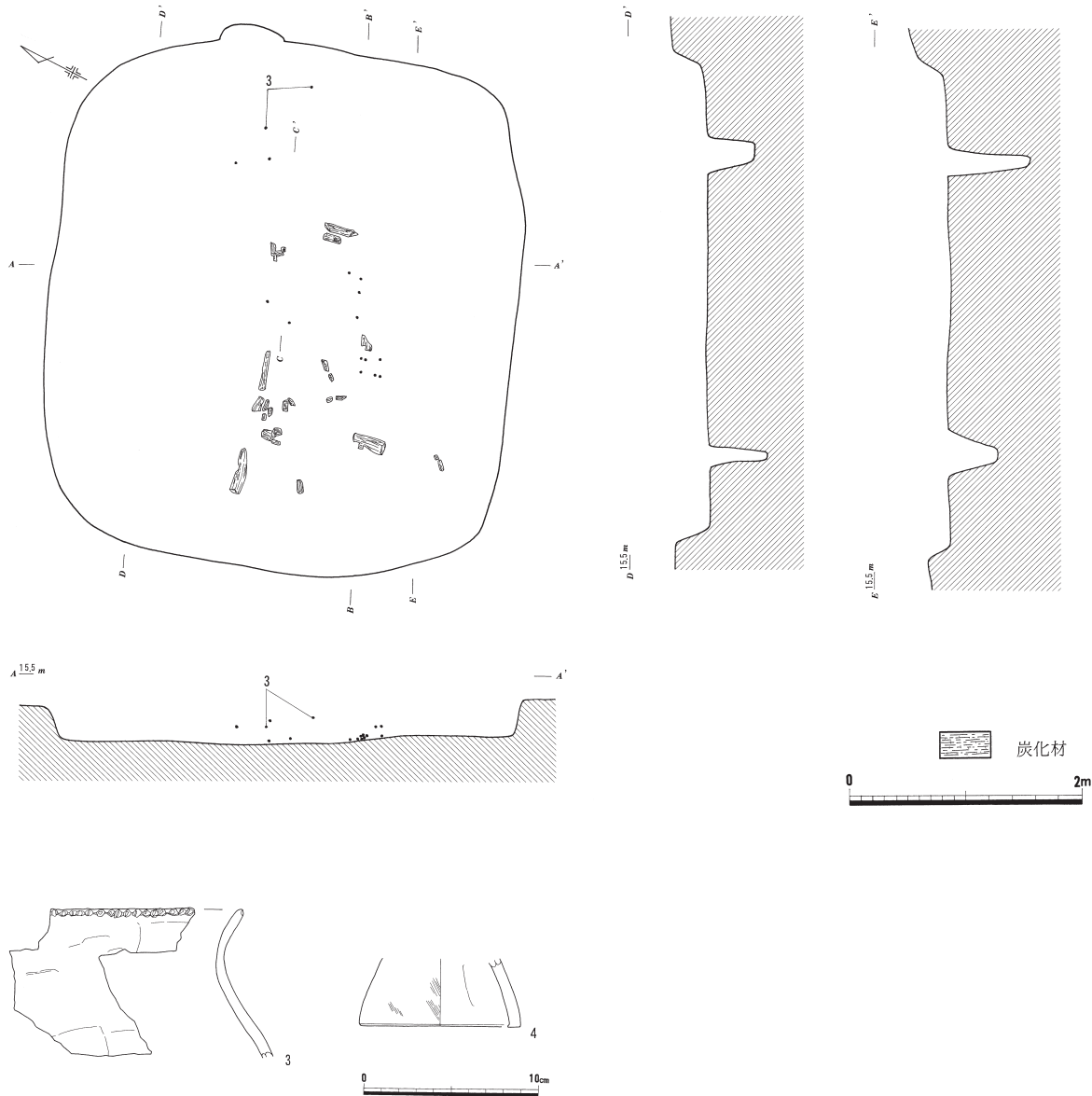
[覆土] 黒褐色土を基調とし、5層に分層される。

[遺物出土状況] 住居跡中央部の覆土下層及び北部の覆土中層から土器片が出土し、3は住居跡北部の覆

土中層から出土している。住居跡中央部から南部にかけての覆土下層から炭化材が出土している。

[時期] 弥生時代後期

[備考] 第23号溝(23M)に掘り込まれている。本来本跡の土層に第23号溝(23M)の掘り込みが確認されるはずであるが、調査段階では確認できなかった。



第9図 第55号住居跡及び出土遺物(55Y:1/60、1/4)

No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
3	甕	—	—	(8.4)	暗褐色	石英 砂粒 小礫 白色粒子 赤色粒子	外面：ヘラ削り ヘラナデ 口唇部外面：刻み 内面：ヘラナデ
4	台付甕	—	9.2	(3.8)	黄褐色	石英 小礫 白色粒子	外面：刷毛目 内面：ヘラナデ

※ () は現存の規格

第3表 第55号住居跡(55Y)出土土器観察表

第56号住居跡（56 Y）（第10・11図）

〔位置〕 調査区中央部

〔構造〕（平面形）楕円形（規模）住居跡中央部から西部が攪乱され、また住居跡西部が調査区域外へ延びているため、確認できた範囲で長径6.2m、短径4.4m以上である。（主軸方位）N-23°-E（壁高）床面から26～28cmを測る。（床）平坦で、ロームブロックや炭化粒を含んだ第5層を埋め戻して床を構築している。壁際を除いて硬化範囲を確認した。（柱穴）P1・P2は主柱穴と考えられ、深さ56cm・

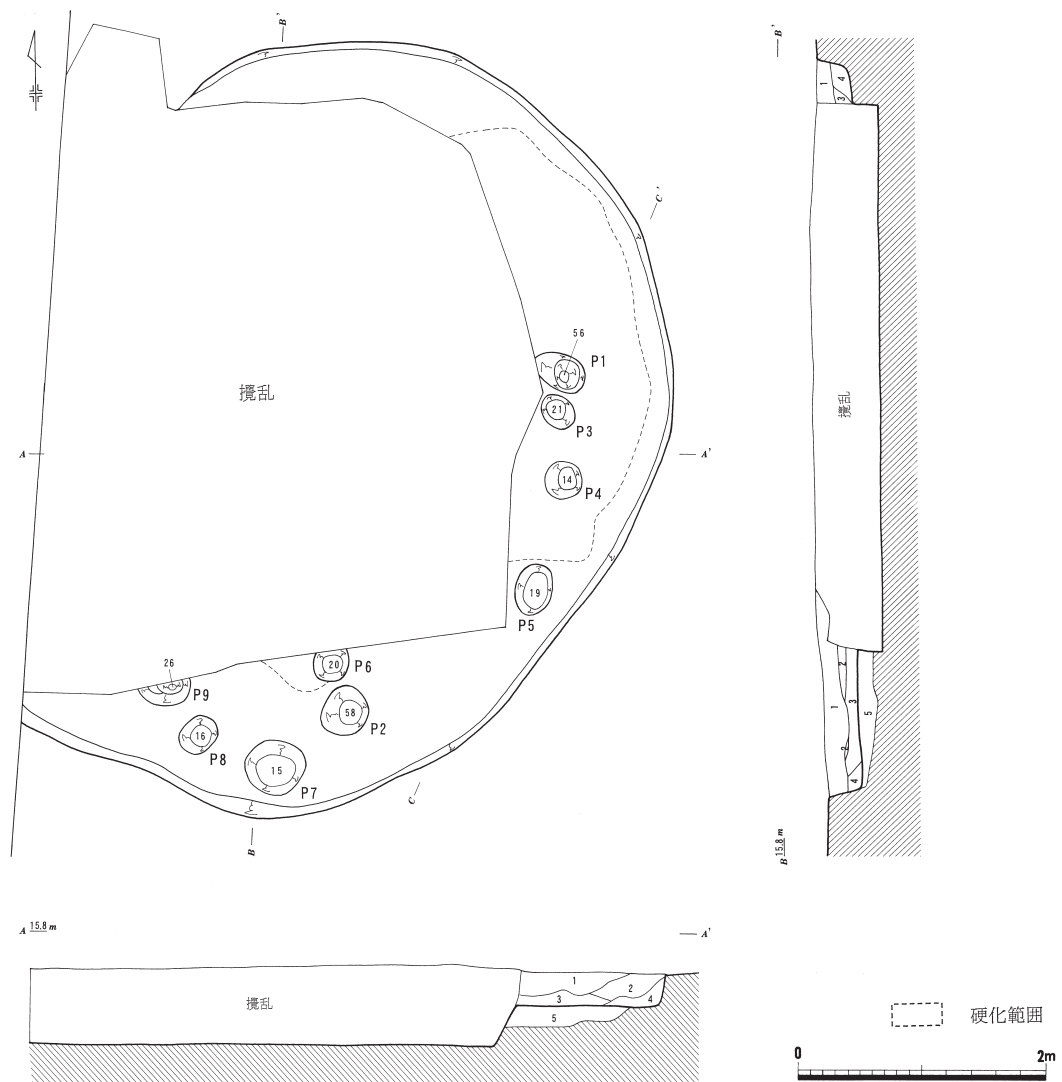
58cmをそれぞれ測る。P3～P9は性格不明のピットで、深さ14～26cmを測る。

〔覆土〕 暗褐色土を基調とし、4層に分層される。

〔遺物出土状況〕 住居跡東部と南東部の覆土中層から下層にかけて土器片が出土している。5は住居跡南東部の覆土下層から、6は住居跡東部壁際の覆土中層から、7は住居跡東部の覆土下層からそれぞれ出土している。

〔時期〕 弥生時代後期

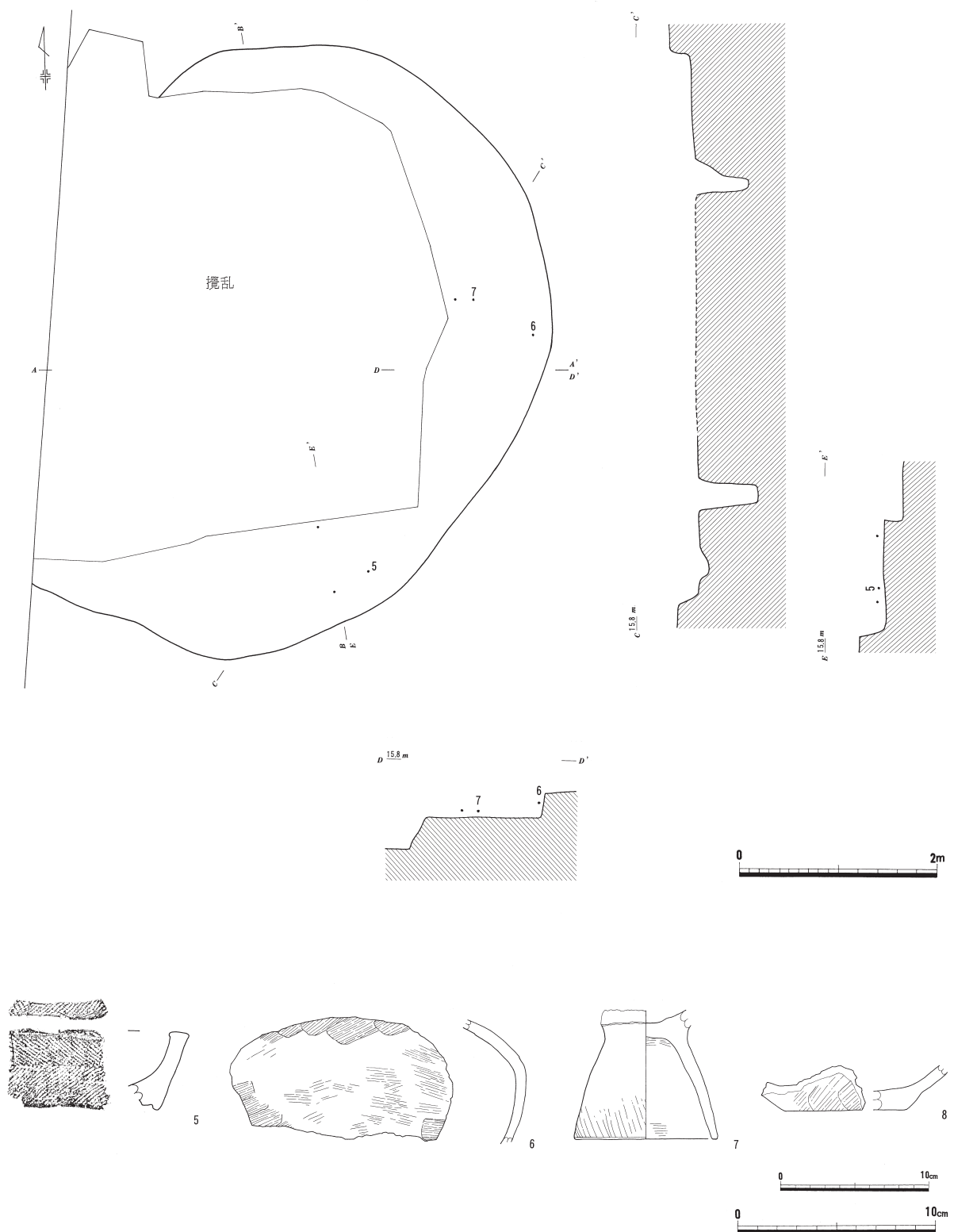
〔備考〕 第27号土坑（27HD）に掘り込まれている。



第56号住居跡土層解説（56 Y：A-A'，B-B'）

- | | | | |
|--------|----------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 暗褐色土 | ロームブロックを少量含む。しまり弱く、粘性普通。 | 4 黄褐色土 | ロームブロックを中量含む。しまり強く、粘性普通。 |
| 2 褐色土 | ロームブロック・炭化物を少量含む。しまり・粘性普通。 | 5 黒褐色土 | ロームブロックを中量、炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性普通。 |
| 3 暗褐色土 | ロームブロック・炭化物を少量含む。しまり・粘性普通。 | | |

第10図 第56号住居跡（56 Y：1/60）



第11図 第56号住居跡及び出土遺物 (56 Y : 1/60、1/3、1/4)

No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
5	壺	—	—	(3.9)	褐色	石英 長石 砂粒	結節による単節の羽状縄文
6	壺	—	—	(8.2)	橙色	石英 砂粒 小礫 白色粒子	外面：刷毛目 内面：ヘラナデ
7	台付甕	—	9.6	(8.5)	橙色	石英 黄色粒子 赤色粒子	外内面：刷毛目
8	甕	—	—	(3.0)	橙色	石英 砂粒 赤色粒子	外面：刷毛目 内面：被熱による剥離顕著

※ () は現存の規格

第4表 第56号住居跡(56 Y) 出土土器観察表

第57号住居跡(57 Y)(第12図)

[位置] 調査区北部

[構造] (平面形) 楕円形か(規模) 住居跡北部及び西部が調査区域外へ延びているため、確認できた範囲で長径4.0 m以上、短径3.9 m以上である。(主軸方位) N - 49° - W (壁高) 床面から38～42 cmを測る。(床) 凹凸している。(炉) 地床炉。住居跡東部に位置する。炉跡南部が削平されているため、確認できた範囲で長径42 cm、短径40 cm以上の楕円形を呈する。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

[覆土] 黒褐色土を基調とし、4層に分層される。なお、第1～4層は第39号住居跡(39 H)、第5～8層は第57号住居跡(57 Y)に該当する。

[遺物出土状況] 覆土中から土器片が散在して出土している。

[時期] 弥生時代後期

[備考] 第39号住居(39 H)に掘り込まれている。

第58号住居跡(58 Y)(第13図)

[位置] 調査区東部

[構造] (平面形) 楕円形(規模) 住居跡西部が攪乱され、住居跡北東部が削平されているため、確認できた範囲で長径6.1 m、短径5.0 m以上である。(主軸方位) N - 9° - W (壁高) 床面から約15 cmを測る。(床) やや凹凸があり、住居跡中央部で硬化範囲を確認した。(炉) 地床炉で、住居跡中央部北寄りに位置する。規模は長軸104 cm×短軸62 cmの不整形を呈する。床面と同じ高さの炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。(柱穴) P 1・P 2は主柱穴と考えられ、深さ26 cm・58 cmをそれぞれ測る。P 3～P 7は性格不明のピットで、深さ9～67 cmを測る。

[覆土] 住居跡覆土の大部分が攪乱されており詳細は不明だが、黒褐色土を基調とした覆土と考えられる。

[遺物出土状況] 覆土中から土器片が散在して出土している。

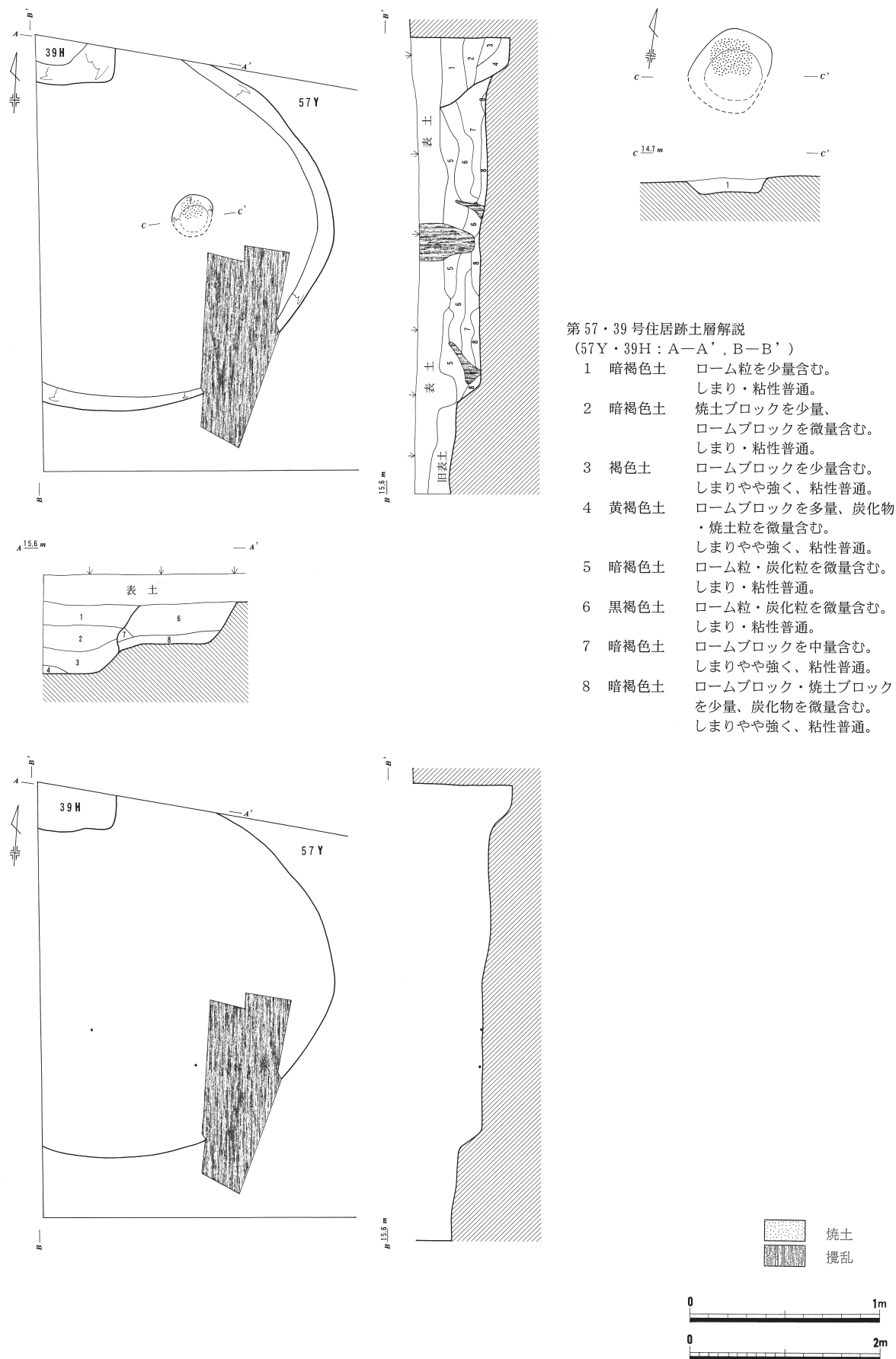
[時期] 弥生時代後期

[備考] 第40号住居跡(40 H)及び第26号溝(26 M)に掘り込まれている。

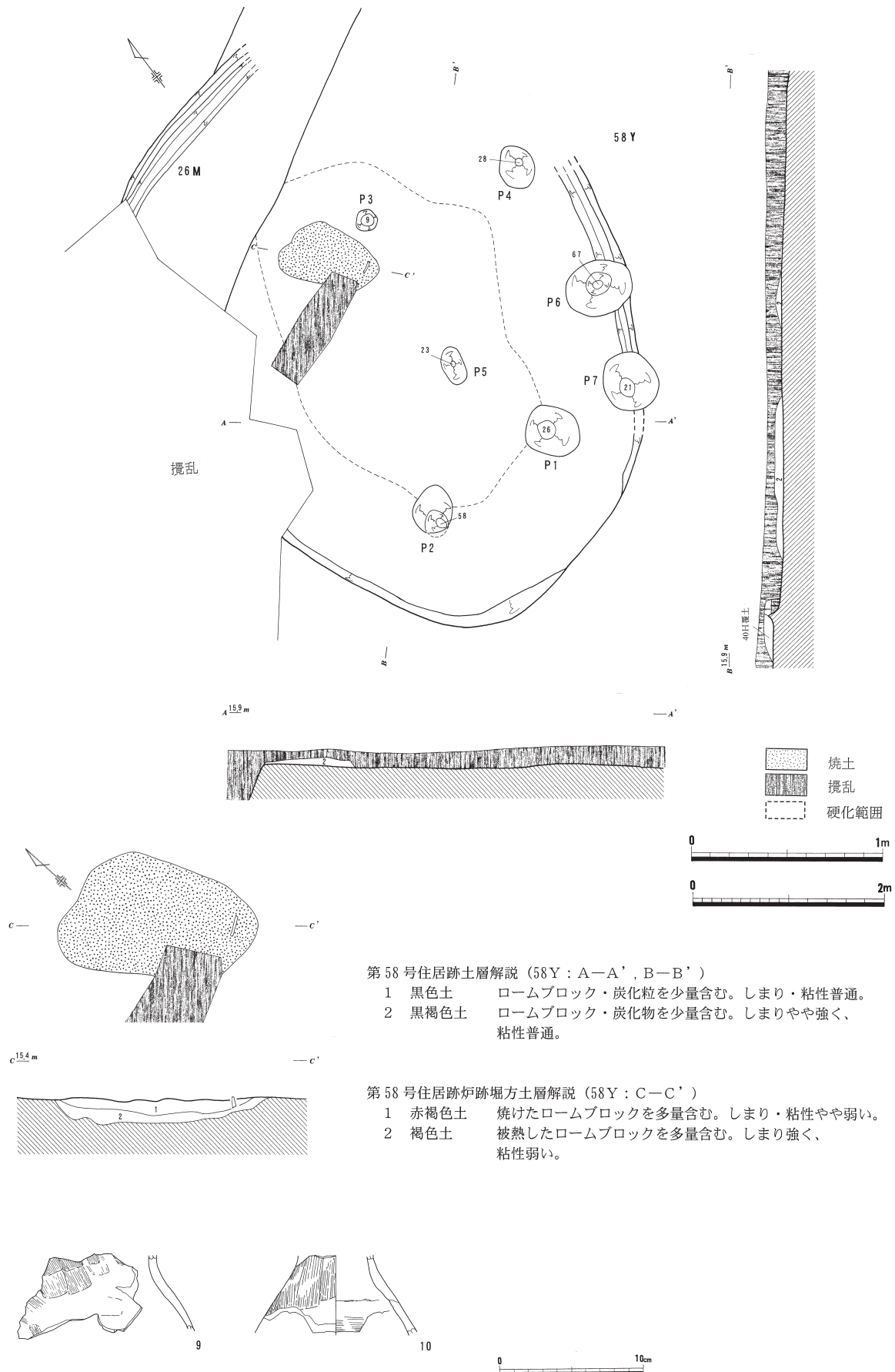
No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
9	壺	—	—	(5.4)	黄褐色	石英 小礫 白色粒子	外面：刷毛目、ヘラナデ 内面：刷毛目
10	高坏	—	—	(5.5)	橙色	石英 小礫 赤色粒子	外面：刷毛目 内面：刷毛目、 被熱による剥離顕著

※ () は現存の規格

第5表 第58号住居跡(58 Y) 出土土器観察表



第12図 第57号住居跡・第39号住居跡 (57Y・39H : 1/30、1/60)



第59号住居跡（59 Y）（第14図）

〔位置〕 調査区北部

〔構造〕（平面形）隅丸長方形（規模）長軸3.1m、短軸2.8m（主軸方位）N－54°－W（壁高）床面から9～12cmを測る。（床）平坦で、ロームブロックを多量に含んだ第6層を埋め戻して床を構築している。（炉）地床炉で、住居跡西部に位置する。規模は径60cmの円形を呈する。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。（柱穴）P 1・P 2は主柱穴と考えられ、深さ25cm・23cmをそれぞれ測る。P 3は出入口施設に伴うピットと考えられ、深さ14cmを測る。

〔覆土〕 暗褐色土を基調とし、5層に分層される。

〔遺物出土状況〕 覆土中から土器片が散在して出土している。

〔時期〕 弥生時代後期

〔備考〕 第24号溝（24 M）に掘り込まれている。

第60号住居跡（60 Y）（第15図）

〔位置〕 調査区中央部

〔構造〕（平面形）楕円形（規模）住居跡南部が攪乱されているため、確認できた範囲で長径4.4m以上、短径3.5m以上である。（主軸方位）N－44°－E（壁高）床面から約35cmを測る。（床）やや凹凸し、ロームブロックを中量含んだ第5層を埋め戻して床を構築している。壁際を除いて硬化範囲を確認した。また、住居跡北部及び西部で壁溝を確認した。（炉）地床炉で、住居跡中央部に位置する。規模は径約50cmの円形を呈する。床面と同じ高さの炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。（柱穴）P 1・P 2は主柱穴と考えられ、深さ15cm・27cmをそれぞれ測る。P 3～P 14は性格不明のピットで、深さ7～26cmを測る。

〔覆土〕 黒褐色土を基調とし、4層に分層される。

〔遺物出土状況〕 覆土中から土器片が散在して出土している。

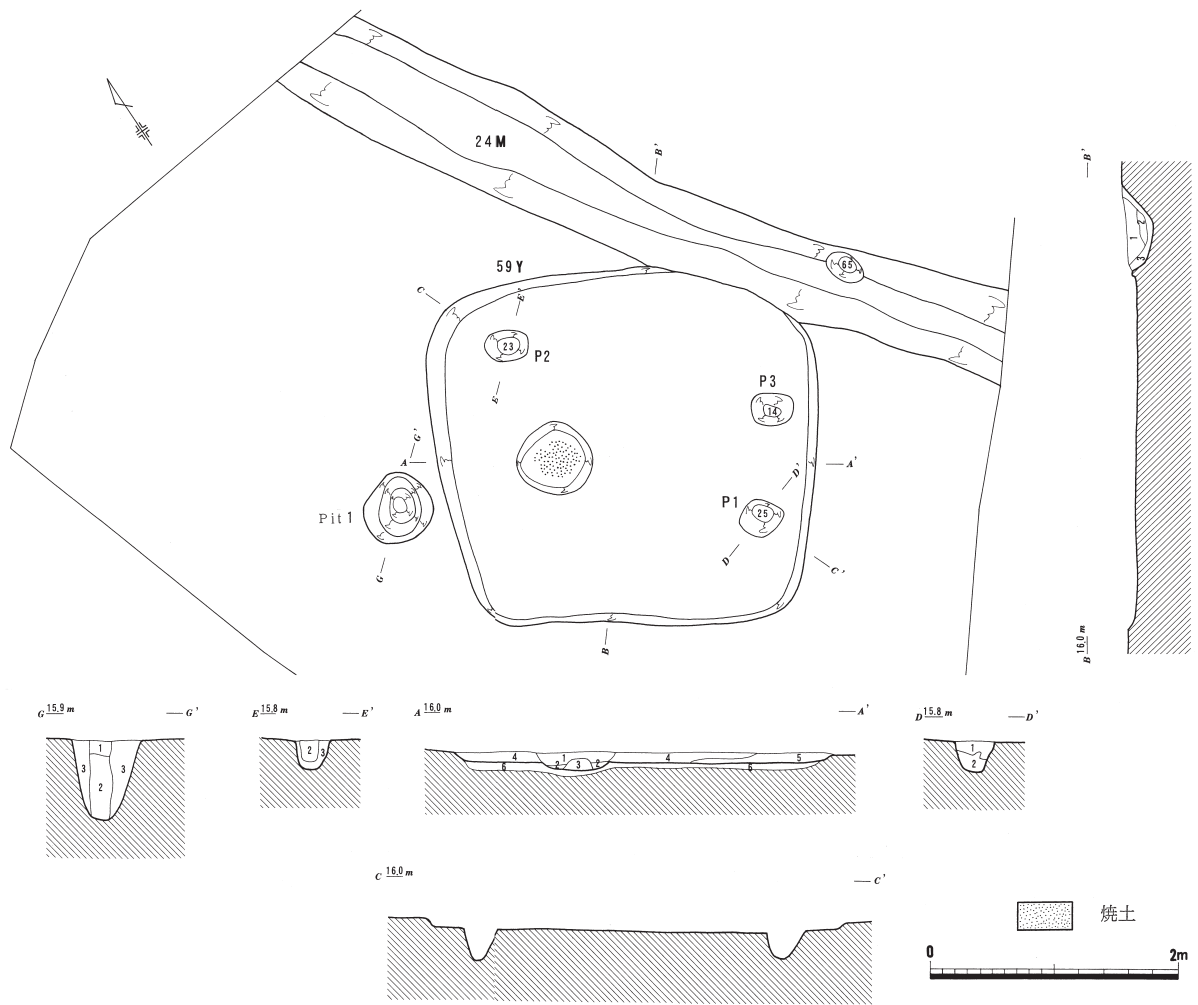
〔時期〕 弥生時代後期

〔備考〕 第37号住居（37 H）に掘り込まれている。

No.	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	色調	胎土	備考
11	壺	—	—	（6.4）	黄褐色	石英 砂粒 小礫	口唇部外面：羽状縄文 外内面：赤彩

※（ ）は現存の規格

第6表 第60号住居跡（60 Y）出土土器観察表



第59号住居跡土層解説(59Y: A-A')

- | | | |
|---|------|------------------------------------|
| 1 | 赤褐色土 | 焼土粒を中量含む。しまり・粘性やや弱い。 |
| 2 | 赤褐色土 | 焼土ブロックを少量、炭化粒を微量含む。
しまり・粘性やや弱い。 |
| 3 | 赤褐色土 | 焼土ブロックを多量含む。
しまりやや弱く、粘性弱い。 |
| 4 | 暗褐色土 | ローム粒・炭化粒を微量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 5 | 暗褐色土 | ローム粒を少量含む。しまりやや強く、
粘性普通。 |
| 6 | 褐色土 | ロームブロックを多量含む。しまり強く、
粘性普通。 |

第1号ピット土層解説(第1号ピット: G-G')

- | | | |
|---|------|------------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | ロームブロックを少量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 2 | 黒褐色土 | ローム粒を微量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 3 | 黄褐色土 | ロームブロックを中量含む。
しまり強く、粘性普通。 |

第59号住居跡柱穴土層解説(59Y: D-D', E-E')

- | | | |
|---|------|--------------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | ロームブロックを少量含む。しまり・粘性普通。 |
| 2 | 黒褐色土 | ローム粒・炭化粒を少量含む。
しまり・粘性やや弱い。 |
| 3 | 褐色土 | ロームブロックを中量含む。しまりやや強く、
粘性普通。 |

第24号溝跡土層解説(24M: B-B')

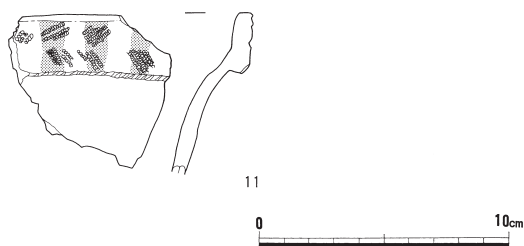
- | | | |
|---|------|----------------------------------|
| 1 | 黒褐色土 | ローム粒を微量含む。
しまり・粘性弱い。 |
| 2 | 黒褐色土 | ロームブロックを少量含む。
しまり・粘性やや弱い。 |
| 3 | 褐色土 | ロームブロックを中量含む。
しまりやや強く、粘性やや弱い。 |

第14図 第59号住居跡・第24号溝跡・第1号ピット (59Y・24M・Pit 1: 1/60)



第60号住居跡土層解説（60Y：A—A'）

- | | |
|--------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色土 | ローム粒・炭化粒を少量含む。しまり・粘性普通。 |
| 2 黒褐色土 | ロームブロック・焼土粒・炭化粒を少量含む。しまり・粘性普通。 |
| 3 黒褐色土 | ロームブロックを中量、炭化物を少量含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 4 黒褐色土 | ロームブロック・焼土ブロックを少量含む。しまり・粘性普通。 |
| 5 褐色土 | ロームブロックを中量含む。しまり強く、粘性弱い。 |



第15図 第60号住居跡及び出土遺物（60Y：1/60、1/3）

第3節 平安時代の遺構と遺物

第36号住居跡（36H）（第16～19図）

〔位置〕 調査区南部

〔構造〕（平面形）隅丸長方形（規模）長軸5.3m、短軸4.7m（主軸方位）N－1°－E（壁高）床面から36～50cmを測る。（床）やや凹凸し、ロームブロックや炭化粒を含んだ第19層を埋め戻して床を構築している。東西壁際を除いて硬化範囲を確認した。また、住居跡北壁東寄りを除いた壁際で壁溝を確認した。（カマド）北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで163cmで、燃焼部幅は56cmである。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道は壁外に130cm掘り込まれ、煙道部から外傾している。両袖の外側にカマドを支えていたと考

えられる柱穴P 6・P 7が確認され、深さはそれぞれ50cm・40cmを測る。（柱穴）P 1～P 4は主柱穴で、深さ53～66cmを測る。P 5は出入口施設に伴うピットで、深さ12cmを測る。

〔覆土〕黒褐色土を基調とし、17層に分層される。なお、第1・2層が第23号土坑（23HD）、第3～19層が第36号住居跡（36H）に該当する。

〔遺物出土状況〕住居跡全体の覆土中層から下層にかけて散在して土器片が出土している。12は住居跡北部の覆土下層から出土し、15・16はカマドの覆土中層からそれぞれ出土している。また、住居跡中央部南寄りの覆土下層から焼土塊が出土している。

〔時期〕 8世紀後葉～9世紀前葉

〔備考〕 第22・23号土坑（22HD・23HD）に掘り込まれている。

No.	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	色調	胎土	備考
12	須恵器 坏	13.4	—	(3.5)	灰色	石英 白針状物質 小礫	外内面：ロクロナデ 南比企窯産
13	須恵器 坏	—	8.8	(3.4)	灰色	石英 小礫 白色粒子	外内面：ロクロナデ底面 底面：回転ヘラ削り
14	須恵器 坏	—	9.1	(2.1)	灰白色	石英 砂粒	外内面：ロクロナデ 底面：回転糸切り後、外周を回転ヘラ削り
15	須恵器 高台付坏	17.0	(10.3)	5.9	橙色	石英 長石 小礫 白色粒子	外内面：ロクロナデ 底面：回転ヘラ削り後、高台貼付
16	土師器 甕	21.0	—	(10.4)	赤褐色	石英 角閃石 砂粒 小礫 白色粒子	外面：ヘラ削り 内面：ヘラナデ

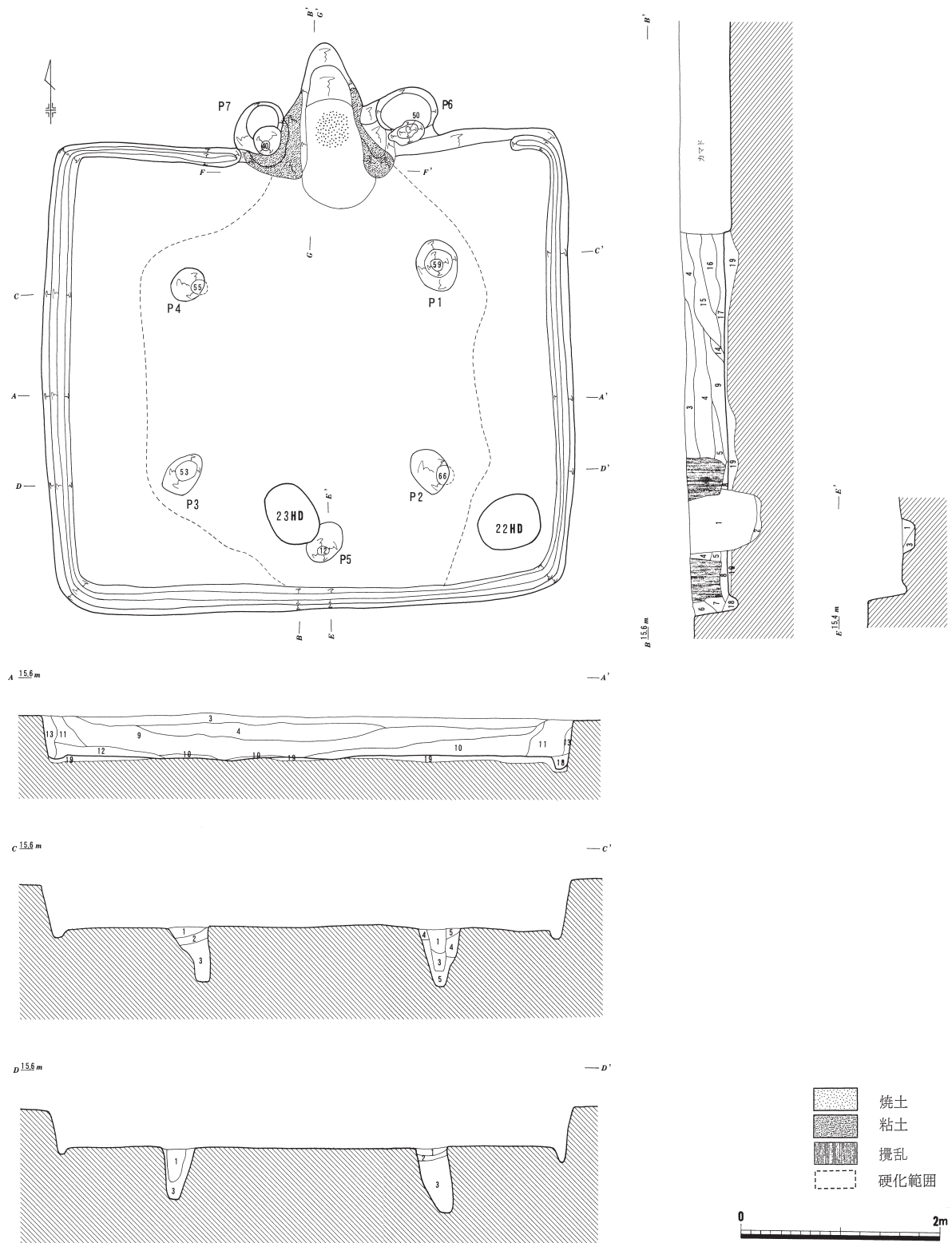
※（ ）は現存の規格

第7表 第36号住居跡（36H）出土土器観察表

No.	種別	長辺（cm）	短辺（cm）	厚さ（cm）	色調	胎土	備考
17	平瓦	(6.6)	(5.2)	2.9	灰白色	石英 白色粒子	凸面：縄叩き目 凹面：布目圧痕

※（ ）は現存の規格

第8表 第36号住居跡（36H）出土瓦観察表



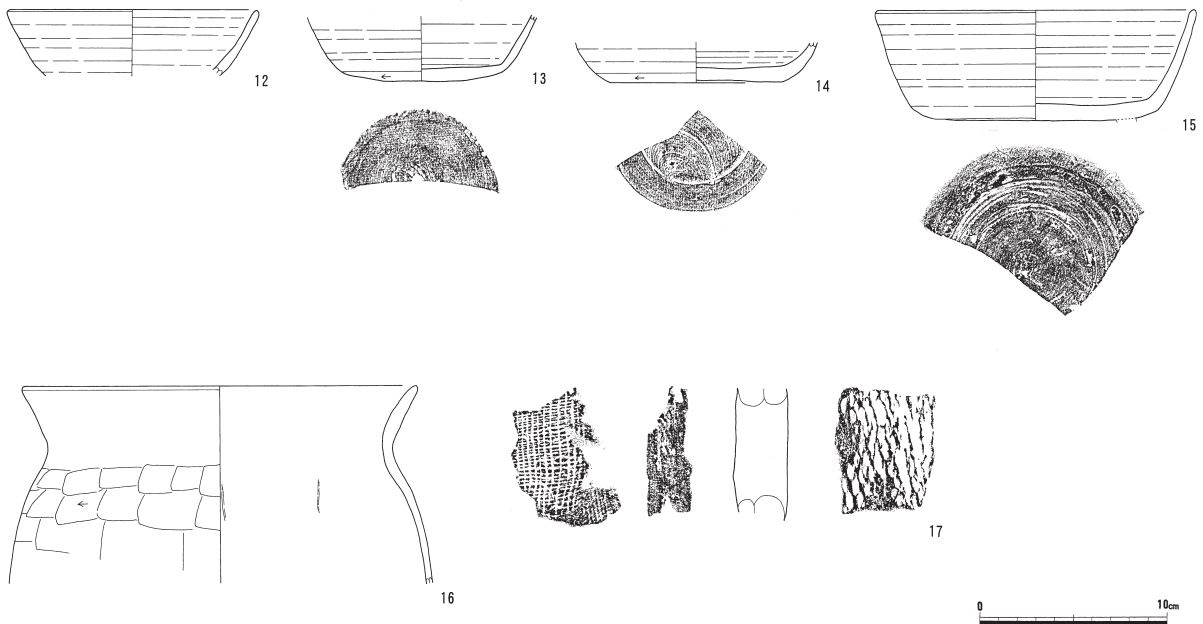
第16図 第36号住居跡1 (36 H : 1/60)

第36号住居跡土層解説 (36H: A-A', B-B')

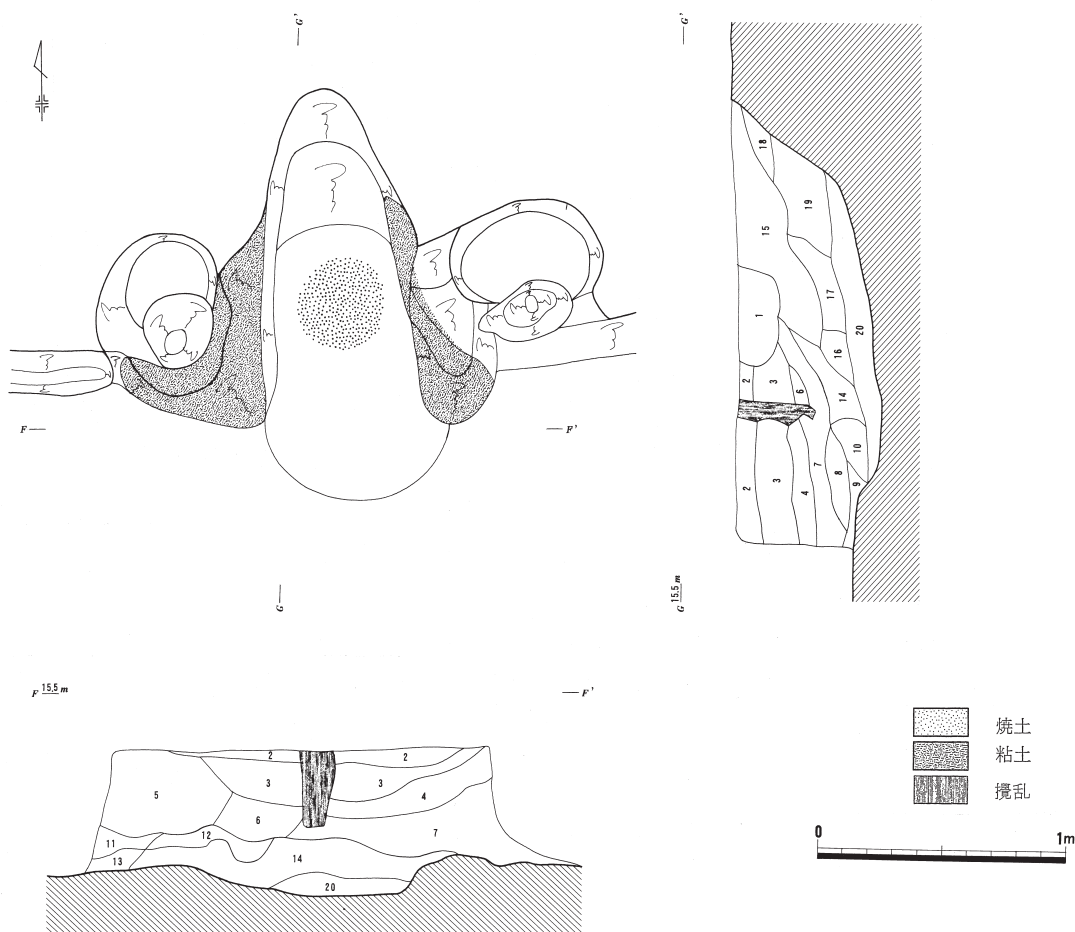
- | | | | |
|---------|---|---------|---|
| 1 黒褐色土 | ロームブロック・炭化物を少量含む。
しまり・粘性普通。 | 11 暗褐色土 | ロームブロックを中量、炭化粒を少量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 2 黒褐色土 | ロームブロックを中量含む。
しまりやや強く、粘性普通。 | 12 黒褐色土 | 焼土粒・炭化粒を少量、ロームブロックを微量含む。しまり・粘性普通。 |
| 3 黒褐色土 | ローム粒を微量含む。
しまり・粘性普通。 | 13 褐色土 | ロームブロックを多量含む。
しまり強く、粘性普通。 |
| 4 黒褐色土 | ロームブロック・炭化粒を微量含む。
しまり・粘性普通。 | 14 黒褐色土 | 粘土粒を中量、ロームブロック・炭化物を少量含む。しまり普通で、粘性やや強い。 |
| 5 黒褐色土 | ロームブロックを少量、炭化物を微量含む。
しまりやや強く、粘性普通。 | 15 灰白色土 | 粘土ブロックを中量、ロームブロック・炭化物を少量含む。しまり・粘性強い。 |
| 6 黒褐色土 | ロームブロック・炭化物を微量含む。
しまり・粘性普通。 | 16 灰白色土 | 粘土ブロックを中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物を少量含む。
しまり・粘性強い。 |
| 7 黒色土 | ロームブロックを微量含む。
しまり・粘性普通。 | 17 黒褐色土 | ロームブロック・粘土ブロック・炭化物・焼土粒を少量含む。
しまりやや強く、粘性普通。 |
| 8 黒褐色土 | 焼土粒を少量、ロームブロックを微量含む。
しまり・粘性普通。 | 18 褐色土 | ローム粒を多量、炭化粒を微量含む。
しまり強く、粘性弱い。 |
| 9 黒褐色土 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物を少量含む。
しまりやや強く、粘性普通。 | 19 褐色土 | ロームブロックを多量、炭化粒を少量含む。
しまり強く、粘性普通。 |
| 10 黒褐色土 | ロームブロック・炭化物・焼土粒を少量含む。
しまり・粘性普通。 | | |

第36号住居跡柱穴土層解説 (36H: C-C', D-D')

- | | |
|--------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色土 | ローム粒・炭化粒を少量含む。しまり・粘性普通。 |
| 2 黒褐色土 | ロームブロック・焼土粒を少量含む。しまり・粘性普通。 |
| 3 褐色土 | ローム粒を中量含む。しまり弱く、粘性普通。 |
| 4 暗褐色土 | ロームブロックを中量、炭化物を少量含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 5 褐色土 | ローム粒を多量含む。しまり強く、粘性普通。 |



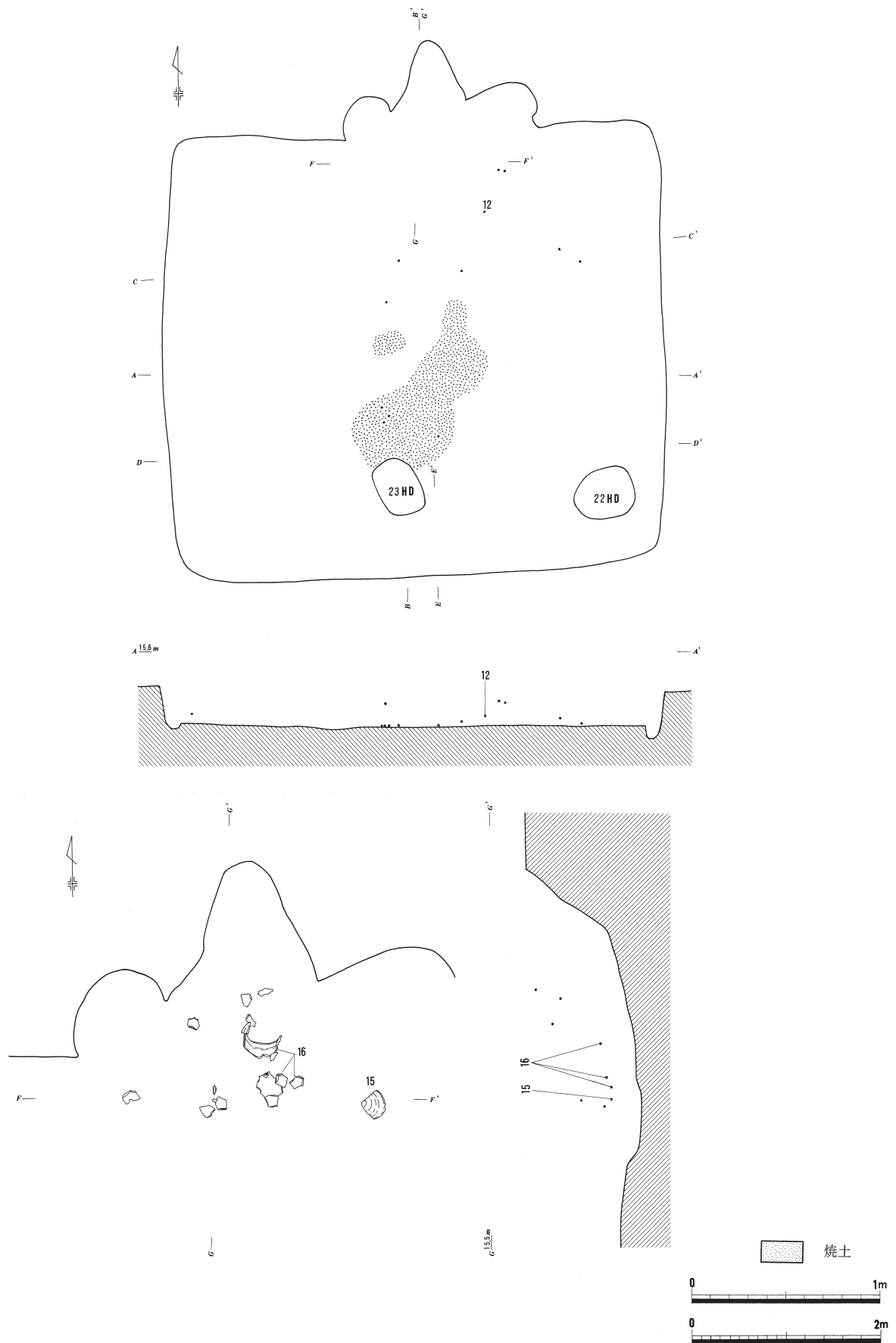
第17図 第36号住居跡及び出土遺物 (36H: 1/4)



第36号住居跡カマド土層解説 (36H: F-F', G-G')

1 黒褐色土	ロームブロック・炭化物を中量、焼土ブロックを少量含む。しまり・粘性普通。	11 黒褐色土	粘土ブロックを中量、ローム粒・炭化粒を少量含む。しまりやや強く、粘性普通。
2 黒褐色土	ローム粒・焼土粒を少量、粘土粒を微量含む。しまり・粘性普通。	12 灰白色土	粘土粒を多量、炭化物を少量、焼土ブロックを微量含む。しまり・粘性強い。
3 灰白色土	粘土ブロックを多量、焼土ブロック・炭化物を少量含む。しまり・粘性やや強い。	13 褐色土	ロームブロックを中量、炭化粒を少量含む。しまりやや強く、粘性普通。
4 黒褐色土	炭化物・粘土ブロックを少量、ロームブロックを微量含む。しまり・粘性普通。	14 灰白色土	粘土粒を多量、焼土ブロック・炭化物を少量含む。しまり強く、粘性やや強い。
5 褐色土	ロームブロックを多量、焼土ブロック・炭化粒を少量含む。しまりやや強く、粘性普通。	15 灰白色土	粘土粒を多量、炭化粒を少量、焼土粒を微量含む。しまり・粘性強い。
6 黒褐色土	炭化物・ローム粒・焼土粒を少量含む。しまり・粘性普通。	16 赤褐色土	ロームブロックを中量、焼土ブロックを少量含む。しまり・粘性弱い。
7 黒褐色土	ロームブロックを中量、焼土ブロック・炭化物を少量含む。しまりやや強く、粘性普通。	17 暗褐色土	ローム粒・砂粒を中量、焼土粒を少量、炭化物を微量含む。しまり弱く、粘性普通。
8 黒褐色土	焼土ブロック・炭化材を少量、粘土ブロック・ローム粒を微量含む。しまり・粘性普通。	18 褐色土	ローム粒を多量、砂粒を中量含む。しまりやや強く、粘性弱い。
9 灰白色土	粘土粒を多量、焼土粒を少量含む。しまり・粘性強い。	19 赤褐色土	ロームブロック・焼土ブロックを中量含む。しまりやや弱く、粘性弱い。
10 灰白色土	粘土ブロックを多量、焼土ブロック・炭化物を少量含む。しまり・粘性強い。	20 黒褐色土	焼土粒を多量、炭化物・粘土粒を少量含む。しまりやや強く、粘性弱い。

第18図 第36号住居跡2 (36H: 1/30)



第19図 第36号住居跡3 (36H : 1/30、1/60)

第37号住居跡（37H）（第20・21図）

[位置] 調査区中央部

[構造]（平面形）隅丸長方形（規模）住居跡西部が調査区域外へ延びているため、確認できた範囲で長軸4.1m以上、短軸3.8mである。（主軸方位）N－85°－E（壁高）床面から28～33cmを測る。（床）やや凹凸している。住居跡中央部で硬化範囲を確認した。また、住居跡北部及び南部の壁際で壁溝を確認した。（カマド）東壁中央部南寄りに付設されている。カマドの大半が削平されているため、確認できた範囲で規模は焚口部から煙道部まで108cmである。火床面での赤変硬化は不明瞭であった。煙道部は壁外に34cm掘り込まれている。（柱穴）P1は主柱穴

と考えられ、深さ7cmを測る。P2は性格不明のピットで、深さ13cmを測る。

[覆土] 黒褐色土を基調とし、9層に分層される。

[遺物出土状況] 住居跡全体の覆土上層から下層にかけて土器片等が出土している。31・33は住居跡北部の覆土上層から、24は住居跡北部の覆土下層から出土している。23・26・30は住居跡中央部の覆土中層から、19は住居跡東部の覆土中層から出土している。18・20・28・29・32は住居跡南部の覆土中層から出土している。

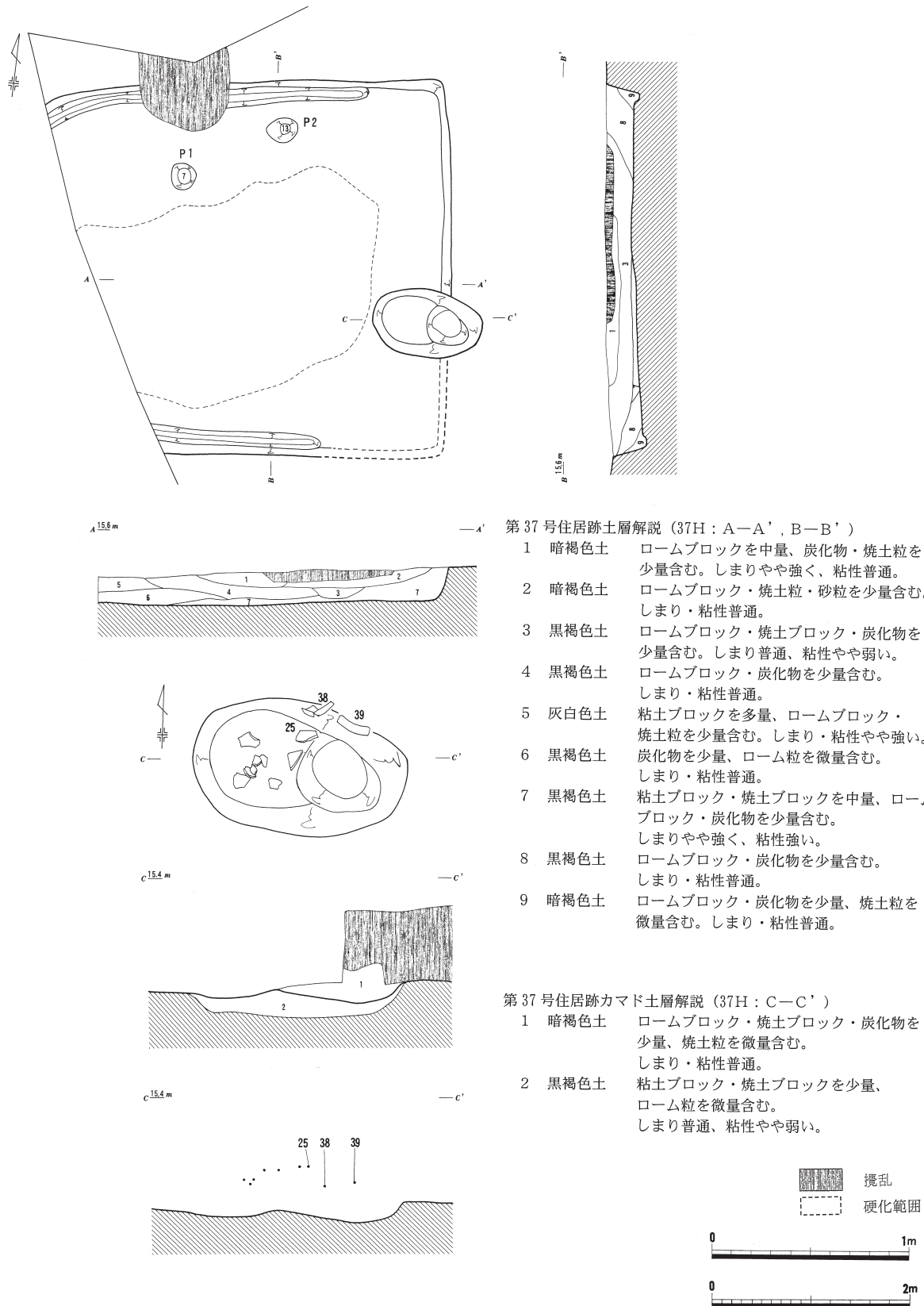
[時期] 9世紀前半

[備考] 第60号住居跡（60Y）を掘り込んでいる。

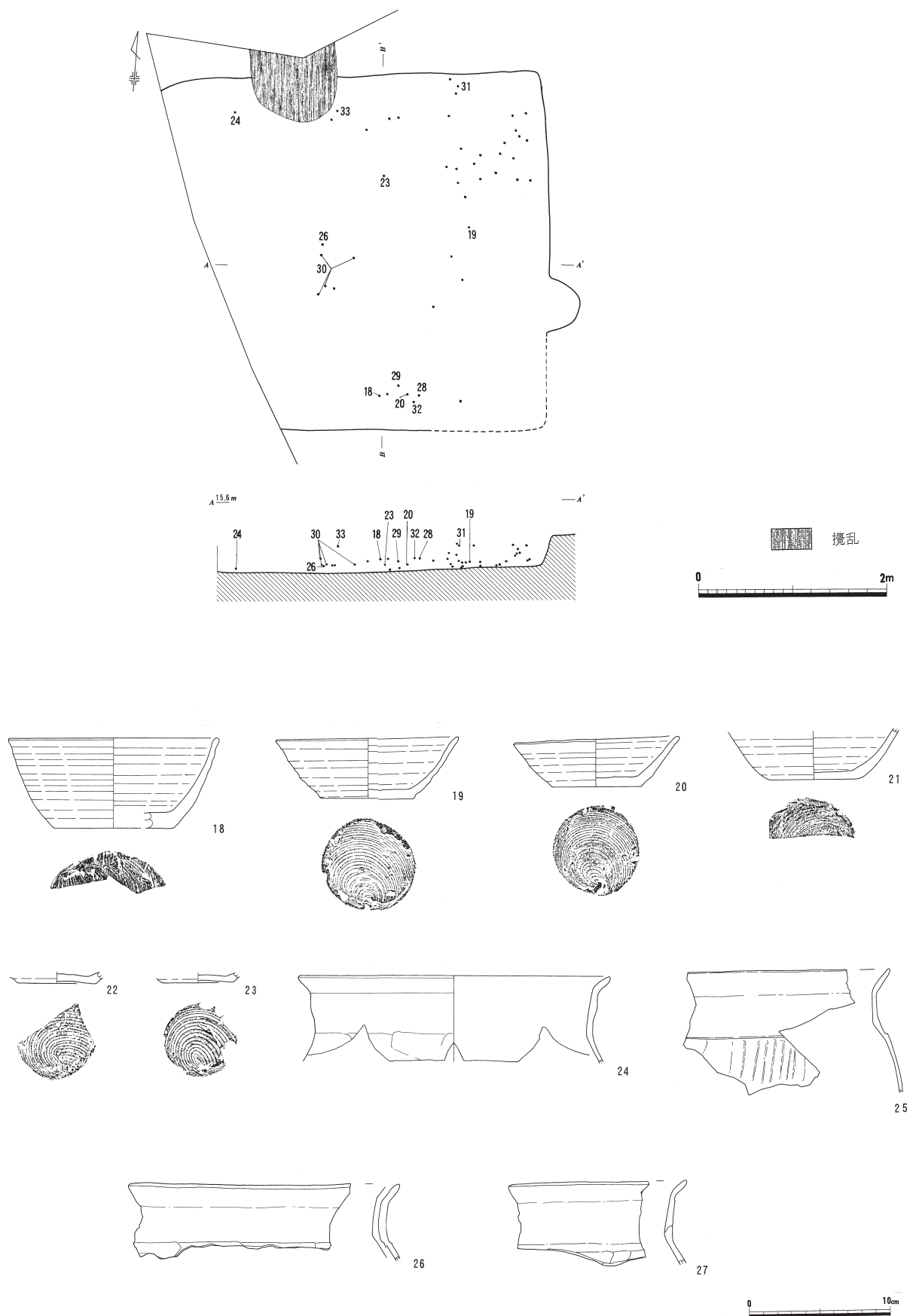
No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
18	須恵器 坏	14.8	8.4	6.3	灰色	長石 砂粒 小礫	外内面：ロクロナデ 底面：回転糸切り
19	須恵器 坏	13.0	6.4	4.3	灰白色	石英 小礫 白色粒子	外内面：ロクロナデ 底面：回転糸切り
20	須恵器 坏	11.7	6.3	3.5	灰色	石英 砂粒 小礫	外内面：ロクロナデ 底面：回転糸切り
21	須恵器 坏	—	6.5	(3.4)	灰白色	石英 長石 白針状物質 砂粒	外内面：ロクロナデ 底面：回転糸切り 南比企窯産
22	須恵器 坏	—	5.6	(0.8)	灰色	長石 砂粒 小礫	外内面：ロクロナデ 底面：回転糸切り
23	須恵器 坏	—	5.0	(0.7)	灰色	石英 長石 砂粒 小礫	外内面：ロクロナデ 底面：回転糸切り
24	土師器 甕	22.0	—	(6.1)	橙色	石英 角閃石 砂粒	外面：ヘラ削り 内面：ナデ
25	土師器 甕	—	—	(8.7)	橙色	石英 長石 角閃石 砂粒 赤色粒子	外面：ヘラ削り 内面：ナデ
26	土師器 甕	—	—	(5.4)	橙色	石英 角閃石 砂粒 小礫	外面：ナデ、ヘラ削り 内面：ナデ
27	土師器 甕	—	—	(5.9)	橙色	石英 砂粒 白色粒子	外面：ヘラ削り
28	須恵器 壺	—	—	(12.7)	灰色	石英 白針状物質 小礫	外面：自然釉降灰 内面：ナデ 南比企窯産か
29	須恵器 甕類	—	—	(7.0)	黒褐色	石英 砂粒 小礫	内面：自然釉降灰
30	須恵器 甕	—	—	(13.8)	灰白色	石英 小礫 白色粒子	外面：平行叩き 底面：無文当具痕
31	須恵器 甕	—	—	(9.9)	黄白色	石英 砂粒 小礫	外面：平行叩き 内面：平行当具痕 No.32と同一個体か
32	須恵器 甕	—	—	(14.4)	黄白色	石英 砂粒 小礫	外面：平行叩き 内面：平行当具痕 No.31と同一個体か

※（ ）は現存の規格

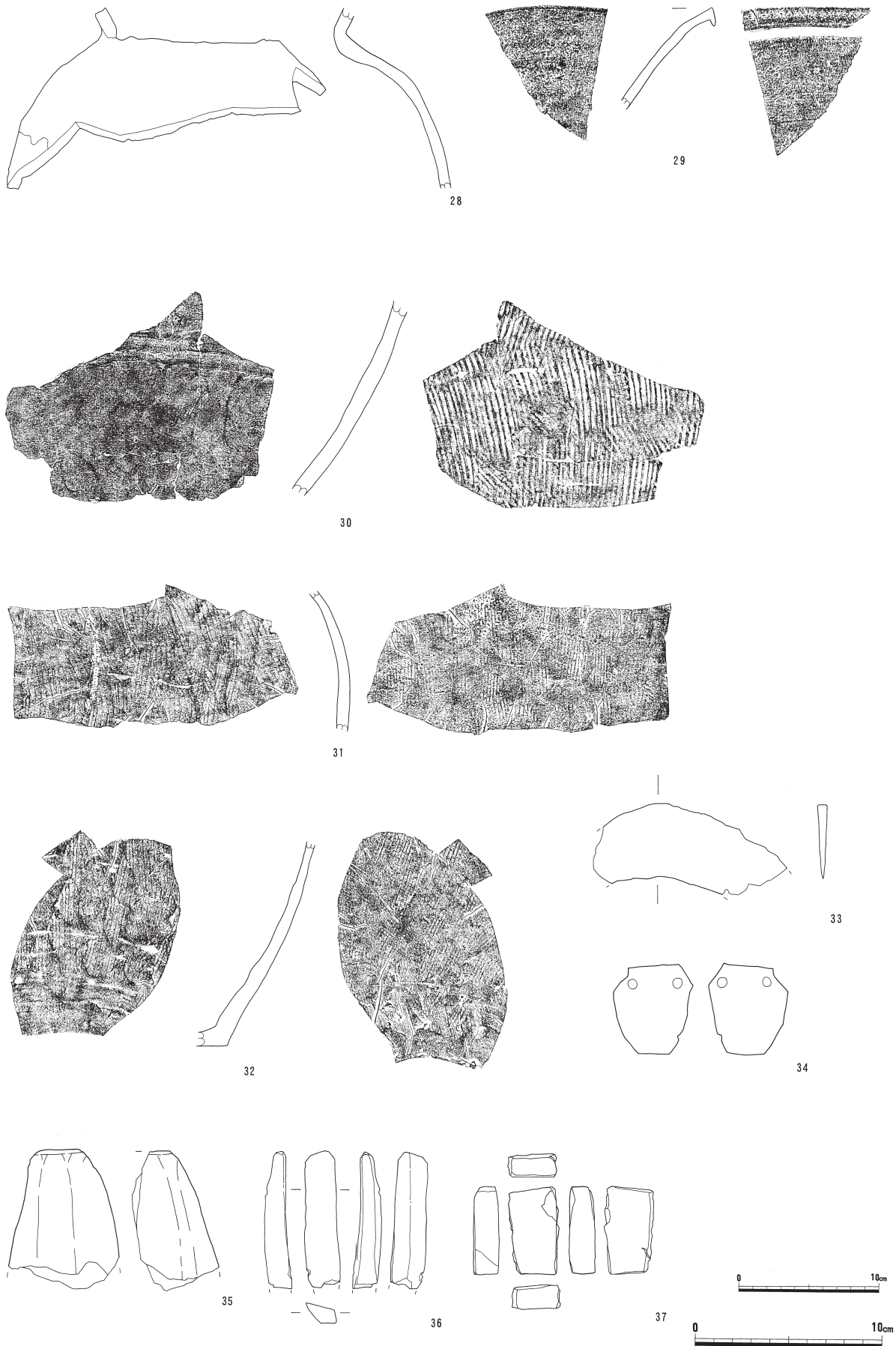
第9表 第37号住居跡（37H）出土土器観察表



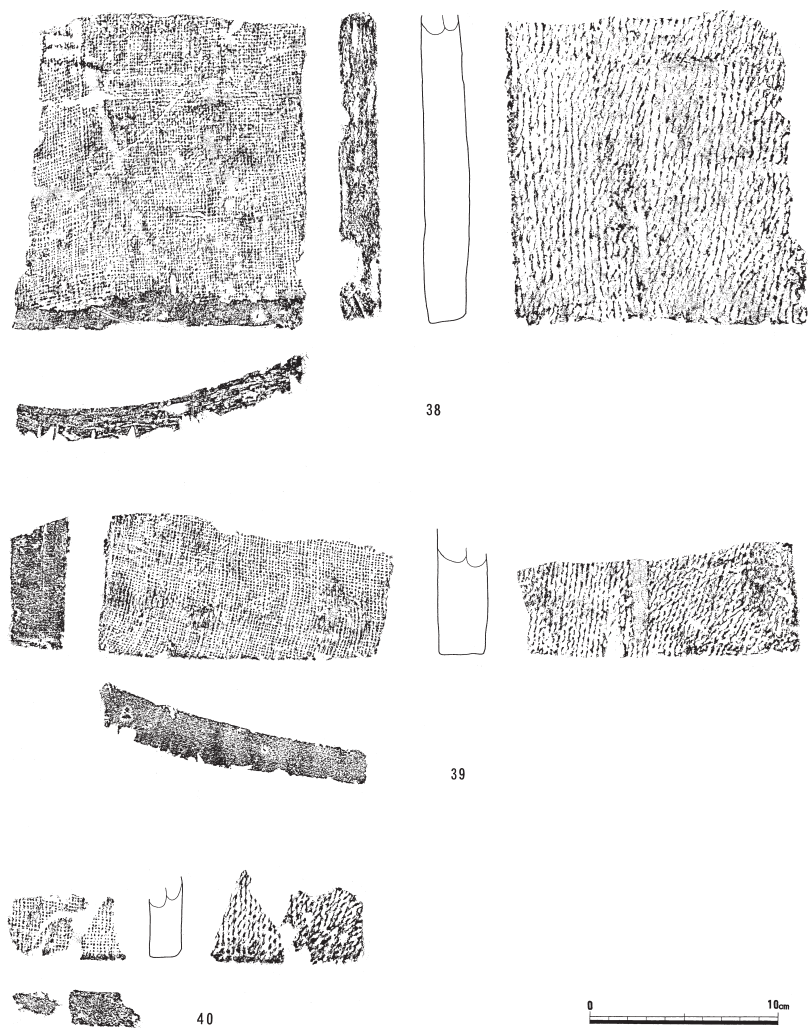
第20図 第37号住居跡 (37H: 1/30, 1/60)



第21図 第37号住居跡及び出土遺物 (37 H : 1/60、1/4)



第22図 第37号住居跡出土遺物 1 (37H : 1/3、1/4)



第23図 第37号住居跡出土遺物2（37H：1/4）

No.	種別	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ・高さ（cm）	重量（g）	材質	備考
33	鎌か	（10.4）	—	0.5	75.0	鉄	先端部及び柄部の欠損
34	不明銅製品	1.5	1.4	0.05	0.3	銅	穿孔2か所

※（ ）は現存の規格

第10表 第37号住居跡（37H）出土金属製品観察表

No.	種別	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	色調	胎土	備考
35	支脚	（7.4）	（5.8）	（4.7）	橙色	石英 白色粒子	被熱による変色

※（ ）は現存の規格

第11表 第37号住居跡（37H）出土土製品観察表

No.	種別	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	材質	備考
36	砥石	（7.2）	1.6	1.1	20.0	凝灰岩	砥面1面
37	砥石	4.6	2.6	1.3	24.6	凝灰岩	砥面4面

※（ ）は現存の規格

第12表 第37号住居跡（37H）出土石器観察表

No.	種別	長辺 (cm)	短辺 (cm)	厚さ (cm)	色調	胎土	備考
38	平瓦	(16.3)	(15.4)	2.5	灰白色	石英 小礫 白色粒子 赤色粒子	凸面：縄叩き目 凹面：布目圧痕
39	平瓦	(6.7)	(15.5)	2.7	橙色	石英 長石 砂粒 小礫	凸面：縄叩き目 凹面：布目圧痕
40	平瓦	(4.2)	(8.0)	1.8	橙色	石英 砂粒 白色粒子 赤色粒子	凸面：縄叩き目 凹面：布目圧痕

※ () は現存の規格

第13表 第37号住居跡 (37 H) 出土瓦観察表

第38号住居跡 (38 H) (第24図)

[位置] 調査区中央部

[構造] (平面形) 隅丸方形 (規模) 住居跡北部が調査区域外へ延びているため、確認できた範囲で長軸4.0m、短軸3.4m以上である。(主軸方位) N-24°-E (壁高) 床面から21~23cmを測る。(床) やや凹凸し、炭化物を含んだ第5層を埋め戻して床を構築している。住居跡中央部で硬化範囲を確認した。また、南西コーナー部から東壁にかけての壁際で壁溝を確認した。(柱穴) P 1 は主柱穴と考えられ、深さ24cmを測る。P 2・P 3 は性格不明のピット

で、深さは19cm・7cmをそれぞれ測る。

[覆土] 黒褐色土を基調とし、4層に分層される。

[遺物出土状況] 住居跡全体の覆土中層から下層にかけて土器片等が出土している。60は住居跡北部の覆土中層から、41・50・61は住居跡中央部の覆土中層から出土している。46・51・59は住居跡南部の覆土中層から、44・47・54・56は住居跡南部の覆土下層から出土している。53は住居跡西部の覆土中層から出土している。

[時期] 9世紀中葉

No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
41	須恵器 坏蓋	—	—	(1.7)	灰白色	石英 砂粒 小礫	外内面：ロクロナデ 天井部上端：回転ヘラ削り つまみ部宝珠形
42	須恵器 坏蓋	14.0	—	3.8	灰白色	石英 小礫 白色粒子	外内面：ロクロナデ 天井部：回転糸切り
43	須恵器 坏	12.8	7.3	3.4	灰色	石英 砂粒	外内面：ロクロナデ 底面：回転糸切り
44	須恵器 坏	12.7	6.5	3.4	灰白色	長石 砂粒	外内面：ロクロナデ 底面：回転糸切り
45	須恵器 坏	11.8	5.4	3.7	灰色	石英 砂粒 小礫	外内面：ロクロナデ 底面：回転糸切り
46	須恵器 坏	14.2	6.9	6.1	灰色	砂粒 小礫	外内面：ロクロナデ 底面：回転糸切り
47	須恵器 坏	15.5	—	(5.4)	灰白色	石英 白針状物質 小礫 白色粒子	外内面：ロクロナデ 南比企窯産
48	須恵器 坏	14.4	—	(3.4)	灰白色	石英 白色粒子	外内面：ロクロナデ
49	須恵器 坏	12.0	—	(3.6)	灰色	石英 砂粒 小礫	外内面：ロクロナデ
50	須恵器 坏	—	6.8	(4.7)	灰白色	石英 砂粒	外内面：ロクロナデ 底面：回転糸切り 底面及び外面体部に墨書
51	須恵器 高台付坏	9.9	6.5	4.6	灰色	石英 小礫 白色粒子	外内面：ロクロナデ 底面：回転糸切り後、高台貼付
52	須恵器 壺類	—	—	(12.6)	灰白色	石英 小礫 白色粒子 黒色粒子	外面頸部：自然釉降灰 内面口縁部：自然釉降灰

※ () は現存の規格

第14表 第38号住居跡 (38 H) 出土土器観察表

No	種別	長辺 (cm)	短辺 (cm)	厚さ (cm)	色調	胎土	備考
53	平瓦	(15.3)	(8.3)	1.9	灰白色	石英 長石 小礫 白色粒子	凸面：縄叩き目 凹面：布目圧痕
54	平瓦	(6.0)	(13.4)	2.6	暗褐色	石英 砂粒 黒色粒子	凸面：縄叩き目 凹面：布目圧痕

※ () は現存の規格

第15表 第38号住居跡(38H)出土瓦観察表

No	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
55	土師器 甕	19.7	—	(9.0)	橙色	石英 角閃石 砂粒	外面：ヘラ削り 内面：ナデ
56	土師器 甕	19.7	—	(14.0)	橙色	石英 角閃石 白色粒子	外面：ヘラ削り
57	土師器 小形甕	—	—	(5.9)	橙色	石英 角閃石 砂粒	外面：ヘラ削り 内面：ナデ
58	土師器 甕	19.2	—	(4.5)	橙色	石英 長石 角閃石 砂粒	外内面：ナデ
59	土師器 甕	—	—	(8.7)	橙色	石英 角閃石 白色粒子 赤色粒子	外面：ヘラ削り 内面：ナデ
60	土師器 甕	18.6	—	(5.8)	橙色	石英 角閃石 小礫 白色粒子 赤色粒子	外面：ヘラ削り 内面：ナデ
61	土師器 甕	—	—	(6.8)	橙色	石英 角閃石 砂粒 白色粒子	外面：ヘラ削り、ナデ 内面：ナデ

※ () は現存の規格

第16表 第38号住居跡(38H)出土土器観察表

No	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	色調	胎土	備考
62	紡錘車	[6.0]	—	(0.7)	灰色	石英 砂粒	孔径 [0.5cm] 表裏ともに摩耗顕著 須恵器坏底部転用

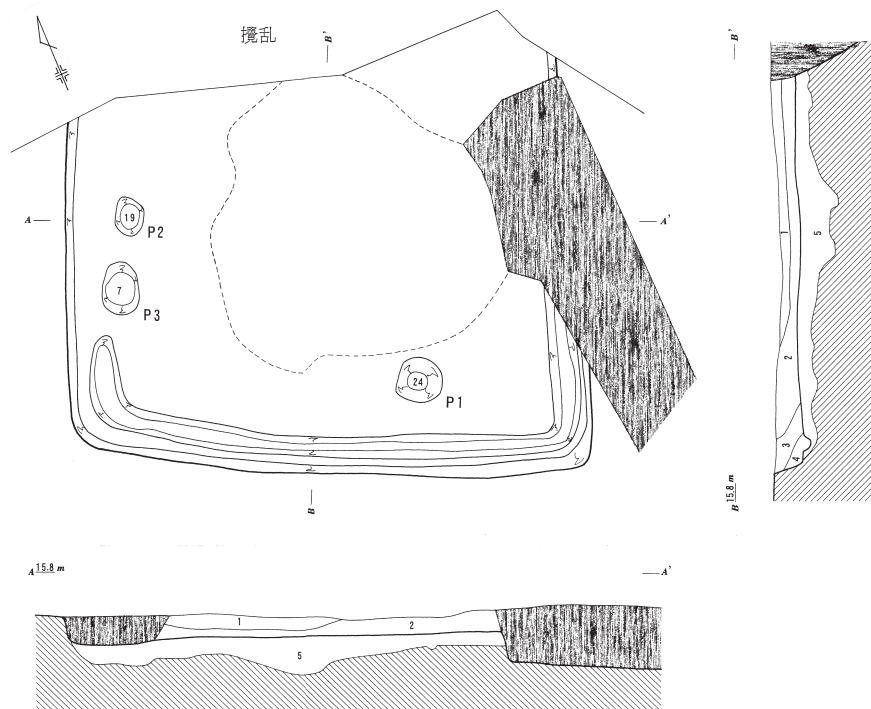
※ [] は推定値

第17表 第38号住居跡(38H)出土土製品観察表

No	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	材質	備考
63	砥石	(8.9)	2.6	2.7	103.2	凝灰岩	砥面1面 櫛歯タガネ痕

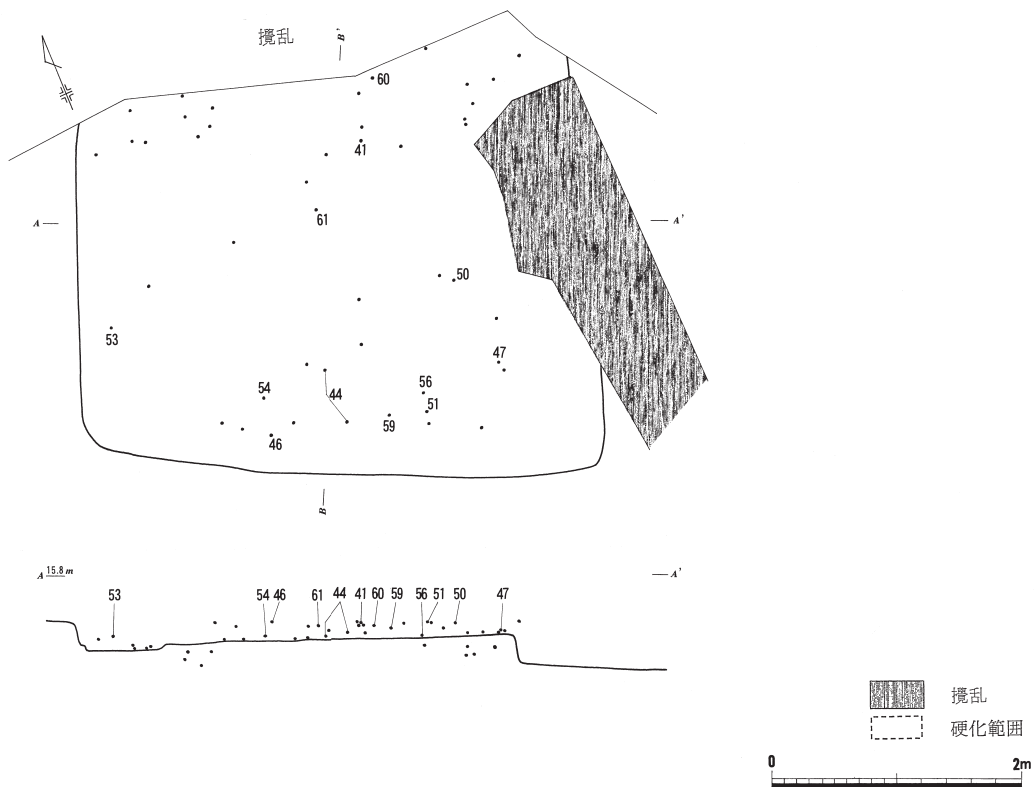
※ () は現存の規格

第18表 第38号住居跡(38H)出土石器観察表

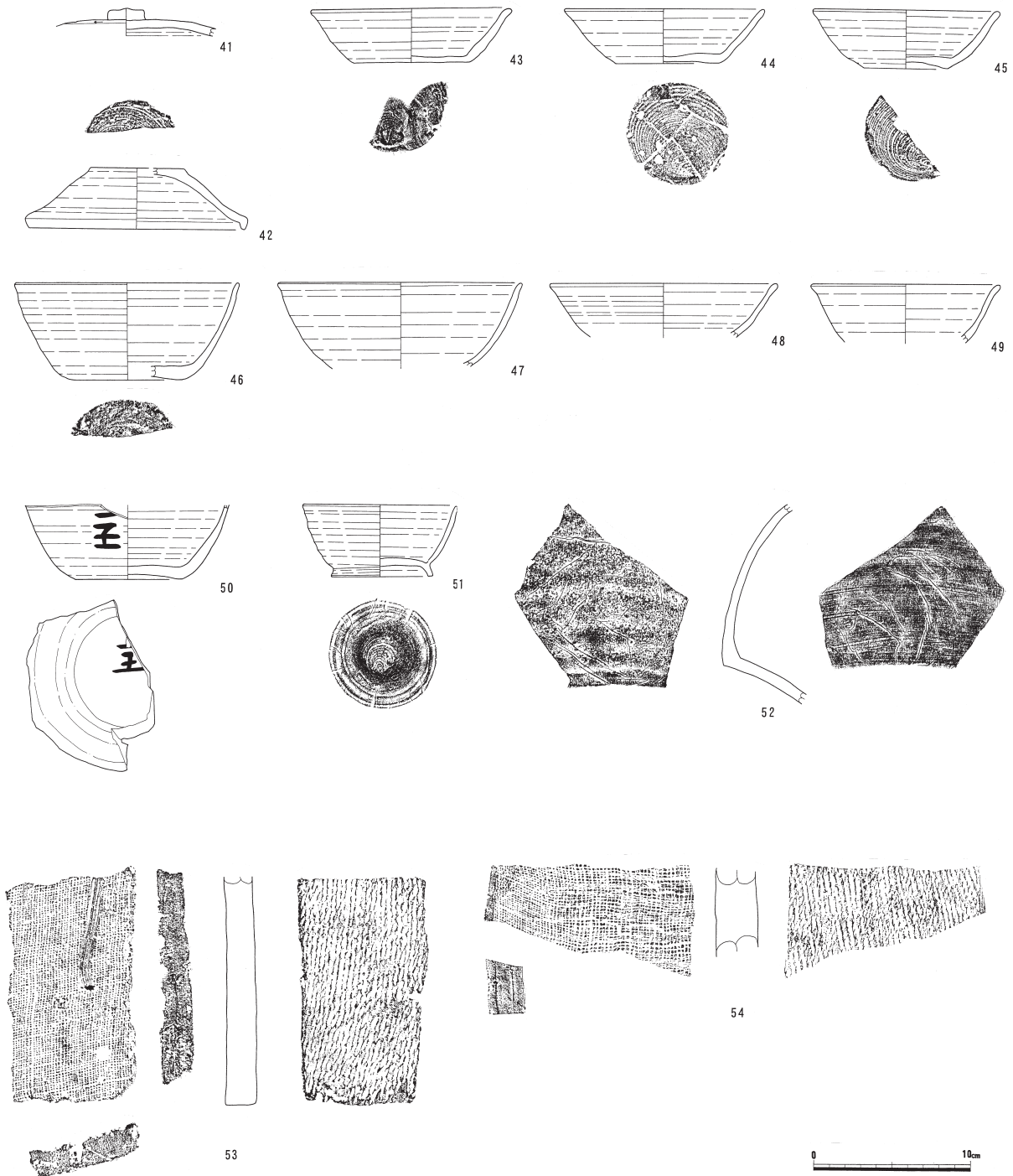


第38号住居跡土層解説 (38H: A-A', B-B')

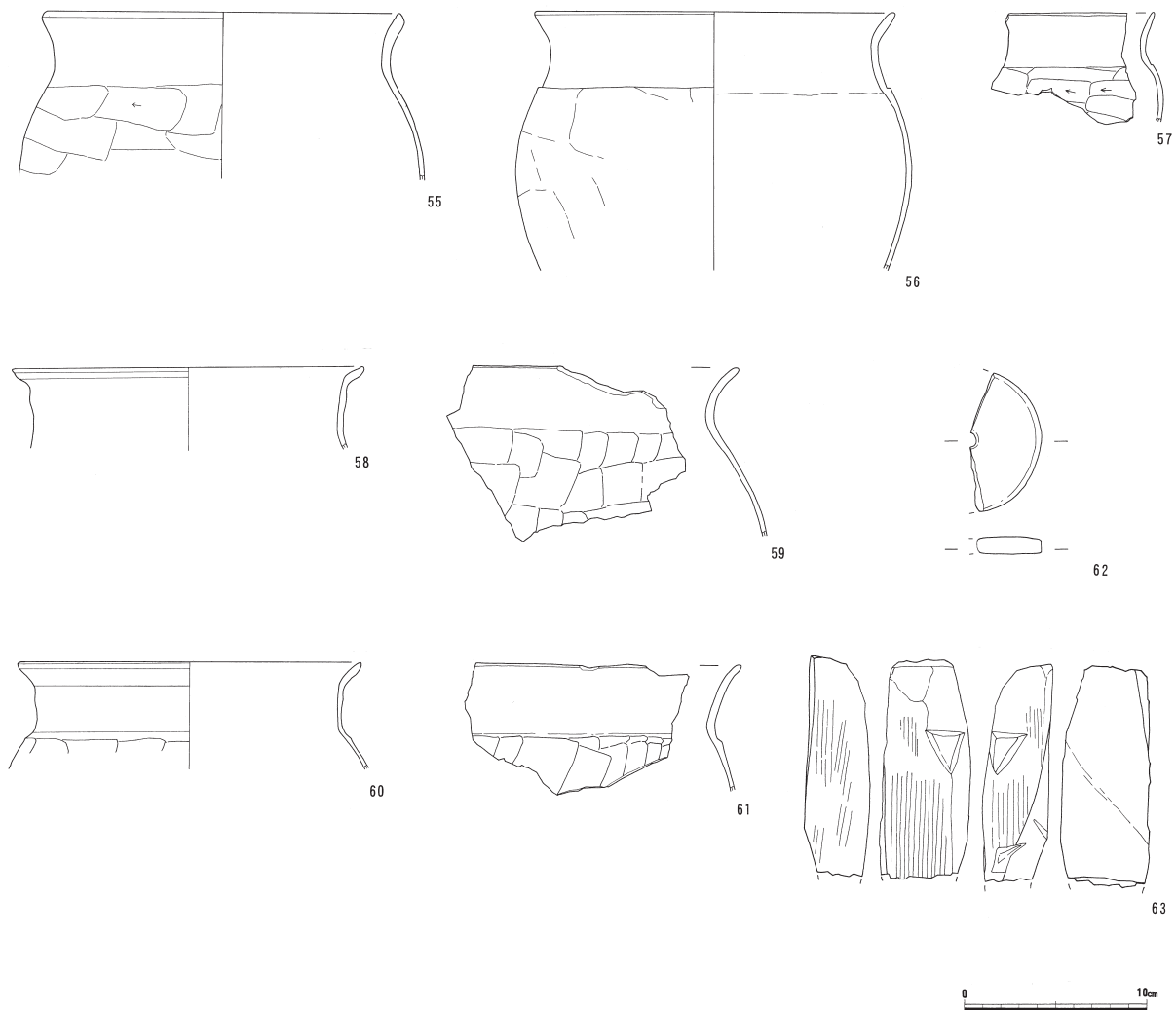
- | | | | |
|--------|------------------------------------|--------|------------------------------------|
| 1 黒褐色土 | ロームブロック・炭化粒を少量含む。
しまり・粘性普通。 | 4 暗褐色土 | ロームブロック・炭化物を少量含む。
しまりやや強い、粘性普通。 |
| 2 黒褐色土 | ロームブロック・炭化物・焼土粒を少量含む。
しまり・粘性普通。 | 5 黒褐色土 | 炭化物を少量、ローム粒を少量含む。
しまり強く、粘性普通。 |
| 3 黒褐色土 | 炭化物を少量、ローム粒を微量含む。
しまり・粘性普通。 | | |



第24図 第38号住居跡 (38H: 1/60)



第25図 第38号住居跡出土遺物 1 (38 H : 1/4)



第26図 第38号住居跡出土遺物2 (38H : 1/3、1/4)

第40号住居跡 (40H) (第27・28図)

[位置] 調査区東部

[構造] (平面形) 隅丸長方形 (規模) 住居跡西部が攪乱されているため、確認できた範囲で長軸4.6m、短軸3.9m以上である。(主軸方位) N - 2° - W (壁高) 床面から6~13cmを測る。(床) やや凹凸し、炭化物を含んだ第4層を埋め戻して床を構築している。住居跡中央部から南西部にかけて硬化範囲を確認した。また、住居跡北壁西部を除いた壁際で壁溝を確認した。(カマド) 2基確認され、住居跡北壁中央部と東壁中央部北寄りにそれぞれ付設されている。北壁中央部付設をカマド1、東壁中央部北寄り付設をカマド2とした。カマド1の規模は焚口部から煙道部まで114cmで、火床面での赤変硬化は

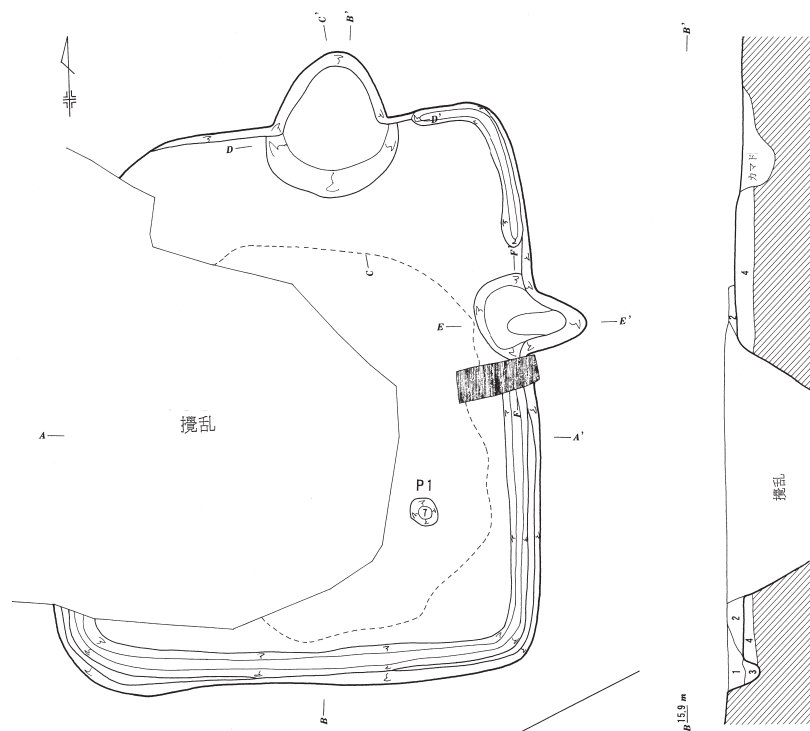
不明瞭であった。煙道部は壁外に51cm掘り込まれている。カマド2の規模は焚口部から煙道部まで92cmで、火床面での赤変硬化は不明瞭であった。煙道部は壁外に45cm掘り込まれている。また、焼土粒や炭化粒を含んだ第3・4層を埋め戻してカマドを構築している。(柱穴) P1は主柱穴と考えられ、深さ7cmを測る。

[覆土] 黒褐色土を基調とし、3層に分層される。

[遺物出土状況] 住居跡全体に散在して出土している。66・67は住居跡中央部南東寄りの覆土中層から出土している。

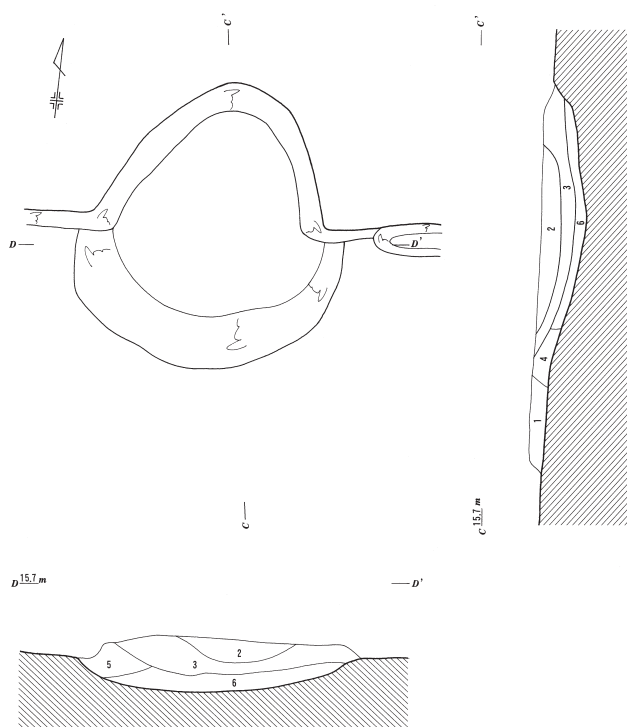
[時期] 9世紀前半

[備考] 第58号住居跡 (58Y) を掘り込んでいる。



第40号住居跡土層解説(40H: A-A', B-B')

- | | | |
|---|------|---|
| 1 | 黒褐色土 | ローム粒・焼土粒・炭化粒を少量含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 2 | 黒褐色土 | ロームブロックを中量、焼土粒を少量、粘土ブロックを微量含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 3 | 暗褐色土 | ロームブロック・炭化粒を少量含む。しまり・粘性普通。 |
| 4 | 黒褐色土 | ロームブロックを多量、炭化物を少量含む。しまり強く、粘性普通。 |



第40号住居跡カマド1土層解説(40H: C-C', D-D')

- | | | |
|---|------|---|
| 1 | 黒褐色土 | 粘土ブロックを中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物を少量含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 2 | 灰白色土 | 粘土粒を多量、焼土ブロック・炭化物を少量含む。しまり・粘性やや強い。 |
| 3 | 黒褐色土 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物を少量含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 4 | 褐色土 | ロームブロックを中量、焼土ブロック・炭化物・焼土粒を少量含む。しまりやや強く、粘性普通。 |
| 5 | 黒褐色土 | 炭化物・ローム粒を少量含む。しまり・粘性普通。 |
| 6 | 黒褐色土 | ロームブロック・焼土粒・炭化粒を少量含む。しまり・粘性普通。 |

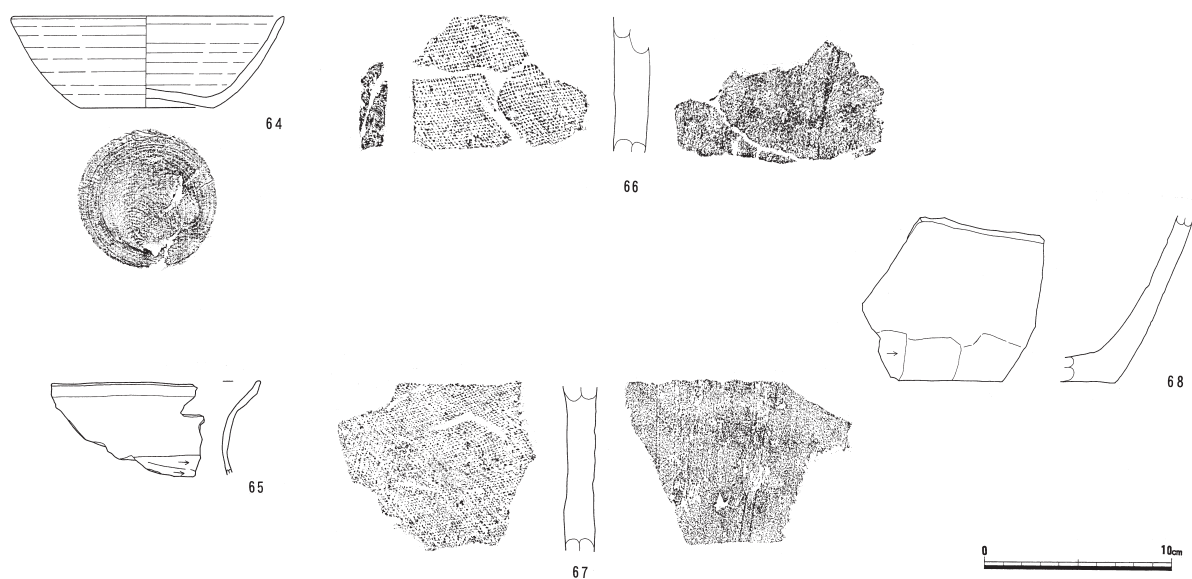
攪乱
硬化範囲



第27図 第40号住居跡1 (40H: 1/30, 1/60)



第28図 第40号住居跡2 (40H: 1/30、1/60)



第29図 第40号住居跡出土遺物 (40 H : 1/4)

No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
64	須恵器 坏	14.5	7.1	4.8	灰色	石英 小礫 砂粒	外内面：ロクロナデ 底面：回転糸切り後、外周を回転ヘラ削り
65	土師器 甕	—	—	(5.0)	橙色	石英 角閃石 砂粒 白色粒子	口縁部外面：ナデ 体部外面：ヘラ削り 内面：ナデ
68	須恵器 甕類	—	—	(8.8)	黒褐色	石英 砂粒 黒色粒子 白色粒子	外内面：自然釉降灰

※ () は現存の規格

第19表 第40号住居跡 (40 H) 出土土器観察表

No.	種別	長辺 (cm)	短辺 (cm)	厚さ (cm)	色調	胎土	備考
66	丸瓦	(7.2)	(12.3)	2.0	橙色	石英 砂粒 小礫 赤色粒子	凸面：ヘラ削り 凹面：布目圧痕 No.67 と同一個体か
67	丸瓦	(8.7)	(12.2)	1.6	橙色	石英 砂粒 小礫 赤色粒子	凸面：ヘラ削り 凹面：布目圧痕 No.66 と同一個体か

※ () は現存の規格

第20表 第40号住居跡 (40 H) 出土瓦観察表

第41号住居跡（41H）（第30・31図）

[位置] 調査区北部

[構造] (平面形) 隅丸長方形 (規模) 長軸3.7m、短軸3.1m (主軸方位) N-3°-W (壁高) 床面から18～26cmを測る。(床) 平坦で、炭化物を含んだ第9層を埋め戻して床を構築している。住居跡北部から南部にかけて硬化範囲を確認した。また、壁際で壁溝を確認し、住居跡東部の壁溝内でピット状の掘り込みを確認した。(カマド) カマド西部が調査区域外へ延びているため、確認できた範囲で規模は焚口部から煙道部まで171cmである。火床面での赤変硬化は確認できなかった。煙道部は壁外に84cm掘り込まれている。

[覆土] 暗褐色土を基調とし、8層に分層される。

[遺物出土状況] 住居跡西部の床面及び覆土下層から69～73・76・77の須恵器が出土している。70・71・72は住居跡西部の床面で正位に重なった状態で出土し、70の上に71、71の上に72が重なっていた。また、住居跡中央部の床面から保存状態の良い炭化材がまとまって出土している。

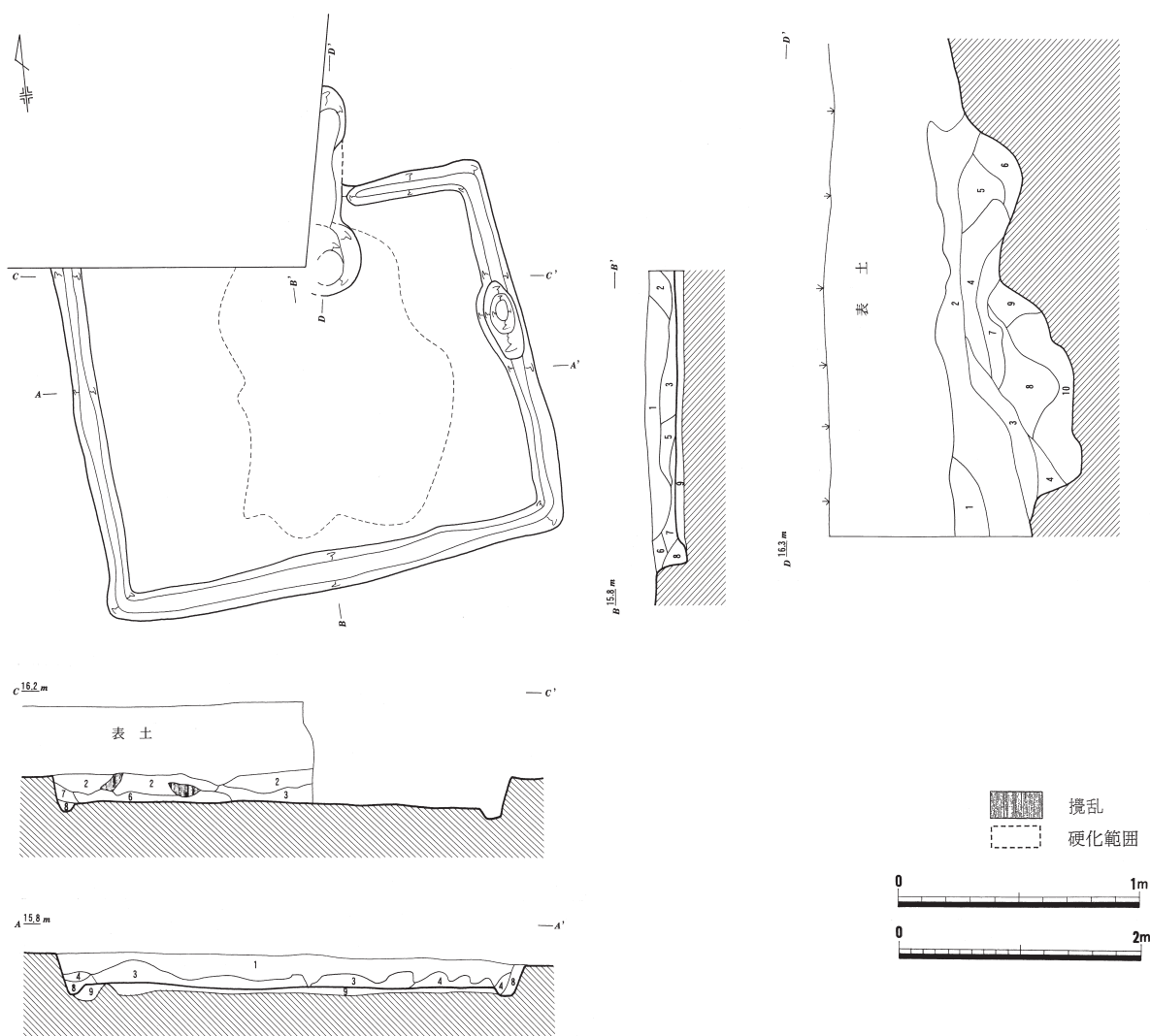
[時期] 8世紀後葉～9世紀前葉

[備考] 出土した炭化材のうち、サンプル4点について樹種同定分析を実施した結果、4点全てがコナラ属クヌギ節であることが判明した。

No	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
69	須恵器 坏	13.9	7.7	3.9	橙色	石英 白針状物質 砂粒	外内面：ロクロナデ 底面：回転ヘラ削り 南比企窯産
70	須恵器 坏	12.8	7.8	3.5	灰色	石英 長石 白針状物質 小礫 砂粒	外内面：ロクロナデ 底面：回転糸切り後に外周を回 転ヘラ削り 外面：墨書「福」 南比企窯産
71	須恵器 坏	12.6	6.1	3.5	灰色	石英 白針状物質 小礫 砂粒	外内面：ロクロナデ 底面：回転ヘラ削り 外面：墨書「福」 南比企窯産
72	須恵器 坏	12.4	6.8	3.2	灰色	石英 白針状物質 小礫 砂粒	外内面：ロクロナデ 底面：回転ヘラ削り 南比企窯産
73	須恵器 坏	12.4	6.9	3.3	灰色	石英 砂粒 小礫	外内面：ロクロナデ 底面：回転糸切り後、外周をヘ ラ削り
74	須恵器 坏	—	8.1	(1.9)	暗褐色	石英 白色粒子	外内面：ロクロナデ 底面：回転ヘラ削り
75	須恵器 坏	13.2	—	(3.5)	灰色	石英 白針状物質 白色粒子	外内面：ロクロナデ
76	須恵器 鉢	18.6	7.3	9.3	灰白色	石英 白色粒子	外内面：ロクロナデ 底面：回転ヘラ削り
77	須恵器 甕	—	—	(7.1)	灰色	石英 白色粒子	外面：平行叩き目 内面：無文当具痕

※ () は現存の規格

第21表 第41号住居跡（41H）出土土器観察表



第41号住居跡土層解説 (41H: A-A', B-B', C-C')

- | | |
|--------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色土 | ローム粒を微量含む。しまり弱く、粘性普通。 |
| 2 暗褐色土 | ローム粒を少量含む。しまり・粘性普通。 |
| 3 暗褐色土 | ロームブロックを中量、炭化粒を微量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 4 褐色土 | ローム粒を少量含む。
しまりやや弱く、粘性普通。 |
| 5 暗褐色土 | ロームブロックを中量含む。しまり・粘性普通。 |

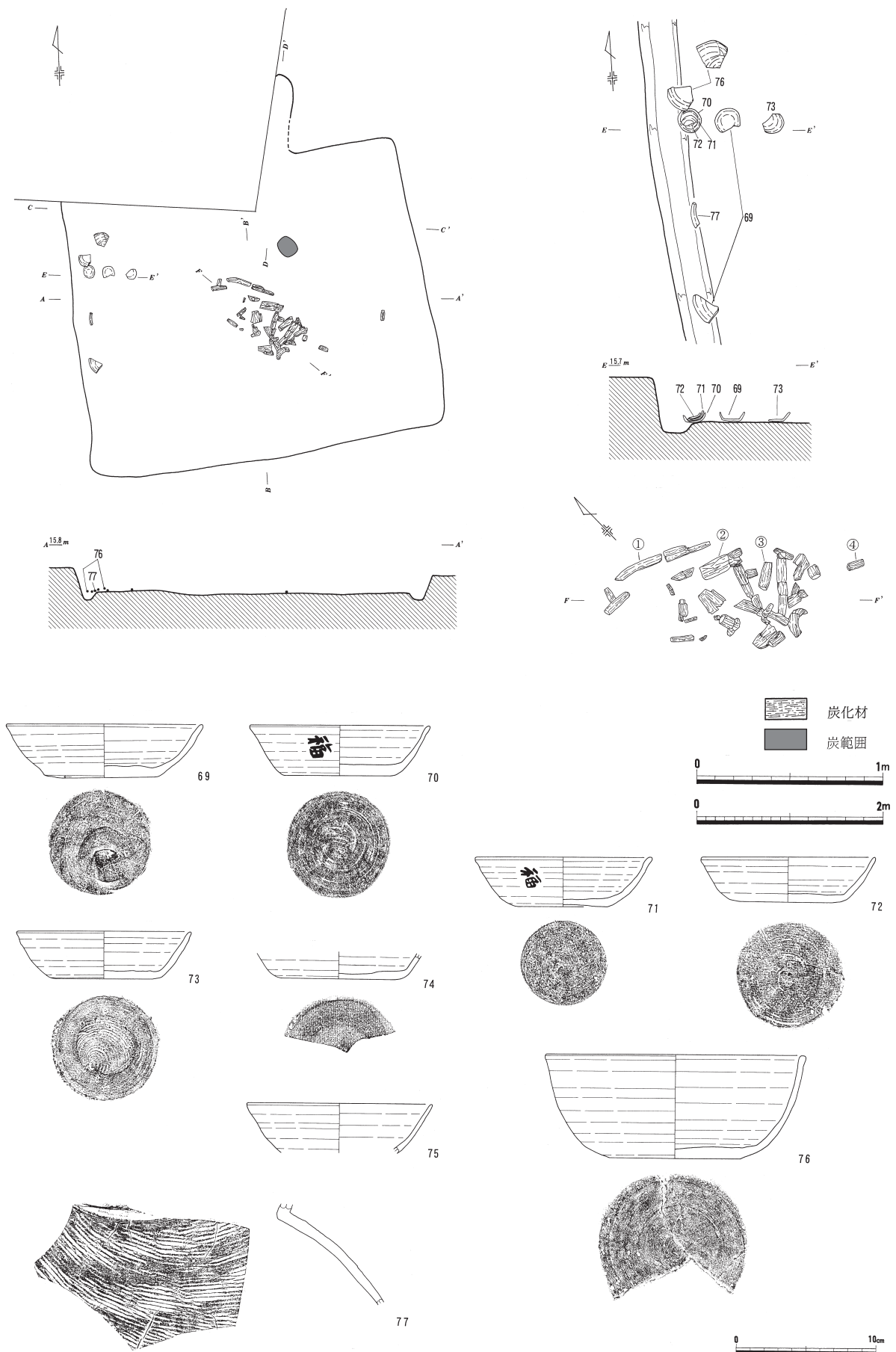
- | | |
|--------|---------------------------------------|
| 6 黄褐色土 | ロームブロックを多量、炭化物を少量含む。
しまりやや強く、粘性普通。 |
| 7 暗褐色土 | ロームブロックを中量含む。
しまりやや強く、粘性普通。 |
| 8 暗褐色土 | ロームブロック・炭化物・焼土粒を少量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 9 褐色土 | ロームブロックを多量、炭化物を微量含む。
しまり強く、粘性普通。 |

第41号住居跡カマド土層解説 (41H: D-D')

- | | |
|--------|---|
| 1 暗褐色土 | ローム粒を微量含む。しまり弱く、粘性普通。 |
| 2 暗褐色土 | ローム粒を少量含む。しまり・粘性普通。 |
| 3 暗褐色土 | ローム粒・炭化粒を微量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 4 褐色土 | ロームブロック・焼土粒を少量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 5 褐色土 | ローム粒を中量含む。しまり・粘性普通。 |
| 6 褐色土 | ロームブロックを中量、炭化粒・焼土粒を微量
含む。しまりやや強く、粘性普通。 |

- | | |
|---------|--|
| 7 黒褐色土 | 炭化粒を少量、ロームブロックを微量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 8 暗褐色土 | 焼土ブロックを中量、ローム粒・炭化粒・粘土
粒を少量含む。しまり普通、粘性やや弱い。 |
| 9 赤褐色土 | 焼土ブロックを中量、炭化粒を微量含む。
しまり強く、粘性弱い。 |
| 10 黒褐色土 | 焼土粒を多量、ロームブロック・炭化物を少量、
粘土粒を微量含む。しまり普通、粘性やや弱い。 |

第30図 第41号住居跡 (41H: 1/30、1/60)



第31図 第41号住居跡及び出土遺物 (41 H : 1/30、1/60、1/4)

第42号住居跡（42H）（第32・33図）

〔位置〕 調査区中央部

〔構造〕（平面形）隅丸長方形（規模）住居跡南部が調査区域外へ延びているため、確認できた範囲で長軸3.2m以上、短軸3.7mである。（主軸方位）N－1°－E（壁高）床面から約26cmを測る。（床）平坦で、焼土ブロックや粘土粒・炭化粒を含んだ第8～10層を埋め戻して床を構築している。住居跡東壁及び西壁の壁際で壁溝を確認した。（カマド）住居跡北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで141cmで、燃焼部幅は42cmを測る。火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に69

cm掘り込まれている。

〔覆土〕 黒褐色土を基調とし、7層に分層される。なお、第1～3層は第23号溝跡（23M）、第4～7層は第42号住居跡（42H）に該当する。

〔遺物出土状況〕 住居跡全体の覆土中層から下層にかけて土器片が散在して出土している。78・82は北西コーナー部の覆土下層から、83は住居跡中央部東寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。

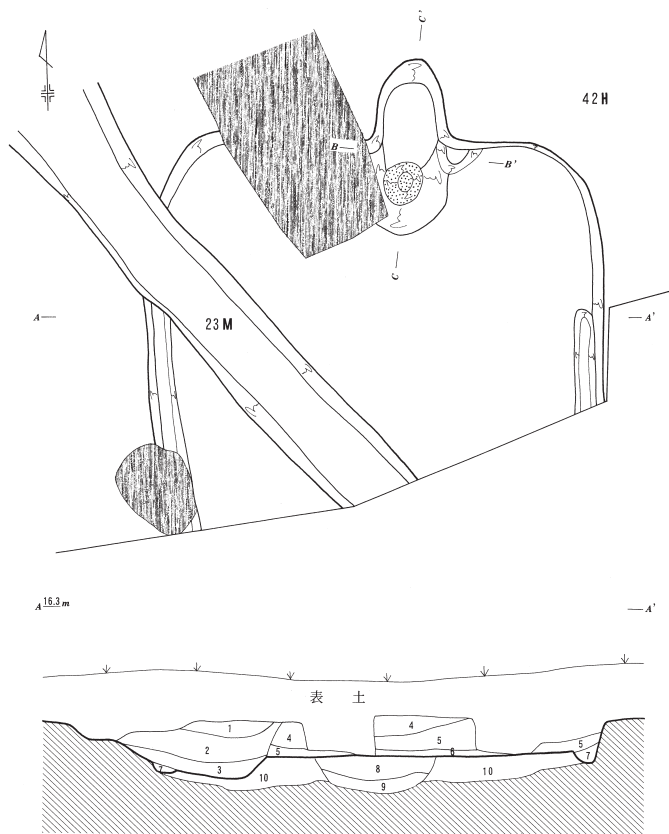
〔時期〕 9世紀前葉

〔備考〕 第23号溝（23M）に掘り込まれている。

No.	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	色調	胎土	備考
78	須恵器 坏	12.4	7.7	3.7	灰色	石英 小礫 砂粒	外内面：ロクロナデ 底面：回転糸切り
79	須恵器 坏	12.2	6.4	3.6	灰色	石英 砂粒	外内面：ロクロナデ 底面：回転糸切り
80	須恵器 坏	13.0	—	(3.2)	灰色	石英 白針状物質 小礫 砂粒	外内面：ロクロナデ 南比企窯産
81	須恵器 坏	—	7.0	(1.6)	灰色	石英 砂粒	外内面：ロクロナデ 底面：回転糸切り
82	土師器 甕	19.2	—	(10.9)	暗褐色	石英 角閃石 白色粒子	外面：ヘラ削り 内面：ナデ
83	土師器 小形甕	11.2	—	(4.3)	黒褐色	石英 白色粒子	外面：ヘラ削り 内面：ナデ
84	土師器 甕	—	5.2	(3.2)	黒褐色	石英 角閃石 砂粒	外内面：ヘラ削り 底面：ヘラ削り
85	土師器 台付甕	—	—	(6.0)	黄褐色	石英 角閃石 白色粒子	外面：ヘラ削り 内面：ヘラナデ

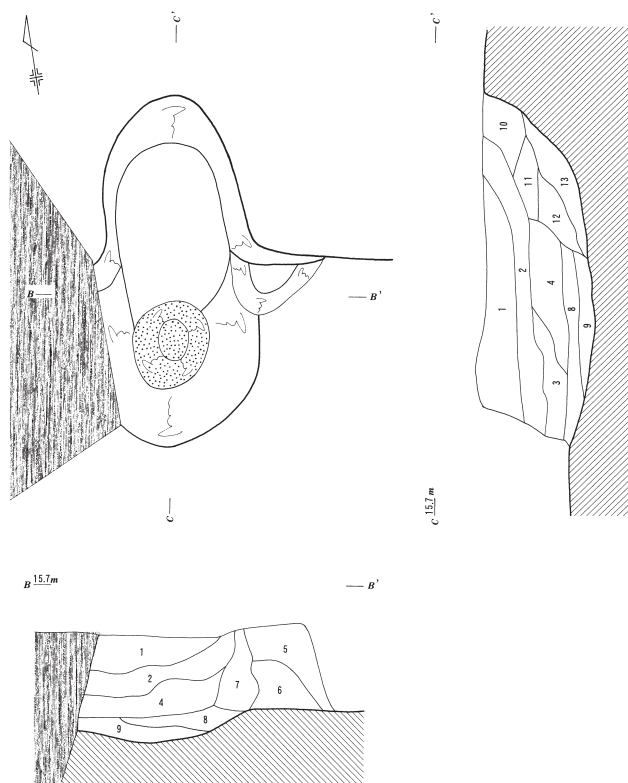
※（ ）は現存の規格

第22表 第42号住居跡（42H）出土土器観察表



第42号住居跡土層解説(42H: A-A')

- 1 黒色土 炭化物を少量、ローム粒を微量含む。しまりやや弱く、粘性普通。
- 2 黒褐色土 ロームブロック・炭化物を少量含む。しまり・粘性普通。
- 3 暗褐色土 ロームブロックを中量、炭化粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 4 黒褐色土 炭化物を少量、ローム粒を微量含む。しまりやや弱く、粘性普通。
- 5 黒褐色土 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物を少量含む。しまり・粘性普通。
- 6 黒褐色土 ロームブロック・粘土ブロック・焼土ブロック・炭化物を少量含む。しまり普通、粘性やや強い。
- 7 黒褐色土 ロームブロックを中量、炭化物を少量含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 8 赤褐色土 焼土ブロックを多量、ローム粒・炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性弱い。
- 9 灰白色土 粘土粒を多量、炭化粒を少量含む。しまり・粘性強い。
- 10 黒褐色土 ロームブロック・炭化粒を少量含む。しまり強く、粘性普通。

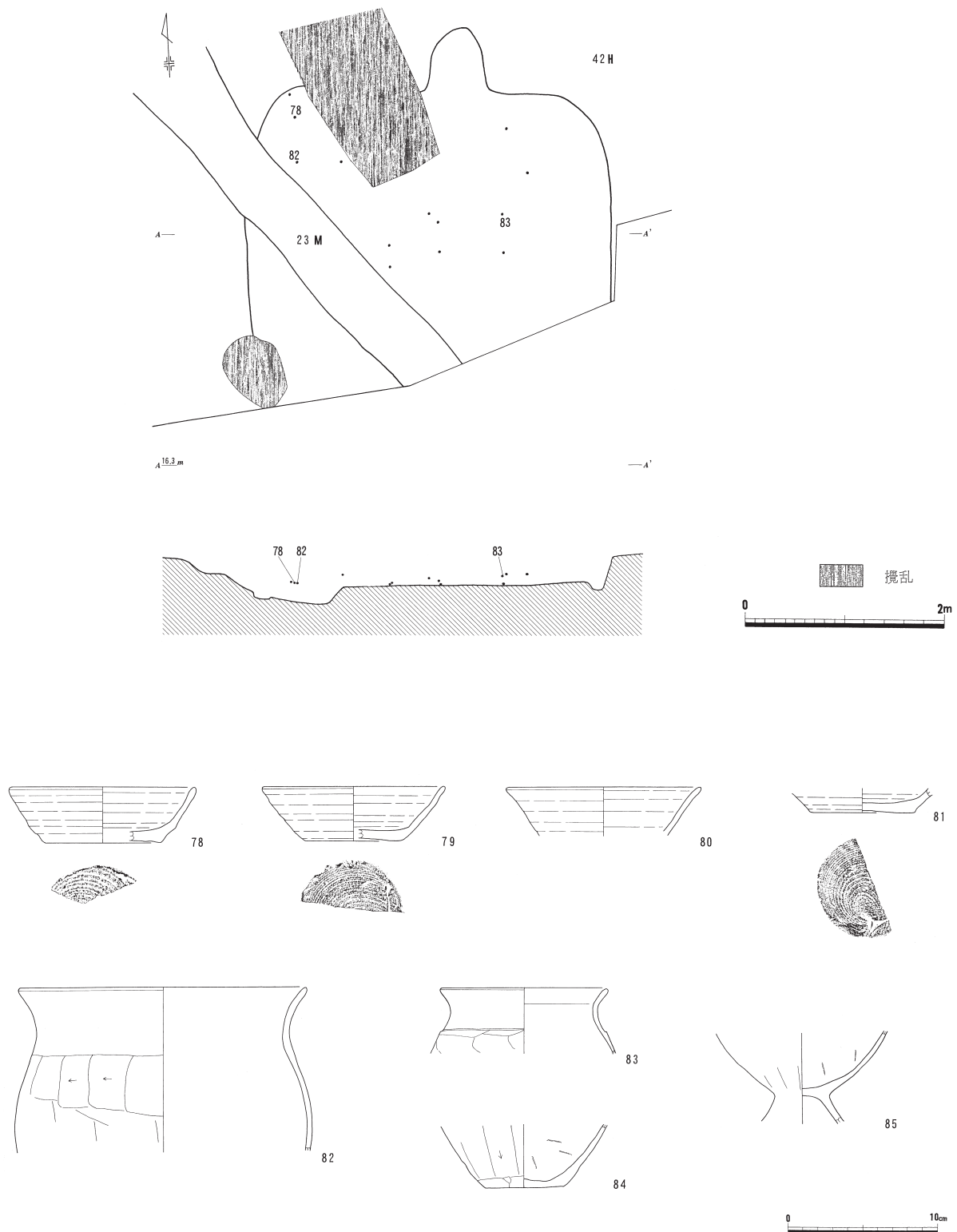


第42号住居跡カマド土層解説(42H: B-B', C-C')

- 1 黒褐色土 ロームブロック・炭化物・焼土粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 2 黒褐色土 焼土ブロック・炭化物・ローム粒を少量含む。しまり普通、粘性やや弱い。
- 3 黒褐色土 粘土ブロック・焼土ブロック・炭化物を少量、ローム粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 4 黒褐色土 ロームブロック・焼土ブロックを中量、粘土粒・炭化粒を少量含む。しまり普通、粘性やや弱い。
- 5 黒褐色土 砂粒を中量、炭化物を少量、ローム粒微量含む。しまり・粘性弱い。
- 6 黒褐色土 ロームブロックを中量、炭化粒・砂粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 7 黒褐色土 粘土ブロックを中量、ロームブロック・炭化物・焼土粒を少量含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 8 黒褐色土 粘土ブロックを中量、炭化物・ローム粒を少量含む。しまり・粘性やや強い。
- 9 黒褐色土 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物を少量含む。しまり強く、粘性普通。



第32図 第42号住居跡 (42H: 1/30、1/60)



第33図 第42号住居跡及び出土遺物（42H：1/60、1/4）

第4節 その他の遺構と遺物

1. 溝跡

第23号溝跡（23M）（第34図）

〔位置〕 調査区中央部

〔構造〕（開口部幅）0.7～1.0 m（壁高）底部から約14 cmを測り、壁は緩やかに立ち上がる。（底部）平坦である。

〔覆土〕 黒褐色土を基調としている。

〔遺物出土状況〕 覆土中から土器片等が散在して出土している。

〔時期〕 時期不明

〔備考〕 第55号住居跡（55 Y）・第42号住居跡（42 H）を掘り込み、第25号土坑（25HD）に掘り込まれている。

第25号溝跡（25M）（第35図）

〔位置〕 調査区北東部

〔構造〕（開口部幅）1.7～1.8 m（壁高）底部から16～25 cmを測り、壁は緩やかに立ち上がる。（底部）やや凹凸がある。本跡南部の底部から壁にかけて6基のピットが確認された。

〔覆土〕 暗褐色土を基調としている。

〔遺物出土状況〕 覆土中から土器片や陶磁器片が出土している。

〔時期〕 時期不明

第24号溝跡（24M）（第14図）

〔位置〕 調査区北部

〔構造〕（開口部幅）0.6～0.8 m（壁高）底部から約22 cmを測り、緩やかに立ち上がる。（底部）断面形がU字状である。

〔覆土〕 黒褐色土を基調とし、3層に分層される。

〔遺物出土状況〕 覆土中から土器片や陶磁器片が散在して出土している。

〔時期〕 時期不明

〔備考〕 第59号住居跡（59 Y）を掘り込んでいる。

第26号溝跡（26M）（第36図）

〔位置〕 調査区中央部から東部にかけて

〔構造〕（開口部幅）0.4～1.1 m（底部）やや凹凸している。

〔遺物出土状況〕 覆土中から土器の細片が僅かに出土している。

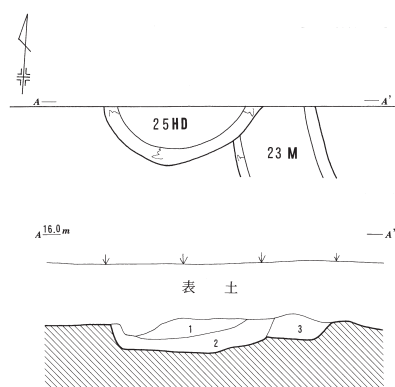
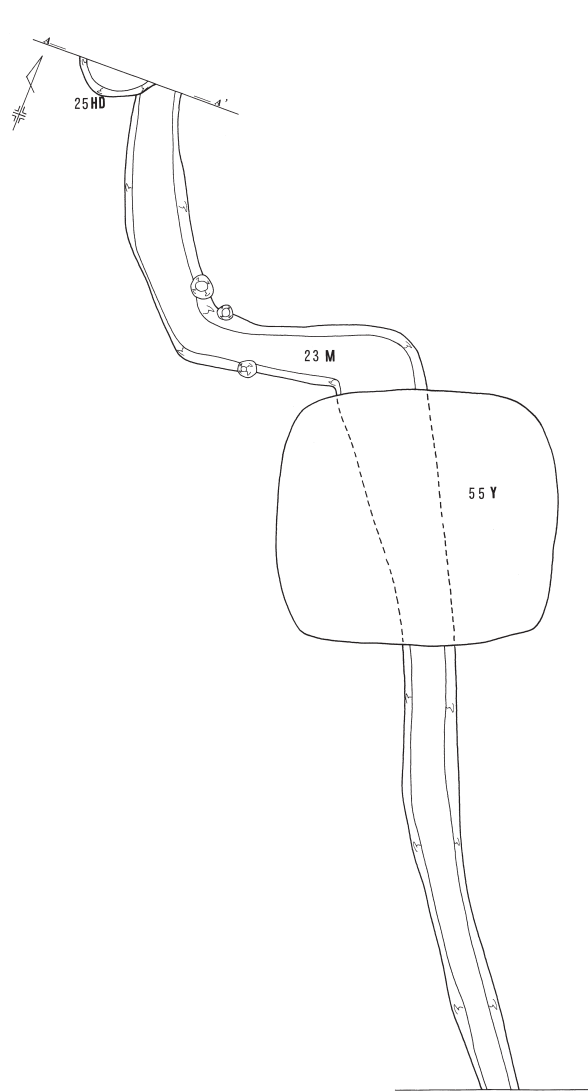
〔時期〕 時期不明

〔備考〕 第58号住居跡（58 Y）を掘り込んでいる。

No.	種別	長辺 (cm)	短辺 (cm)	厚さ (cm)	色調	胎土	備考
86	平瓦	(6.8)	(7.3)	(1.9)	橙色	石英 砂粒 赤色粒子	凸面：縄叩き目 凹面：剥離

※（ ）は現存の規格

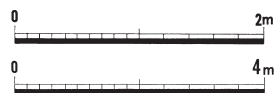
第23表 第23号溝跡（23M）出土瓦観察表



第23号溝跡・第25号土坑土層解説(23M・25HD:A-A')

- | | |
|--------|---|
| 1 黒褐色土 | ローム粒・炭化粒を少量、焼土ブロックを微量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 2 黒褐色土 | ロームブロックを中量、炭化物・焼土粒を少量含む。
しまりやや強く、粘性普通。 |
| 3 黒褐色土 | ロームブロック・炭化粒を少量含む。
しまり・粘性普通。 |

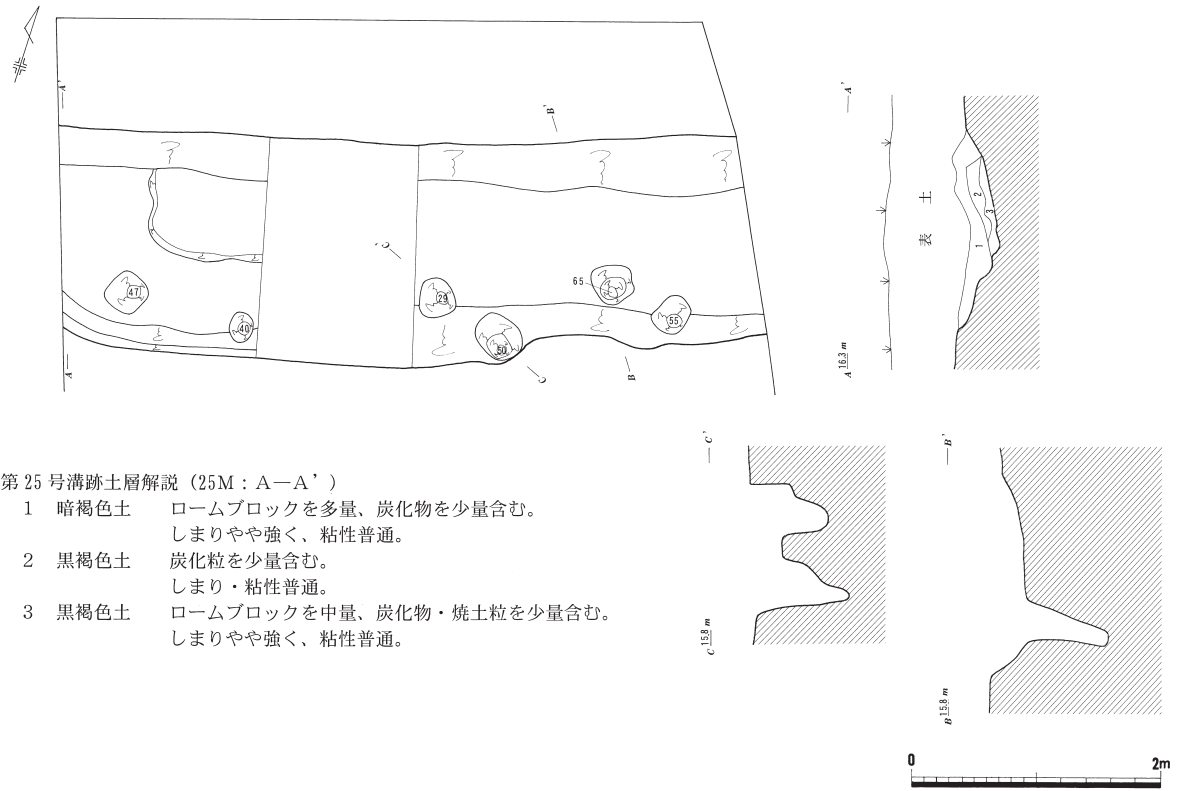
硬化範囲



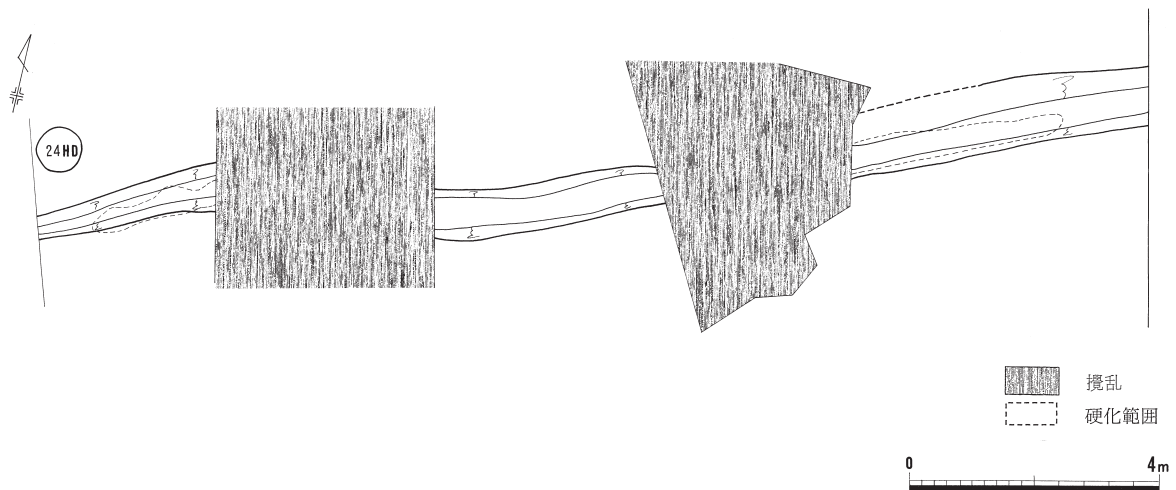
86



第34図 第23号溝跡・第25号土坑及び第23号溝跡出土遺物(23M・25HD:1/60、1/120、1/4)



第35図 第25号溝跡 (25M : 1/60)



第36図 第26号溝跡 (26M : 1/120)

2. 土坑

第18号土坑（18HD）（第37図）

〔位置〕 調査区中央部

〔構造〕 長径144cm、短径121cm、深さ12cmを測る。主

軸方位はN－20°－W。平面形は楕円形を呈する。

〔覆土〕 暗褐色土を基調とし、6層に分層される。

〔遺物出土状況〕 覆土中から87が出土している。

〔時期〕 古代以降

第19号土坑（19HD）（第37図）

〔位置〕 調査区南部

〔構造〕 長径96cm、短径78cm、深さ約11cmを測る。主

軸方位はN－10°－W。平面形は楕円形を呈する。

〔覆土〕 暗褐色土を基調とし、3層に分層される。

〔時期〕 時期不明

第20号土坑（20HD）（第37図）

〔位置〕 調査区南部

〔構造〕 長径67cm、短径60cm、深さ約11cmを測る。主

軸方位はN－23°－E。平面形は楕円形を呈する。

〔覆土〕 褐色土を基調とし、3層に分層される。

〔時期〕 時期不明

第21号土坑（21HD）（第37図）

〔位置〕 調査区南部

〔構造〕 長径123cm、短径82cm、深さ約10cmを測る。主

軸方位はN－78°－W。平面形は楕円形を呈する。

〔覆土〕 赤褐色土を基調とし、2層に分層される。

〔時期〕 時期不明

第22号土坑（22HD）（第37図）

〔位置〕 調査区中央部

〔構造〕 長径65cm、短径55cm、深さ17cmを測る。主軸

方位はN－72°－W。平面形は楕円形を呈する。

〔覆土〕 黒褐色土を基調とし、2層に分層される。

〔時期〕 時期不明

〔備考〕 第36号住居跡（36H）を掘り込んでいる。

第23号土坑（23HD）（第37図）

〔位置〕 調査区南部

〔構造〕 長径64cm、短径48cm、深さ30cmを測る。主軸

方位はN－23°－W。平面形は楕円形を呈する。

〔覆土〕 黒褐色土を基調とし、2層に分層される。

〔時期〕 時期不明

〔備考〕 第36号住居跡（36H）を掘り込んでいる。

第24号土坑（24HD）（第37図）

〔位置〕 調査区中央部

〔構造〕 径69cm、深さ14cmを測る。平面形は円形を呈

する。

〔覆土〕 暗褐色土を基調とした単一層である。

〔時期〕 時期不明

第25号土坑（25HD）（第34図）

〔位置〕 調査区中央部

〔構造〕 確認できた範囲で規模は長径107cm以上、短径

72cm以上で、深さ約19cmを測る。主軸方位はN－51

°－E。平面形は楕円形を呈する。

〔覆土〕 黒褐色土を基調とし、2層に分層される。

〔時期〕 時期不明

〔備考〕 第23号溝跡（23M）を掘り込んでいる。

第26号土坑（26HD）（第37図）

〔位置〕 調査区中央部

〔構造〕 径70cm、深さ17cmを測る。平面形は円形を呈

する。

〔覆土〕 暗褐色土を基調とし、2層に分層される。

〔時期〕 時期不明

第27号土坑（27HD）（第37図）

〔位置〕 調査区中央部

〔構造〕 確認できた範囲で、長径114cm以上、短径85

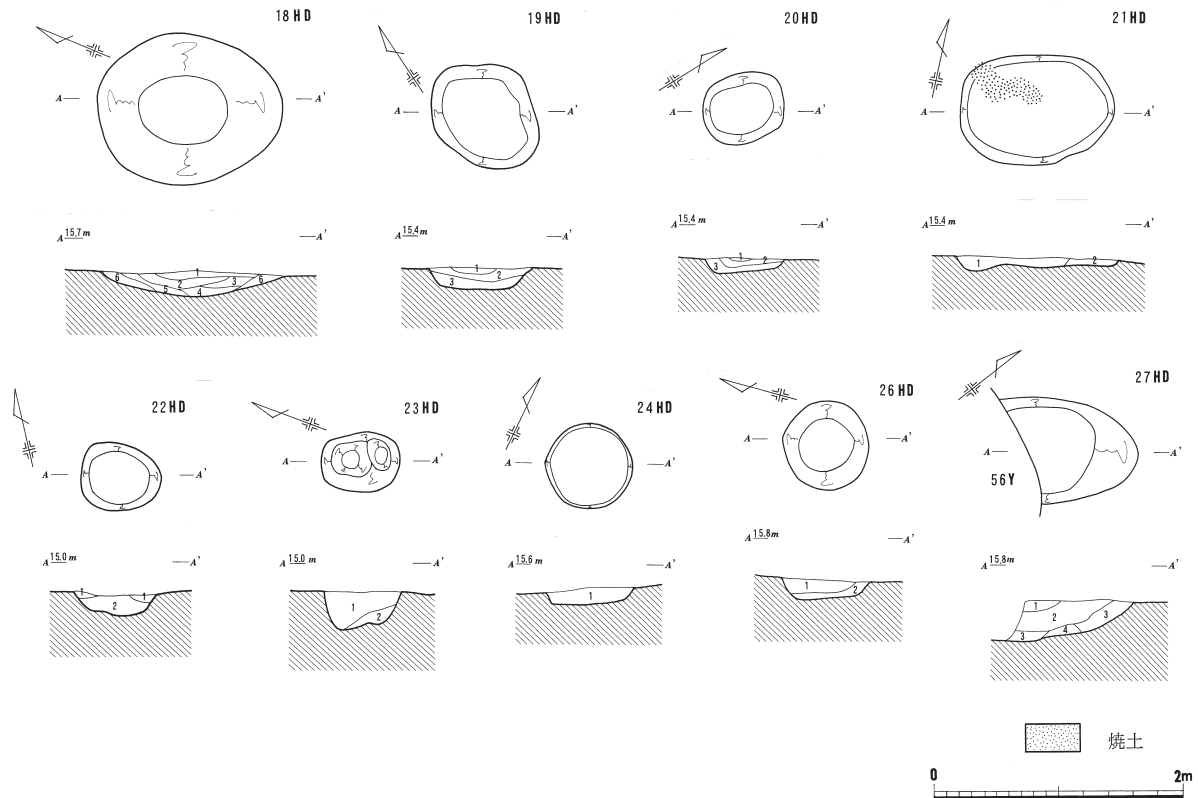
cm、深さ30cmを測る。主軸方位はN－43°－E。平

面形は楕円形を呈する。

〔覆土〕 黒褐色土を基調とし、4層に分層される。

〔時期〕 時期不明

〔備考〕 第56号住居跡（56Y）を掘り込んでいる。



第18号土坑土層解説(18HD: A-A')

- 1 暗褐色土 ローム粒・炭化粒を少量含む。
しまり弱く、粘性普通。
- 2 暗褐色土 炭化粒を少量、ローム粒を微量含む。
しまり・粘性普通。
- 3 黒褐色土 炭化粒を少量、ローム粒を微量含む。
しまりやや強く、粘性普通。
- 4 暗褐色土 ロームブロックを少量、炭化粒を微量含む。
しまり・粘性普通。
- 5 暗褐色土 ローム粒・炭化粒を少量含む。
しまり強く、粘性普通。
- 6 褐色土 ロームブロックを少量含む。
しまり強く、粘性普通。

第19号土坑土層解説(19HD: A-A')

- 1 黒褐色土 炭化粒を中量、焼土粒を少量、ローム粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 2 暗褐色土 ロームブロック・炭化粒を少量含む。
しまりやや強く、粘性普通。
- 3 褐色土 ロームブロックを中量、焼土粒を少量含む。
しまり・粘性普通。

第20号土坑土層解説(20HD: A-A')

- 1 黒褐色土 炭化粒を中量、焼土粒・ローム粒を少量含む。
しまり・粘性普通。
- 2 暗褐色土 ロームブロック・炭化粒を少量含む。
しまり・粘性普通。
- 3 褐色土 ロームブロック・焼土粒を少量含む。
しまり・粘性普通。

第21号土坑土層解説(21HD: A-A')

- 1 赤褐色土 焼土粒を多量、ローム粒・炭化粒を少量含む。
しまり弱く、粘性普通。
- 2 暗褐色土 ローム粒・炭化粒を少量含む。
しまり・粘性普通。

第22号土坑土層解説(22HD: A-A')

- 1 黒褐色土 ロームブロックを中量含む。
しまりやや強く、粘性普通。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを中量、炭化物を少量含む。
しまり・粘性普通。

第23号土坑土層解説(23HD: A-A')

- 1 黒褐色土 ロームブロック・炭化物を少量含む。
しまり・粘性普通。
- 2 黒褐色土 ロームブロックを中量含む。
しまりやや強く、粘性普通。

第24号土坑土層解説(24HD: A-A')

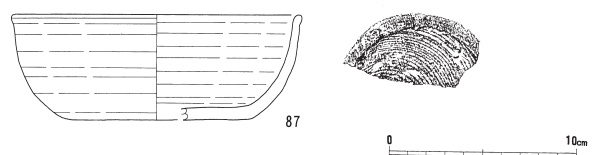
- 1 暗褐色土 ローム粒を中量、炭化粒を少量含む。
しまり・粘性普通。

第26号土坑土層解説(26HD: A-A')

- 1 暗褐色土 ロームブロックを少量、焼土粒を微量含む。
しまり・粘性普通。
- 2 褐色土 ロームブロックを中量、焼土粒を微量含む。
しまりやや強く、粘性普通。

第27号土坑土層解説(27HD: A-A')

- 1 黒褐色土 ロームブロック・炭化物を少量含む。
しまりやや強く、粘性普通。
- 2 黒褐色土 炭化物・ローム粒を少量含む。
しまり・粘性普通。
- 3 黒色土 炭化物を中量、ローム粒を微量含む。
しまり弱く、粘性普通。
- 4 褐色土 ロームブロックを中量含む。
しまりやや強く、粘性普通。



第37図 第18～27号土坑及び第18号土坑出土遺物(18～27HD: 1/60、1/4)

第28号土坑（28HD）（第38図）

〔位置〕 調査区中央部

〔構造〕 径65cm、深さ16cmを測る。平面形は円形を呈する。

〔覆土〕 暗褐色土を基調とし、2層に分層される。

〔時期〕 時期不明

第30号土坑（30HD）（第38図）

〔位置〕 調査区中央部

〔構造〕 長径52cm、短径42cm、深さ14cmを測る。主軸方位はN-1°-W。平面形は楕円形を呈する。

〔覆土〕 暗褐色土を基調とし、4層に分層される。

〔時期〕 時期不明

第29号土坑（29HD）（第38図）

〔位置〕 調査区中央部

〔構造〕 長径65cm、短径54cm、深さ21cmを測る。主軸方位はN-82°-E。平面形は楕円形を呈する。

〔覆土〕 褐色土を基調とし、2層に分層される。

〔時期〕 時期不明

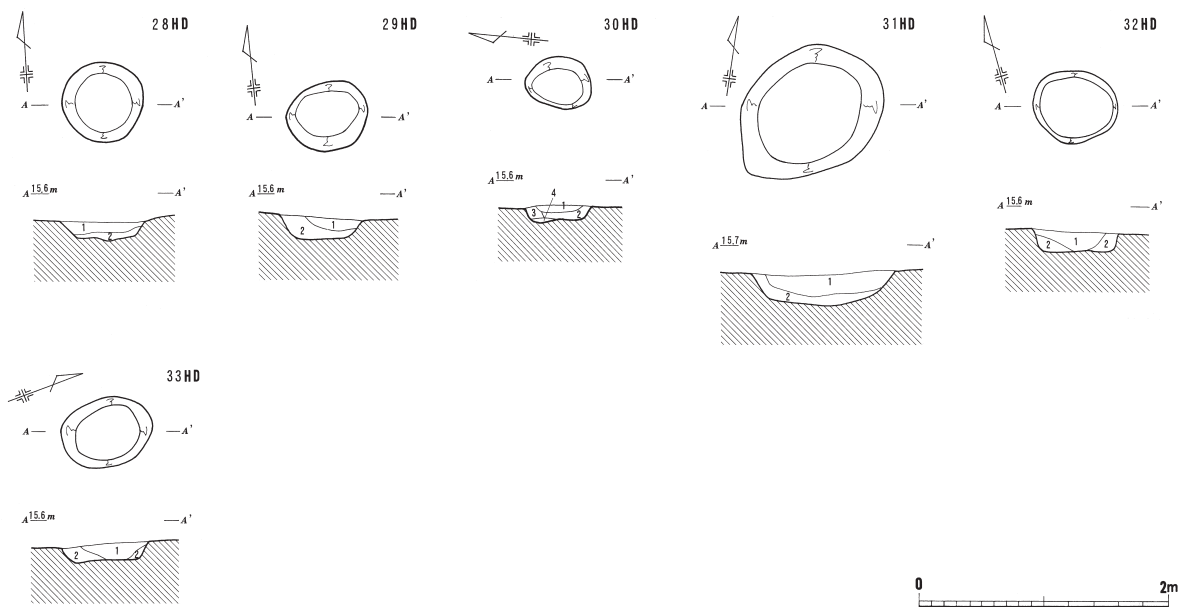
第31号土坑（31HD）（第38図）

〔位置〕 調査区中央部

〔構造〕 長径130cm、短径99cm、深さ27cmを測る。主軸方位はN-47°-E。平面形は楕円形を呈する。

〔覆土〕 黒褐色土を基調とし、2層に分層される。

〔時期〕 時期不明

**第28号土坑土層解説（28HD：A-A'）**

- 1 暗褐色土 炭化物・ローム粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 2 褐色土 ロームブロックを少量含む。しまりやや強く、粘性普通。

第29号土坑土層解説（29HD：A-A'）

- 1 暗褐色土 ローム粒を中量、炭化物を少量含む。しまり・粘性普通。
- 2 褐色土 ローム粒を多量、炭化粒を微量含む。しまり強く、粘性普通。

第30号土坑土層解説（30HD：A-A'）

- 1 黒褐色土 ロームブロック・炭化粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを中量含む。しまりやや強く、粘性普通。
- 3 暗褐色土 ロームブロック・炭化粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 4 褐色土 ローム粒を多量含む。しまり強く、粘性弱い。

第31号土坑土層解説（31HD：A-A'）

- 1 黒褐色土 ローム粒・炭化粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 2 暗褐色土 ロームブロックを中量、炭化粒を少量含む。しまりやや強く、粘性普通。

第32号土坑土層解説（32HD：A-A'）

- 1 黒褐色土 ロームブロック・炭化物を少量含む。しまり・粘性普通。
- 2 褐色土 ローム粒を中量、炭化物を少量含む。しまり強く、粘性弱い。

第33号土坑土層解説（33HD：A-A'）

- 1 暗褐色土 炭化物・ローム粒を少量含む。しまり・粘性普通。
- 2 褐色土 ローム粒を多量、炭化粒を少量含む。しまりやや強く、粘性普通。

第32号土坑（32HD）（第38図）

〔位置〕 調査区中央部

〔構造〕 長径67cm、短径58cm、深さ18cmを測る。主軸方位はN-74°-W。平面形は楕円形を呈する。

〔覆土〕 黒褐色土を基調とし、2層に分層される。

〔時期〕 時期不明

第33号土坑（33HD）（第38図）

〔位置〕 調査区中央部

〔構造〕 長径74cm、短径55cm、深さ14cmを測る。主軸方位はN-13°-E。平面形は楕円形を呈する。

〔覆土〕 暗褐色土を基調とし、2層に分層される。

〔時期〕 時期不明

No.	種別	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
87	須恵器 碗	15.4	10.0	5.6	灰色	石英 小礫	外内面：ロクロナデ 底面：回転糸切り後、外周を回転ヘラ削り

第24表 第18号土坑（18HD）出土土器観察表

3. ピット

第1号ピット（Pit 1）（第14図）

〔位置〕 調査区北部

〔構造〕 径57cm、深さ64cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

〔覆土〕 暗褐色土を基調とし、6層に分層される。

〔時期〕 時期不明

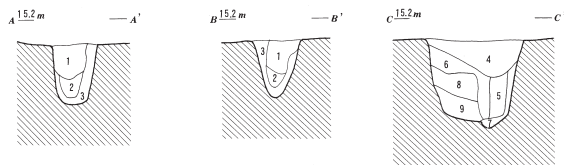
第2号ピット（Pit 2）（第39図）

〔位置〕 調査区西部

〔構造〕 長径39cm、短径35cm、深さ48cmを測る。平面形は円形を呈する。

〔覆土〕 暗褐色土を基調とし、3層に分層される。

〔時期〕 時期不明



第2・3・7号ピット土層解説

(Pit 2・Pit 3・Pit 7 : A-A', B-B', C-C')

- | | |
|--------|------------------------------------|
| 1 暗褐色土 | ロームブロックを少量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 2 暗褐色土 | 炭化粒を少量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 3 黄褐色土 | ローム粒を中量、炭化粒を微量含む。
しまりやや強く、粘性普通。 |
| 4 黒褐色土 | ローム粒・炭化粒を少量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 5 褐色土 | ローム粒を中量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 6 暗褐色土 | ロームブロックを少量、炭化物を微量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 7 暗褐色土 | 炭化粒を少量含む。
しまり・粘性普通。 |
| 8 黒褐色土 | ローム粒を微量含む。
しまり・粘性弱い。 |
| 9 暗褐色土 | ロームブロック・炭化物を微量含む。
しまり・粘性普通。 |



第39図 第2～7号ピット (Pit 2～Pit 7 : 1/60)

第3号ピット (Pit 3) (第39図)

[位置] 調査区西部

[構造] 径36cm、深さ45cmを測る。平面形は円形を呈する。

[覆土] 暗褐色土を基調とし、3層に分層される。

[時期] 時期不明

第4号ピット (Pit 4) (第39図)

[位置] 調査区西部

[構造] 径20cm、深さ56cmを測る。平面形は円形を呈する。

[時期] 時期不明

第5号ピット (Pit 5) (第39図)

[位置] 調査区西部

[構造] 長軸24cm、短軸23cm、深さ44cmを測る。平面形は隅丸方形を呈する。

[時期] 時期不明

第6号ピット (Pit 6) (第39図)

[位置] 調査区西部

[構造] 径35cm、深さ46cmを測る。平面形は楕円形を呈する。

[時期] 時期不明

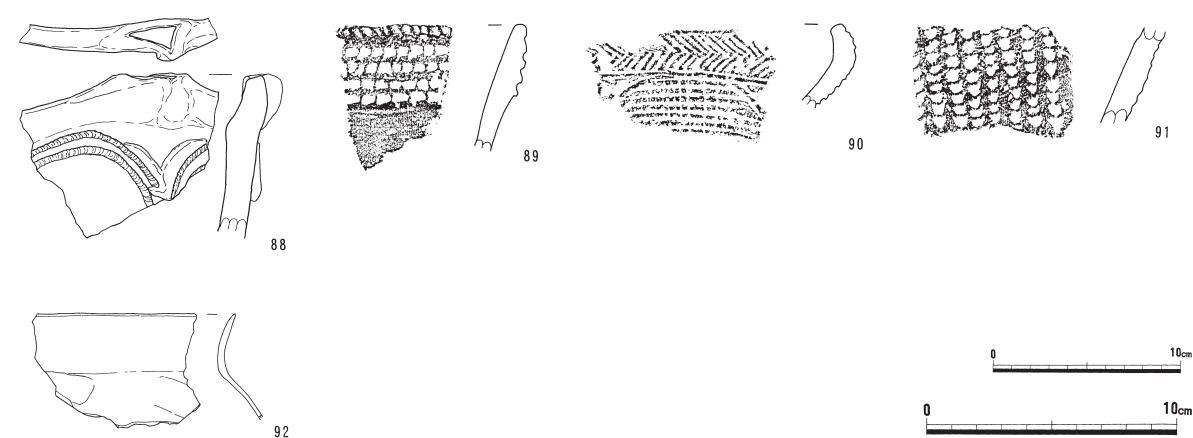
第7号ピット (Pit 7) (第39図)

[位置] 調査区西部

[構造] 長軸76cm、短軸72cm、深さ72cmを測る。平面形は不整形を呈する。

[覆土] 暗褐色土を基調とし、6層に分層される。

[時期] 時期不明

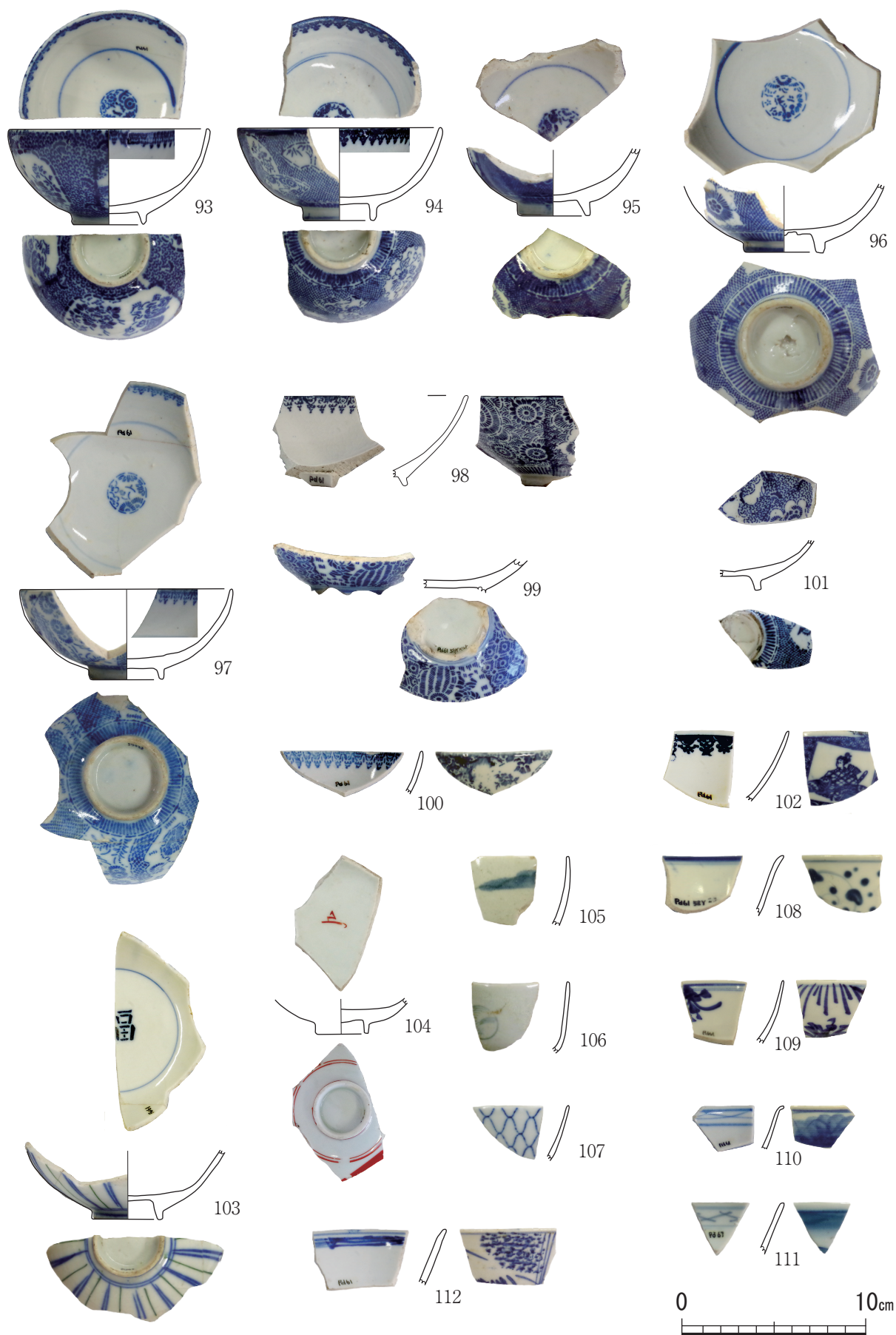


第40図 遺構外出土土器 (1/3、1/4)

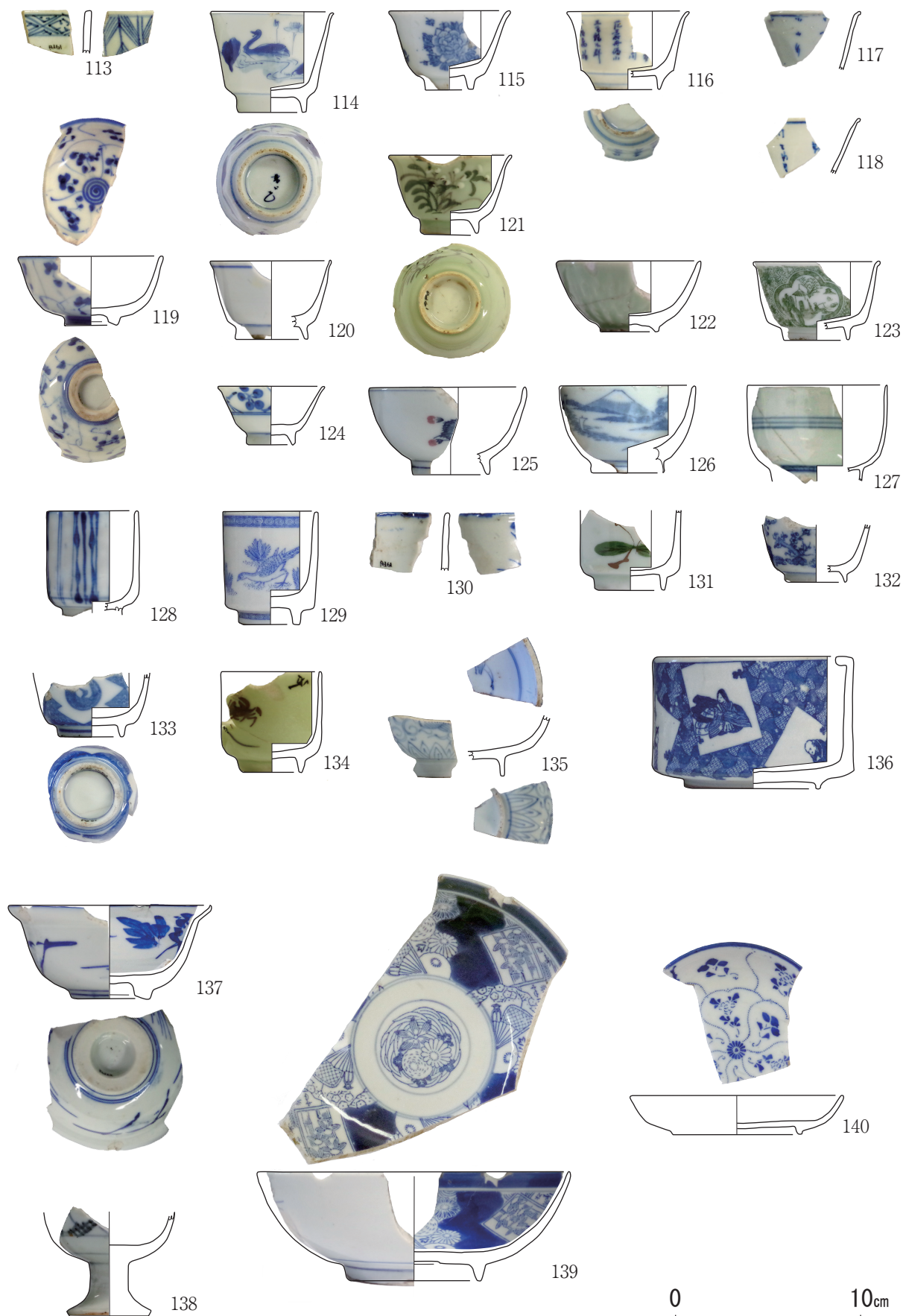
No	種別	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
88	縄文土器 深鉢	—	—	(6.5)	褐色	石英 砂粒 雲母	貼付文と2条の平行する押引文 による区画
89	縄文土器 深鉢	—	—	(5.0)	橙色	石英 小礫 長石	口唇部に刻み 押引文
90	縄文土器 深鉢	—	—	(3.3)	橙色	石英 小礫 砂粒	櫛歯状工具による施文
91	縄文土器 深鉢	—	—	(3.8)	橙色	石英 小礫 砂粒 白色粒子	半裁竹管による押引文
92	土師器 小形甕	—	—	(5.6)	橙色	石英 砂粒 角閃石 白色粒子	外面：ヘラ割り 内面：ナデ

※ () は現存の規格

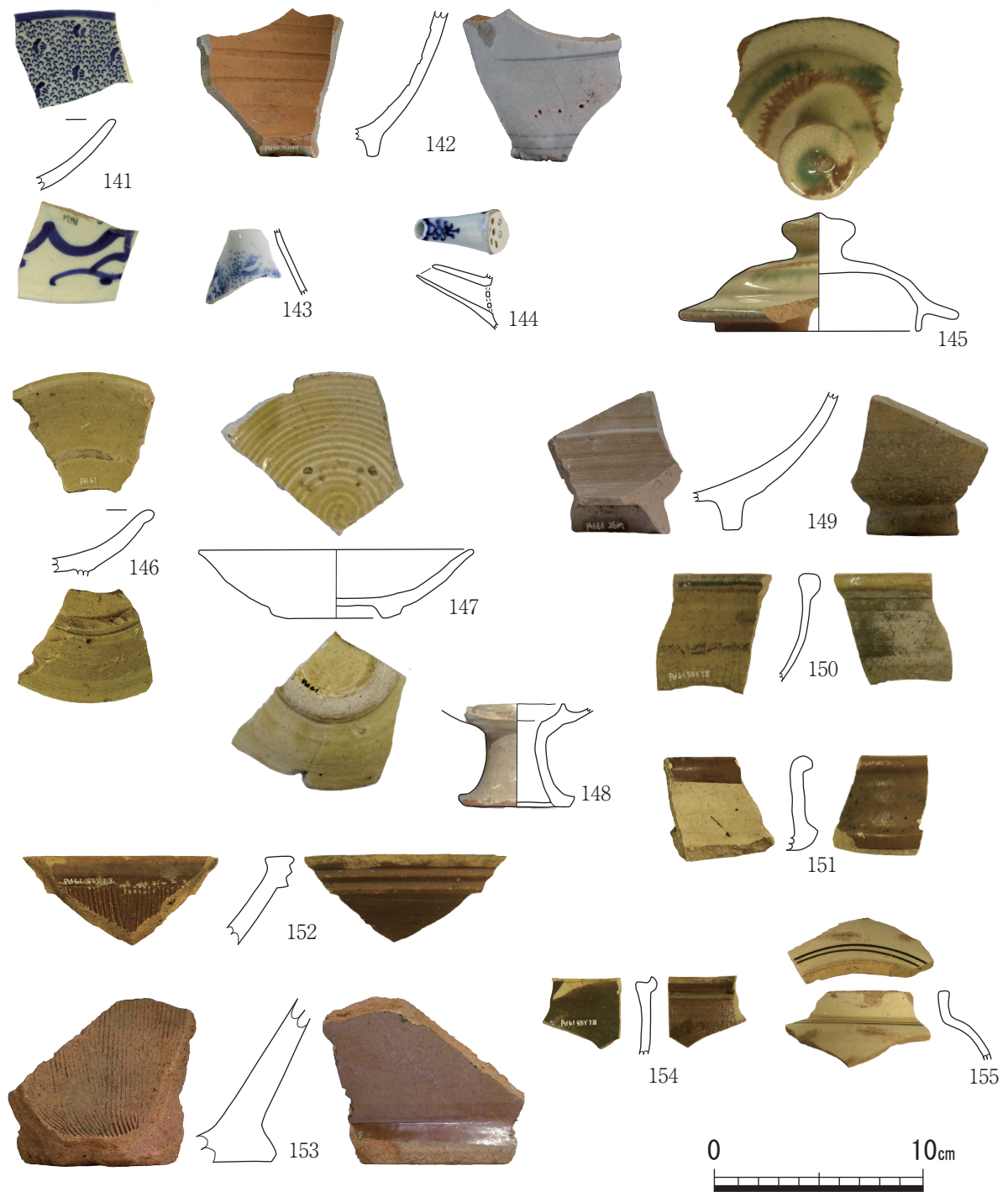
第25表 遺構外出土土器観察表



第41図 遺構外出土陶磁器1 (1/3)



第42図 遺構外出土陶磁器2 (1/3)



第43図 遺構外出土陶磁器3 (1/3)

No	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	釉薬	技法・文様・推定年代・推定生産地
93	磁器 碗	11.0	3.9	5.2	白色	透明釉	型紙摺り 外面微塵唐草文 獅子・牡丹文 内面環珞文 見込み圏線・松竹梅丸文 1880年代～
94	磁器 碗	11.2	4.0	5.0	白色	透明釉	型紙摺り 外面鹿の子文 扇文 蓮弁 内面環珞文 見込み圏線・松竹梅丸文 1880年代～
95	磁器 碗	—	4.2	(4.6)	白色	透明釉	型紙摺り 外面鹿の子文 蓮弁 見込み圏線・松竹梅丸文 1880年代～
96	磁器 碗	—	4.4	(3.6)	白色	透明釉	型紙摺り 外面鹿の子文 花文 蓮弁 見込み圏線・松竹梅丸文 1880年代～
97	磁器 碗	11.6	4.0	4.9	白色	透明釉	型紙摺り 外面鹿の子文 花文 蓮弁 内面環珞文 見込み圏線・松竹梅丸文 1880年代～
98	磁器 碗	—	—	(4.9)	白色	透明釉	型紙摺りカ 外面青海波文 花文 蓮弁 内面環珞文
99	磁器 碗	—	—	(1.7)	白色	透明釉	型紙摺り 外面菱形文
100	磁器 碗	—	—	(2.3)	白色	透明釉	型紙摺りカ 外面文様あり 内面環珞文
101	磁器 碗か	—	—	(2.7)	白色	透明釉	型紙摺り 外面鹿の子文 蓮弁 内面微塵唐草文
102	磁器 碗	—	—	(3.8)	白色	透明釉	型紙摺り 外面麻葉文 武人 内面環珞文
103	磁器 碗	—	3.9	(3.7)	白色	透明釉	外面放射文 (青・緑) 圏線 見込み圏線 「福」字
104	磁器 碗	—	2.9	(1.9)	白色	透明釉	上絵付 (赤) 見込み帆掛け舟文
105	磁器 碗	—	—	(3.7)	白色	透明釉	肥前産 くらわんか碗
106	磁器 碗	—	—	(3.8)	白色	透明釉	外面文様あり
107	磁器 碗	—	—	(3.0)	白色	透明釉	外面網目文
108	磁器 碗	—	—	(3.3)	白色	透明釉	端反碗 外面文様あり 内面圏線
109	磁器 碗	—	—	(3.4)	白色	透明釉	コバルト染付 外面笹文カ 内面圏線
110	磁器 碗	—	—	(2.3)	白色	透明釉	端反碗 外面文様あり 内面連鎖文
111	磁器 碗	—	—	(2.8)	白色	透明釉	端反碗 外面文様あり 内面四方襷カ
112	磁器 碗	—	—	(3.0)	白色	透明釉	端反碗 コバルト染付 外面草花文カ 内面連鎖文カ
113	磁器 筒形碗か	—	—	(2.3)	白色	透明釉	外面矢羽根文 内面四方襷 肥前産

※ () は現存の規格

第26表 遺構外出土陶磁器観察表1

No	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	釉薬	技法・文様・推定年代・推定生産地
114	磁器 小坏	6.6	3.8	5.4	白色	透明釉	ロクロ型打成形 端反形 外面水鳥文 高台内圏線・銘
115	磁器 小坏	6.6	2.6	4.3	白色	透明釉	銅版転写 端反形 外面薔薇文 1890年～ 瀬戸・美濃産
116	磁器 小坏	6.6	4.2	3.5	白色	透明釉	端反形 外面漢詩文 圏線 高台内圏線
117	磁器 小坏	—	—	(3.2)	白色	透明釉	ロクロ型打成形 端反形 外面漢詩文 圏線
118	磁器 小坏	—	—	(3.0)	白色	透明釉	端反形 外面漢詩文 圏線
119	磁器 小坏	7.8	3.0	3.7	白色	透明釉	コバルト染付 外内面霊芝・捻花文 1870年代～ 瀬戸・美濃産
120	磁器 小坏	6.5	3.9	4.2	白色	透明釉	端反形 外面圏線
121	磁器 小坏	6.6	3.0	4.2	白色	青磁釉	クロム青磁 端反形 草花文 イッチン描き 1880年代～ 瀬戸・美濃産
122	磁器 小坏	7.8	3.2	3.8	白色	青磁釉	クロム青磁 ロクロ型打成形 1880年代～ 瀬戸・美濃産
123	磁器 小坏	6.9	3.6	4.2	白色	透明釉	銅版転写カ 端反形
124	磁器 小坏	5.8	2.6	3.1	白色	透明釉	端反形 薄手 コバルト染付 外面梅樹文 圏線
125	磁器 湯呑碗	7.9	4.2	4.7	白色	透明釉	外面文様あり 圏線
126	磁器 湯呑碗	6.4	4.0	4.7	白色	透明釉	外面富士山・山水文 圏線
127	磁器 湯呑碗	7.5	—	(5.2)	白色	透明釉	外面圏線
128	磁器 湯呑碗	5.0	—	(5.5)	白色	透明釉	コバルト染付 筒形 外面よろけ縞文 瀬戸・美濃産
129	磁器 湯呑碗	5.2	3.2	6.1	白色	透明釉	銅板転写 筒形 外面雄雉・雌雉文 渦巻文 1890年～ 瀬戸・美濃産
130	磁器 湯呑碗	—	—	(3.1)	白色	透明釉	コバルト染付 筒形 外面文様あり
131	磁器 湯呑碗	—	3.7	(4.2)	白色	青磁釉	クロム青磁 筒形 外面草木文 1880年代～ 瀬戸・美濃産
132	磁器 湯呑碗	—	3.1	(3.1)	白色	透明釉	銅板転写 外面梅樹文 1890年～ 瀬戸・美濃産
133	磁器 湯呑碗	—	3.4	(3.3)	白色	透明釉	銅版転写 鶴丸文 1890年～ 瀬戸・美濃産
134	磁器 湯呑碗	5.4	3.3	5.4	白色	青磁釉	クロム青磁 外面蟹文 1880年代～
135	磁器 碗類	—	—	(3.2)	白色	透明釉	外面渦巻文カ 蓮弁・圏線 内面文様あり 圏線
136	磁器 香炉	10.8	7.2	(7.1)	白色	透明釉	型紙摺り 外面平安貴族・僧侶絵
137	磁器 小鉢	11.0	4.4	(5.0)	白色	透明釉	コバルト染付 口縁部湾曲 外内面草文カ 圏線
138	磁器 仏飯器	—	4.2	(5.6)	白色	透明釉	外面斜格子文・菊花散らし 圏線 肥前産
139	磁器 鉢	16.8	7.2	5.6	白色	透明釉	内面菊丸文 等
140	磁器 小皿	11.5	7.0	(2.1)	白色	透明釉	コバルト染付カ 内面霊芝・捻花文カ
141	磁器 皿	—	—	(3.4)	白色	透明釉	型紙摺りカ 端反形 外面文様あり 内面微塵唐草文
142	磁器 瓶類	—	—	(7.0)	白色	透明釉	外面文様あり 圏線 内面無釉
143	磁器 燗德利	—	—	(3.0)	白色	透明釉	型紙摺り 外面雲鶴文 1880年代～

※ () は現存の規格

第27表 遺構外出土陶磁器観察表2

No	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	釉薬	技法・文様・推定年代・推定生産地
144	磁器 急須か	—	—	(3.1)	白色	透明釉	コバルト染付 注ぎ口部 外面文様あり
145	陶器 土瓶蓋 か	9.8	—	5.6	黄褐色	灰釉	外面：茶と緑の掛け流し文様
146	陶器 皿	7.8	3.0	(3.1)	褐色	灰釉	瀬戸・美濃産
147	陶器 皿	13.2	6.2	3.3	褐色	灰釉	内面白泥刷毛目 瀬戸・美濃産
148	陶器 灯明皿	—	5.6	(4.9)	灰白色	灰釉	瀬戸・美濃産
149	陶器 鉢類	—	—	(6.6)	赤褐色	灰釉か	内面白泥刷毛目
150	陶器 鉢類	—	—	(5.2)	黄褐色	灰釉	内面から口縁部外面に施釉
151	陶器 香炉	—	—	(4.5)	褐色	鉄釉	外面から口縁部内面に施釉
152	陶器 擂鉢	—	—	(4.2)	黄褐色	錆釉	内面擂目
153	陶器 擂鉢	—	—	(7.3)	赤褐色	鉄釉か	内面擂目 外面施釉
154	陶器 行平か	—	—	(3.7)	黄褐色	鉄釉	外面飛び匏
155	陶器 土瓶	—	—	(3.3)	黄褐色	灰釉	頸部に二重圈線

※ () は現存の規格

第28表 遺構外出土陶磁器観察表3

付章 自然科学分析（炭化材樹種同定）

パリオ・サーヴェイ株式会社 赤堀岳人・田中義文

はじめに

観音前遺跡（富士見市大字水子所在）は、河川と低地に挟まれた台地縁辺部に立地する。今回は、平安時代の住居跡から検出された炭化材の種類を知り、用材に関する情報を得る。

1. 試料

試料は、観音前遺跡第61地点の平安時代の第41号住居跡（41H）から検出された炭化材4点（試料番号①、②、③、④）である。

2. 分析方法

双眼実体顕微鏡で観察し、剃刀を用いて木口（横断面）・柁目（放射断面）・板目（接線断面）の割断面を作成する。電子顕微鏡で観察し、木材組織の種類や配列の特徴を、現生標本や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler 他（1998）、Richter 他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）を参考にする。

3. 結果

（1）炭化材同定

結果を表1に示す。検出された種類は、いずれもコナラ亜属クヌギ節である。以下に検出された種類の解剖学的特徴を述べる。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Cerris*）ブナ科

環孔材で、孔圏部は1～3列、孔圏外で急激に径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

遺構	試料番号	樹種
第41号住居跡（41H）	①	コナラ亜属クヌギ節
	②	コナラ亜属クヌギ節
	③	コナラ亜属クヌギ節
	④	コナラ亜属クヌギ節

第29表 樹種同定結果

4. 考察

コナラ亜属クヌギ節は、河川沿いや人里近くの明るい林地に生育し、多湿なところを好む傾向にある。遺跡周辺には河川や低地があることから、クヌギ節が生育しやすい環境にあったと思われる。クヌギ節はクリやコナラ節とともに「里山林」を構成する。里山林は、適度な伐採や粗朶の収奪などが行われることにより維持管理される森林で、萌芽による更新が容易な陽樹で構成される。当時周辺には里山林が存在していたと思われる。クヌギ属は比較的重硬な木材で、成長が早く、大きな木材が得やすい。このことから、入手が容易なクヌギ節を住居構築材として用いられたものとみられる。なお、県内の住居跡から出土した古墳時代～平安時代の炭化材を、出土木製品用材データベース（伊東・山田編, 2012）でみると、コナラ亜属コナラ節とともにクヌギ節が多い傾向にある。

引用文献

林 昭三 1991 日本産木材顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
伊東隆夫 1995 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.
伊東隆夫 1996 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.
伊東隆夫 1997 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.
伊東隆夫 1998 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.
伊東隆夫 1999 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.
伊東隆夫・山田昌久（編）2012 木の考古学 出土木製品用材データベース. 海青社, 449p.

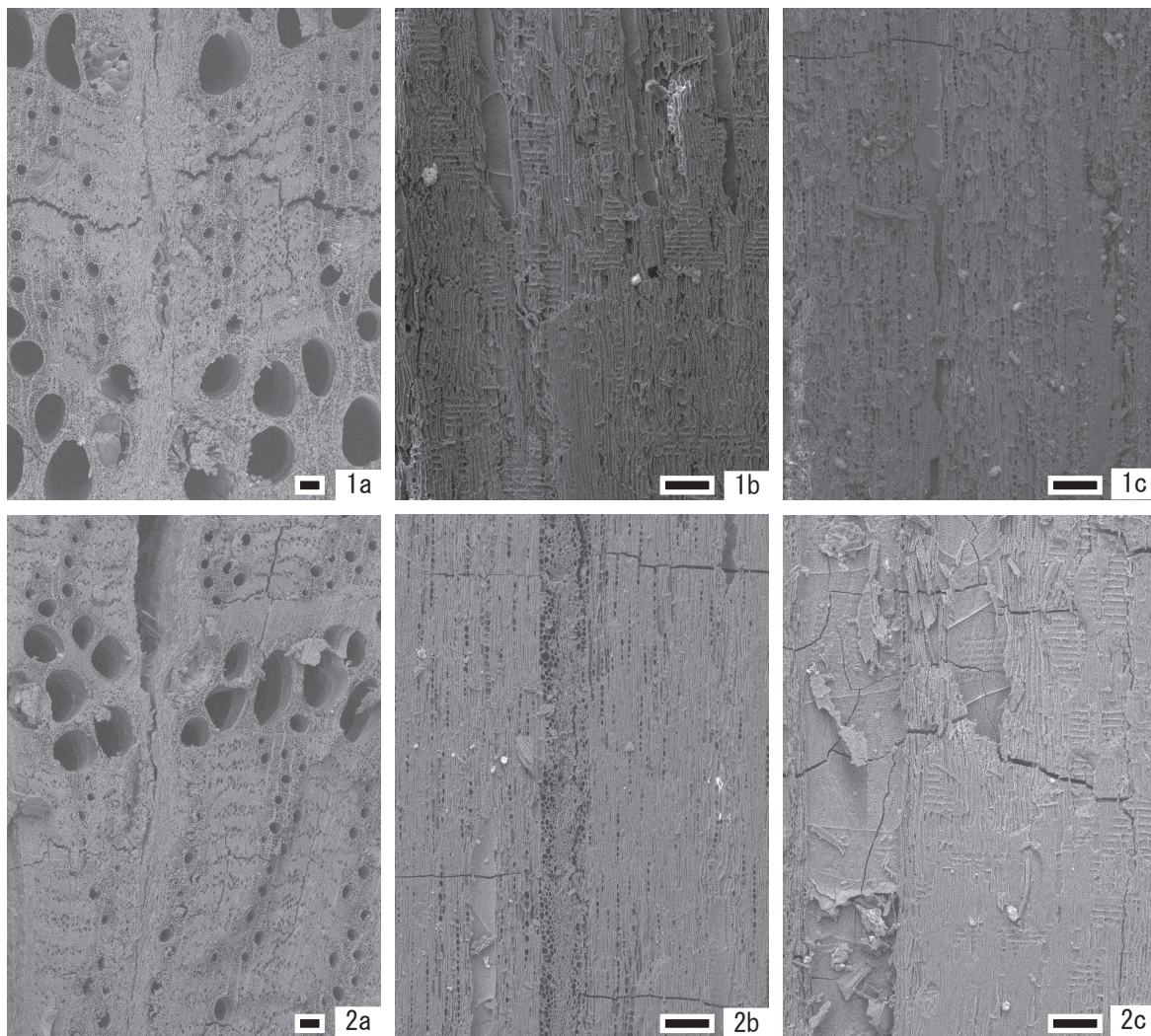
Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編)
2006 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特
徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部久・
内海泰弘（日本語版監修），海青社，70p.

[Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E.
(2004) IAWA List of Microscopic Features for Soft-
wood Identification].

島地 謙・伊東隆夫 1982 図説木材組織. 地球社, 176p.

Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編) 1998 広葉樹
材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊
東隆夫・藤井智之・佐伯浩（日本語版監修），海青社，
122p.

[Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989)
IAWA List of Microscopic Features for Hardwood-
Identification].



1. コナラ垂属クヌギ節 (試料番号2)
2. コナラ垂属クヌギ節 (試料番号5)

a: 木口 b: 柁目 c: 板目
スケールは100 μ m

第44図 炭化材



〔1〕第53号住居跡完掘状況（53 Y）



〔2〕第54号住居跡完掘状況（54 Y）



〔3〕第54号住居跡遺物出土状況（54 Y）



〔4〕第55号住居跡完掘状況（55 Y）



〔5〕第55号住居跡遺物出土状況 1（55 Y）



〔6〕第55号住居跡遺物出土状況 2（55 Y）



〔7〕第55号住居跡炉跡完掘状況（55 Y）



〔8〕第55号住居跡炉跡断割状況（55 Y）

写真図版2



〔1〕第56号住居跡完掘状況（56 Y）



〔2〕第39・57号住居跡完掘状況（39 H・57 Y）



〔3〕第58号住居跡完掘状況（58 Y）



〔4〕第59号住居跡・第24号溝跡完掘状況（59 Y・24 M）



〔5〕第60号住居跡完掘状況1（60 Y）



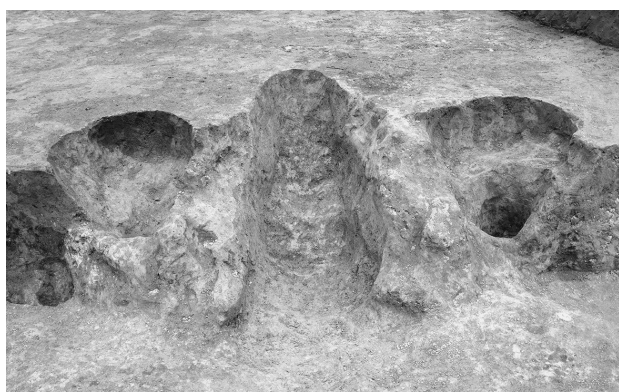
〔6〕第60号住居跡完掘状況2（60 Y）



〔7〕第36号住居跡完掘状況（36 H）



〔8〕第36号住居跡遺物出土状況（36 H）



〔1〕第36号住居跡カマド完掘状況（36 H）



〔2〕第36号住居跡カマド遺物出土状況（36 H）



〔3〕第37号住居跡完掘状況（37 H）



〔4〕第37号住居跡遺物出土状況（37 H）



〔5〕第37号住居跡調査風景（37 H）



〔6〕第38号住居跡遺物出土状況1（38 H）



〔7〕第38号住居跡遺物出土状況2（38 H）



〔8〕第38号住居跡遺物出土状況3（38 H）

写真図版4



〔1〕第38号住居跡調査風景（38 H）



〔2〕第40号住居跡完掘状況（40 H）



〔3〕第41号住居跡完掘状況（41 H）



〔4〕第41号住居跡遺物出土状況1（41 H）



〔5〕第41号住居跡遺物出土状況2（41 H）



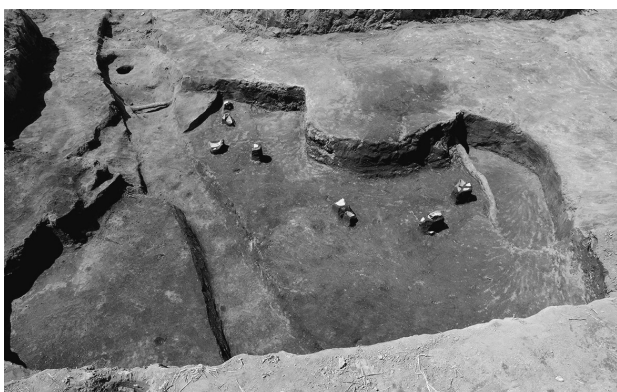
〔6〕第41号住居跡遺物出土状況3（41 H）



〔7〕第41号住居跡炭化材出土状況1（41 H）



〔8〕第41号住居跡炭化材出土状況2（41 H）



〔1〕 第42号住居跡遺物出土状況（42 H）



〔2〕 第42号住居跡カマド土層断面状況（42 H）



〔3〕 第25号溝跡土層断面状況（25 M）



〔4〕 調査区西部終了状況（南から）



〔5〕 調査区西部終了状況（北から）



〔6〕 調査区中央部終了状況（37 H・60 Y）

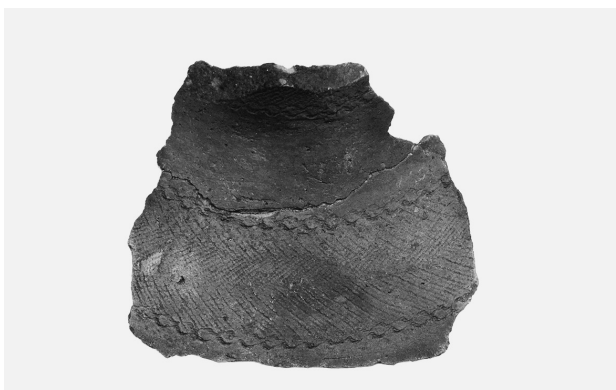


〔7〕 調査区中央部終了状況（西から）



〔8〕 調査区中央部終了状況（南から）

写真図版6



〔1〕第53号住居跡出土遺物（53 Y）（No. 1）



〔2〕第60号住居跡出土遺物（60 Y）（No.11）



〔3〕第37号住居跡出土遺物（37 H）（No.20）



〔4〕第37号住居跡出土遺物（37 H）（No.28）



〔5〕第37号住居跡出土遺物 凹面（37 H）（No.38）



〔6〕第37号住居跡出土遺物 凸面（37 H）（No.38）



〔7〕第38号住居跡出土遺物（38 H）（No.44）



〔8〕第38号住居跡出土遺物（38 H）（No.51）



〔1〕 第38号住居跡出土遺物 凹面 (38 H) (No.53)



〔2〕 第38号住居跡出土遺物 凸面 (38 H) (No.53)



〔3〕 第41号住居跡出土遺物 (41 H) (No.70)



〔4〕 第41号住居跡出土遺物 墨書 (41 H) (No.70)



〔5〕 第41号住居跡出土遺物 (41 H) (No.71)



〔6〕 第41号住居跡出土遺物 墨書 (41 H) (No.71)



〔7〕 第41号住居跡出土遺物 (41 H) (No.76)



〔8〕 第42号住居跡出土遺物 (42 H) (No.83)

報告書抄録

ふりがな	かんのんまえいせきだい61ちてんはくつちょうさほうこくしょ							
書名	観音前遺跡第61地点発掘調査報告書				巻次			
副書名								
シリーズ名	富士見市遺跡調査会調査報告				巻次	第83集		
編著者名	佐藤一也							
編集機関	富士見市遺跡調査会							
所在地	埼玉県富士見市大字鶴馬1873-1 ㊦ 354-0021 tel 049-252-7138							
発行年月日	2023年3月31日							
所収遺跡	所在地		コード		北緯／東経 (日本測地系による)	調査期間 (上段:試掘、下段:本調査)	面積	調査原因
市町村			遺跡番号					
観音前遺跡 第61地点	大字水子 1846番1、1855番1、1855番2、 1856番1、1857番、1858番1		112356	24-044	35° 50′ 40″ 139° 34′ 02″	2021年2月16日～2月22日 2021年5月10日～6月21日	2581.31 m ²	宅地造成 分譲住宅
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
観音前遺跡 第61地点	集落跡	縄文時代	土坑 炬跡	1基 2基	縄文土器片	—		
		弥生時代	竪穴住居跡	8軒	台付甕、壺	—		
		平安時代	竪穴住居跡	7軒	須恵器坏、坏蓋、甕 土師器甕、砥石、鎌	竪穴住居跡から布目瓦が出土している。また、第41号住居跡(41H)から「福」と書かれた墨書土器2点が出土し、住居跡中央部の床面から炭化材がまとまって出土した。		
		時期不明	溝跡 土坑 ビット	4条 16基 7基	—	—		
要約								
【観音前遺跡第61地点】 観音前遺跡北西部に位置する第61地点の発掘調査が行われ、弥生時代後期の竪穴住居跡7軒、平安時代の竪穴住居跡8軒等が検出された。確認された平安時代の竪穴住居跡からは、「福」と墨書された土器2点が出土している。								

富士見市遺跡調査会調査報告 第83集

観音前遺跡第61地点
発掘調査報告書

発行 令和 5 年 3 月 31 日

編集発行 富士見市遺跡調査会
〒354-0021 埼玉県富士見市大字鶴馬 1873-1

印刷 株式会社 白峰社
〒170-0013 東京都豊島区東池袋 5-49-6